

# 福井大学大学院医学系研究科 看護学専攻 博士前期課程

Graduate School of Medicine  
Division of Nursing Science  
Master's Program

SYLLABUS

授 業 要 項  
2025

(2025.6.27更新)



# 目 次

[博士前期課程] カリキュラム・ポリシー/ディプロマ・ポリシー	5
[博士前期課程] 2025 年度 行事予定表	7
[博士前期課程] 2025 年度 看護学専攻授業時間割表	8
SDGs 対応一覧表	12
履修について	
2025 年度 授業科目一覧表	15
看護学専攻履修の手引き	16
福井大学大学院医学系研究科規程	17
福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項	21
専門看護師教育課程履修の手引き	23
福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻における 専門看護師教育課程の履修規程	24
専門看護師教育課程における「課題研究」の審査基準等に関する申合せ	27
5. 授業科目について	
共通科目	
看護研究	29
看護倫理	31
看護理論	33
看護教育論	36
看護管理論	38
看護政策論	40
コンサルテーション論	43
ヘルスアセスメント	45
病態生理学	48
臨床薬理学	51
国際地域看護学	54
保健医学統計	56
英語論文閲読	59
専門科目	
《基礎看護学》	
基礎看護学特論	62
基礎看護学演習	65
基礎看護学特別研究	67
《成人看護学》	
成人看護学特論	69
成人看護学演習	71
成人看護学特別研究	73
《がん看護学》	
がん看護学特論	75
がん看護学演習	77
がん看護学特別研究	79

《災害看護学》	
災害看護学特論	81
災害看護学演習	83
災害看護学特別研究	85
《地域看護学》	
地域看護学特論	87
地域看護学演習	89
地域看護学特別研究	91
《老年看護学》	
老年看護学特論	93
老年看護学演習	95
老年看護学特別研究	97
《精神看護学》	
精神看護学特論	99
精神看護学演習	101
精神看護学特別研究	103
《母子看護学》	
母子看護学特論	105
母子看護学演習	107
母子看護学特別研究	109
専門看護師教育課程（CNS）	
（がん看護）	
がん看護学特論Ⅰ	112
がん看護学特論Ⅱ	114
がん看護学特論Ⅲ	116
がん看護学特論Ⅳ	118
がん看護学特論Ⅴ	121
がん看護学演習Ⅰ	123
がん看護学演習Ⅱ	126
がん看護学実習Ⅰ	129
がん看護学実習Ⅱ	131
がん看護学実習Ⅲ	133
がん看護学実習Ⅳ	135
がん看護学課題研究	137
（災害看護）	
災害看護学特論Ⅰ	139
災害看護学特論Ⅱ	141
災害看護学特論Ⅲ	143
災害看護学特論Ⅳ	145
災害看護学特論Ⅴ	147
災害看護学特論Ⅵ	149
災害看護学特論Ⅶ	151
災害看護学実習Ⅰ	153
災害看護学実習Ⅱ	155
災害看護学実習Ⅲ	157
災害看護学実習Ⅳ	159
災害看護学課題研究	162
（老年看護）	
老年看護学特論Ⅰ	164
老年看護学特論Ⅱ	166

老年看護学特論Ⅲ	・ ・ ・ ・ ・	168
老年看護学特論Ⅳ	・ ・ ・ ・ ・	170
老年看護学特論Ⅴ	・ ・ ・ ・ ・	172
老年看護学演習Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	174
老年看護学演習Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	177
老年看護学実習Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	180
老年看護学実習Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	183
老年看護学実習Ⅲ	・ ・ ・ ・ ・	186
老年看護学課題研究	・ ・ ・ ・ ・	190

## [博士前期課程] カリキュラム・ポリシー / ディプロマ・ポリシー

### 教育課程の構成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

福井大学大学院医学系研究科修士課程では、学位授与の方針で示す能力を確実に修得させるため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

#### 1. 教育課程の編成の方針

高度な研究能力と看護実践能力を有し、自律して看護学研究や教育、看護実践を遂行できる研究者・教育者・看護実践者を育成するため、看護学分野に研究コースと高度実践コースを設け、以下の方針に則りカリキュラムを編成する。

#### 2. カリキュラム編成

CP1) 国際的な視野と科学的な分析能力を身に付け、自己の専門分野と他の専門分野・学問領域との関連を理解しながら、地域で生じる多様な看護課題を自ら探求し、解決に導く能力を養う。

CP2) 研究コースでは、自己研鑽能力を高めつつ、論理的・批判的思考に基づく研究計画・実行、意見交換、成果報告に必要な能力を養う。

CP3) 高度実践コースでは、看護学の知識・技術を活用して対象者の治療・療養・生活過程全般を統合・管理し、高度な看護ケアを提供する能力、および実践、教育、相談、研究、調整、倫理という6つの能力を駆使し、看護活動を創意工夫して変革する能力を養う。

#### 3. 学修評価

研究・学修成果の評価は、「福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」に基づき評価を行う。

共通科目、専門科目、専門看護師教育科目の評価にあたっては、以下の各観点を重視する。

1) 国際的な視野と科学的な分析能力を身に付け、看護学と他の専門分野との関連を理解した上で、地域で生じる多様な看護課題を自ら探求し、解決に導く能力を習得しているか。

2) 研究コースでは、論理的・批判的思考に基づく研究計画・実行、意見交換、成果報告に必要な能力を習得しているか。

3) 高度実践コースでは、看護対象者の治療・療養・生活過程全般を統合・管理し、高度な看護ケアを提供する能力、および実践、教育、相談、研究、調整、倫理という6つの能力を駆使し、看護活動を変革する能力を習得しているか。

博士前期課程で実施する教育をより良いものとしていくため、随時、研究成果について多角的・総合的な評価と検証を行い、継続的な改善に努める。

#### 4. 学位論文審査

学位論文の審査は学位審査基準に従い、論文内容の信頼性及び発展性等の観点から厳格に審査する。

## 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学大学院の学位授与方針及び修了後の進路等社会のニーズを踏まえ、所定の年限在籍し、体系的な教育課程により学業を修め、必要な研究指導を受けた上で修士論文の審査および最終試験に合格し、かつ、高い倫理観と良識のもと、高度専門職業人として備えるべき以下の全ての能力を修得した者に対し、修士（看護学）の学位を授与する。

1. 高度な看護理論・技術に裏打ちされた実践能力と研究遂行力
2. 看護専門分野における国際的な視野と科学的な分析能力
3. 地域を視野に入れ、地域医療に資する看護課題を自ら見つけ、行動することができる能力
4. 研究コースでは、自らの知識と技術を磨く自己研鑽能力、科学的・理論的に判断し説明する能力、及び医学・看護学の発展のために研究を計画・実行し、その成果を発信できる能力
5. 高度実践コースでは、高度な看護学の知識・技術を活用して対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、高度な看護ケアを提供できる能力、及び高度な実践、教育、相談、研究、調整、倫理の6つの能力を駆使し、看護活動を創意工夫して変革できる能力

# 博士前期課程看護学専攻 2025（令和7）年度行事予定表

月	日	曜日	行 事 等	備 考
4	6	日	入学式	
	7	月	新入生オリエンテーション	
	9	水	前期授業開始	前期授業期間：4月10日～8月5日
	14	月	定期健康診断(13：00～16：00（予）)	(社会人学生の方は勤務先での健康診断で可)
	15	火	前期 履修届提出期限	前期履修登録期間：4月9日～15日
5	16	金	中間研究報告会	令和7年度3月修了予定者
6	6	金	専門看護師教育課程(CNS) 課題研究中間報告会	令和7年度3月修了予定者
	10	火	修士論文及びCNS課題研究 提出締切日	令和7年度9月修了予定者
	20	金	修士論文公開発表会	令和7年度9月修了予定者
	27	金	専門看護師教育課程(CNS) 課題研究最終報告会	令和7年度9月修了予定者
7	25	金	修士論文審査最終試験	令和7年度9月修了予定者
9	30	火	学位記授与式	令和7年度9月修了予定者
10	1	水	後期授業開始	後期授業期間：10月1日～2月5日
	7	火	後期 履修届提出期限	後期履修登録期間：10月1日～7日
11	26	水	中間研究報告会	令和8年度9月修了予定者
12	5	金	専門看護師教育課程(CNS) 課題研究中間報告会	令和8年度9月修了予定者
1	5	月	後期授業再開	～2月5日まで
	13	火	修士論文及びCNS課題研究 提出締切日	令和7年度3月修了予定者
	23	金	修士論文公開発表会	令和7年度3月修了予定者
2	6	金	専門看護師教育課程(CNS) 課題研究最終報告会	令和7年度3月修了予定者
3	3	火	修士論文審査最終試験	令和7年度3月修了予定者
	23	月	学位記授与式	令和7年度3月修了予定者

# 令和7年度 大学院医学系研究科 博士前期課程（看護学専攻）授業時間割表

## 1 年 次 生 前 期

時限 曜日	1 8:45～10:15	2 10:30～12:00	3 13:00～14:30	4 14:45～16:15	5 16:30～18:00	6 18:00～19:30	7 19:40～21:10
月			看護研究 (四谷 他)	看護管理論 (礪波 他)		※看護研究 (四谷 他)	※看護管理論 (礪波 他)
火			成人看護学特論 (佐藤 他) がん看護学特論Ⅰ (磯見 他) 災害看護学特論Ⅰ (佐藤 他) 老年看護学特論Ⅱ (四谷 他)	基礎看護学特論 (上原 他)		※成人看護学特論 (佐藤 他) ※がん看護学特論Ⅰ (磯見 他) ※災害看護学特論Ⅰ (佐藤 他) ※老年看護学特論Ⅱ (四谷 他)	※基礎看護学特論 (上原 他)
水			地域看護学特論 (長谷川美 他) がん看護学特論Ⅱ (磯見 他) 災害看護学特論Ⅱ (佐藤 他) 老年看護学特論Ⅲ (四谷 他)	病態生理学 (磯見 他) 国際地域看護学 (青木)		※地域看護学特論 (長谷川美 他) ※がん看護学特論Ⅱ (磯見 他) ※災害看護学特論Ⅱ (佐藤 他) ※老年看護学特論Ⅲ (四谷 他)	※病態生理学 (磯見 他) ※国際地域看護学 (青木)
木			老年看護学特論 (四谷) 老年看護学特論Ⅰ (四谷 他) がん看護学特論Ⅲ (月田 他) 災害看護学特論Ⅲ (佐藤 他)	コンサルテーション論 (上原 他)		※老年看護学特論 (四谷) ※老年看護学特論Ⅰ (四谷 他) ※がん看護学特論Ⅲ (月田 他) ※災害看護学特論Ⅲ (佐藤 他)	※コンサルテーション論 (上原 他)
金			看護理論 (上原 他)	災害看護学特論 (佐藤 他) 精神看護学特論 (川口 他) がん看護学特論 (磯見 他) 母子看護学特論 (波崎 他)		※看護理論 (上原 他)	※災害看護学特論 (佐藤 他) ※精神看護学特論 (川口 他) ※がん看護学特論 (磯見 他) ※母子看護学特論 (波崎 他)

注 1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

2 講義の開講場所は、3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）。

3 具体的なスケジュールは別途配布する日数表（講義予定）を参照のこと。



# 令和7年度 大学院医学系研究科 博士前期課程（看護学専攻）授業時間割表

## 1 年 次 生 後 期

時限 曜日	1 8:45～10:15	2 10:30～12:00	3 13:00～14:30	4 14:45～16:15	5 16:30～18:00	6 18:00～19:30	7 19:40～21:10
月	専門科目の演習 (担当教員)		災害看護学特論Ⅳ (佐藤 他)	看護政策論 (長谷川美 他)		※災害看護学特論Ⅳ (佐藤 他)	※看護政策論 (長谷川美 他)
			がん看護学特論Ⅳ (磯見 他)			※がん看護学特論Ⅳ (磯見 他)	
			老年看護学特論Ⅳ (四谷 他)			※老年看護学特論Ⅳ (四谷 他)	
火			ヘルスアセスメント (北野 他)	災害看護学特論Ⅴ (佐藤 他)		※ヘルスアセスメント (北野 他)	※災害看護学特論Ⅴ (佐藤 他)
			保健医学統計 (藤田)	がん看護学特論Ⅴ (月田 他)		※保健医学統計 (藤田)	※がん看護学特論Ⅴ (月田 他)
				老年看護学特論Ⅴ (長谷川美 他)			※老年看護学特論Ⅴ (長谷川美 他)
水			看護教育論 (波崎 他)	看護倫理 (波崎)		※看護教育論 (波崎 他)	※看護倫理 (波崎)
木			専門科目の演習及び専門 看護師教育課程（CNS）の 演習 (担当教員)	災害看護学特論Ⅵ (佐藤)		※専門科目の演習及び専門 看護師教育課程（CNS） の演習 (担当教員)	※災害看護学特論Ⅵ (佐藤)
				専門科目の演習及び専門 看護師教育課程（CNS）の 演習 (担当教員)			※専門科目の演習及び専門 看護師教育課程（CNS） の演習 (担当教員)
金			臨床薬理学 (四谷 他)	災害看護学特論Ⅶ (佐藤)		※臨床薬理学 (四谷 他)	※災害看護学特論Ⅶ (佐藤)
			英語論文閲読 (宇隨 他)	専門科目の演習及び専門 看護師教育課程（CNS）の 演習 (担当教員)		※英語論文閲読 (宇隨 他)	※専門科目の演習及び専門 看護師教育課程（CNS） の演習 (担当教員)

注 1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

2 専門科目の演習は、専門科目ごとに担当教員の指導により 4 単位（120時間）の授業を行う。

3 老年看護学の実習は、別途連絡します。

4 講義の開講場所は、3 階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）。

5 具体的なスケジュールは別途配布する日数表（講義予定）を参照のこと。

# 令和7年度 大学院医学系研究科 博士前期課程（看護学専攻）授業時間割表

## 2 年 次 生 前 期

時限 曜日	1	2	3	4	5	6	7
	8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:00～19:30	19:40～21:10
月	特別研究・課題研究 (担当教員)					※特別研究・課題研究 (担当教員)	
	専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習 (担当教員)					※専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習 (担当教員)	
火	特別研究・課題研究 (担当教員)					※特別研究・課題研究 (担当教員)	
	専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習 (担当教員)					※専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習 (担当教員)	
水	特別研究・課題研究 (担当教員)					※特別研究・課題研究 (担当教員)	
	専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習 (担当教員)					※専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習 (担当教員)	
木	特別研究・課題研究 (担当教員)					※特別研究・課題研究 (担当教員)	
	専門看護師教育課程（CNS）の実習 (担当教員)					※専門看護師教育課程（CNS）の実習 (担当教員)	
金	特別研究・課題研究 (担当教員)					※特別研究・課題研究 (担当教員)	
	専門看護師教育課程（CNS）の実習 (担当教員)					※専門看護師教育課程（CNS）の実習 (担当教員)	

注 1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

2 特別研究は、専門科目ごとに担当教員の指導により12単位（360時間）の授業を行うものとする。

3 専門看護師教育課程(CNS)の課題研究は、担当教員の指導により2単位（60時間）の授業を行うものとする。

4 専門看護師教育課程(CNS)の実習は、別途連絡します。

5 講義の開講場所は、3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）。

**令和7年度 大学院医学系研究科 博士前期課程（看護学専攻）授業時間割表**  
**2 年 次 生 後 期**

時限 曜日	1 8:45～10:15	2 10:30～12:00	3 13:00～14:30	4 14:45～16:15	5 16:30～18:00	6 18:00～19:30	7 19:40～21:10
月	特別研究・課題研究（担当教員）  専門看護師教育課程（CNS）の実習（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員）  ※専門看護師教育課程（CNS）の実習（担当教員）	
火							
水							
木							
金							

- 注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。
- 2 特別研究は、専門科目ごとに担当教員の指導により12単位（360時間）の授業を行うものとする。
- 3 専門看護師教育課程(CNS)の課題研究は、担当教員の指導により2単位（60時間）の授業を行うものとする。
- 4 専門看護師教育課程(CNS)の実習は、別途連絡します。
- 5 講義の開講場所は、3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）。

# SDGs 関連科目一覧

## 3. 全てのの人に健康と福祉を



科目名	掲載頁	科目名	掲載頁
(共通科目)		母子看護学特別研究	P109～110
看護研究	P29～30	(専門看護師教育課程)	
看護倫理	P31～32	がん看護学特論Ⅰ	P112～113
看護理論	P33～35	がん看護学特論Ⅱ	P114～115
看護教育論	P36～37	がん看護学特論Ⅲ	P116～117
看護管理論	P38～39	がん看護学特論Ⅳ	P118～120
看護政策論	P40～42	がん看護学特論Ⅴ	P121～122
コンサルテーション論	P43～44	がん看護学演習Ⅰ	P123～125
ヘルスアセスメント	P45～47	がん看護学演習Ⅱ	P126～128
病態生理学	P48～50	がん看護学実習Ⅰ	P129～130
臨床薬理学	P51～53	がん看護学実習Ⅱ	P131～132
国際地域看護学	P54～55	がん看護学実習Ⅲ	P133～134
保健医学統計	P56～58	がん看護学実習Ⅳ	P135～136
		がん看護学課題研究	P137～138
(専門科目)		災害看護学特論Ⅰ	P139～140
基礎看護学特論	P62～64	災害看護学特論Ⅱ	P141～142
基礎看護学演習	P65～66	災害看護学特論Ⅲ	P143～144
基礎看護学特別研究	P67～68	災害看護学特論Ⅳ	P145～146
成人看護学特論	P69～70	災害看護学特論Ⅴ	P147～148
成人看護学演習	P71～72	災害看護学特論Ⅵ	P149～150
成人看護学特別研究	P73～74	災害看護学特論Ⅶ	P151～152
がん看護学特論	P75～76	災害看護学実習Ⅰ	P153～154
がん看護学演習	P77～78	災害看護学実習Ⅱ	P155～156
がん看護学特別研究	P79～80	災害看護学実習Ⅲ	P157～158
災害看護学特論	P81～82	災害看護学実習Ⅳ	P159～161
災害看護学演習	P83～84	災害看護学課題研究	P162～163
災害看護学特別研究	P85～86	老年看護学特論Ⅰ	P164～165
地域看護学特論	P87～88	老年看護学特論Ⅱ	P166～167
地域看護学演習	P89～90	老年看護学特論Ⅲ	P168～169
地域看護学特別研究	P91～92	老年看護学特論Ⅳ	P170～171
老年看護学特論	P93～94	老年看護学特論Ⅴ	P172～173
老年看護学演習	P95～96	老年看護学演習Ⅰ	P174～176
老年看護学特別研究	P97～98	老年看護学演習Ⅱ	P177～179
精神看護学特論	P99～100	老年看護学実習Ⅰ	P180～182
精神看護学演習	P101～102	老年看護学実習Ⅱ	P183～185
精神看護学特別研究	P103～104	老年看護学実習Ⅲ	P186～189
母子看護学特論	P105～106	老年看護学課題研究	P190～191
母子看護学演習	P107～108		

#### 4.質の高い教育をみんなに



科目名	掲載頁	科目名	掲載頁
(共通科目)		母子看護学特別研究	P109～110
看護研究	P29～30	(専門看護師教育課程)	
看護倫理	P31～32	がん看護学特論Ⅰ	P112～113
看護理論	P33～35	がん看護学特論Ⅱ	P114～115
看護教育論	P36～37	がん看護学特論Ⅲ	P116～117
看護管理論	P38～39	がん看護学特論Ⅳ	P118～120
看護政策論	P40～42	がん看護学特論Ⅴ	P121～122
コンサルテーション論	P43～44	がん看護学演習Ⅰ	P123～125
ヘルスアセスメント	P45～47	がん看護学演習Ⅱ	P126～128
病態生理学	P48～50	がん看護学実習Ⅰ	P129～130
臨床薬理学	P51～53	がん看護学実習Ⅱ	P131～132
国際地域看護学	P54～55	がん看護学実習Ⅲ	P133～134
保健医学統計	P56～58	がん看護学実習Ⅳ	P135～136
英語論文閲読		がん看護学課題研究	P137～138
(専門科目)		災害看護学特論Ⅰ	P139～140
基礎看護学特論	P62～64	災害看護学特論Ⅱ	P141～142
基礎看護学演習	P65～66	災害看護学特論Ⅲ	P143～144
基礎看護学特別研究	P67～68	災害看護学特論Ⅳ	P145～146
成人看護学特論	P69～70	災害看護学特論Ⅴ	P147～148
成人看護学演習	P71～72	災害看護学特論Ⅵ	P149～150
成人看護学特別研究	P73～74	災害看護学特論Ⅶ	P151～152
がん看護学特論	P75～76	災害看護学実習Ⅰ	P153～154
がん看護学演習	P77～78	災害看護学実習Ⅱ	P155～156
がん看護学特別研究	P79～80	災害看護学実習Ⅲ	P157～158
災害看護学特論	P81～82	災害看護学実習Ⅳ	P159～161
災害看護学演習	P83～84	災害看護学課題研究	P162～163
災害看護学特別研究	P85～86	老年看護学特論Ⅰ	P164～165
地域看護学特論	P87～88	老年看護学特論Ⅱ	P166～167
地域看護学演習	P89～90	老年看護学特論Ⅲ	P168～169
地域看護学特別研究	P91～92	老年看護学特論Ⅳ	P170～171
老年看護学特論	P93～94	老年看護学特論Ⅴ	P172～173
老年看護学演習	P95～96	老年看護学演習Ⅰ	P174～176
老年看護学特別研究	P97～98	老年看護学演習Ⅱ	P177～179
精神看護学特論	P99～100	老年看護学実習Ⅰ	P180～182
精神看護学演習	P101～102	老年看護学実習Ⅱ	P183～185
精神看護学特別研究	P103～104	老年看護学実習Ⅲ	P186～189
母子看護学特論	P105～106	老年看護学課題研究	P190～191
母子看護学演習	P107～108		

# 履修について

## 2025年度 授業科目一覧表

教育 区 研 究	授 業 科 目	配 当 年 次	開 設 単 位	履修時間数	学生の所属教育研究区分										C N S 学 生				単位修得
					講 義	演 習	実 習	基 礎	成 人	が ん	災 害	地 域	老 年	精 神	母 子	が ん	災 害	老 年	
共通科目	看護研究	1	2	30			●	●	●	●	●	●	●	●	△	△	△	指導教員の指導により下記のとおり修得しなければならない。  ●科目は必修 △科目から10単位以上選択 ☆どちらか一方、または両方を選択  基礎看護学を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●基礎看護学の3科目18単位 △共通科目又は他の特論科目から10単位以上 計30単位以上を修得	
	看護倫理	1.2	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	看護理論	1.2	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	看護教育論	1.2	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	看護管理論	1.2	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	看護政策論	1.2	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	コンサルテーション論	1.2	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
	ヘルスアセスメント	1.2	2	30			△	△	△	△	△	△	△	●	●	●			
	病態生理学	1.2	2	30			△	△	△	△	△	△	△	●	●	●			
	臨床薬理学	1.2	2	30			△	△	△	△	△	△	△	●	●	●			
	国際地域看護学	1	1	15			△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△		
専門科目	基礎看護学特論	1	2	30			●	△	△	△	△	△	△				成人看護学を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●成人看護学の3科目18単位 △共通科目又は他の特論科目から10単位以上 計30単位以上を修得		
	基礎看護学演習	1	4	120			●												
	基礎看護学特別研究	2	12	360			●												
	成人看護学特論	1	2	30			△	●	△	△	△	△	△						
	成人看護学演習	1	4	120				●											
	成人看護学特別研究	2	12	360				●											
	がん看護学特論	1	2	30			△	△	●	△	△	△	△						
	がん看護学演習	1	4	120					●										
	がん看護学特別研究	2	12	360					●					☆					
	災害看護学特論	1	2	30			△	△	△	●	△	△	△						
	災害看護学演習	1	4	120						●									
専門看護師教育課程（C N S）	基礎看護学特論	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△				がん看護学を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●がん看護学の3科目18単位 △共通科目又は他の特論科目から10単位以上 計30単位以上を修得		
	基礎看護学演習	1	4	120						●									
	基礎看護学特別研究	2	12	360						●									
	地域看護学特論	1	2	30			△	△	△	△	●	△	△	△					
	地域看護学演習	1	4	120							●								
	地域看護学特別研究	2	12	360							●								
	老年看護学特論	1	2	30			△	△	△	△	△	●	△	△					
	老年看護学演習	1	4	120								●							
	老年看護学特別研究	2	12	360								●							
	精神看護学特論	1	2	30			△	△	△	△	△	△	●	△					
	精神看護学演習	1	4	120									●						
専門看護師教育課程（C N S）	精神看護学特別研究	2	12	360									●				災害看護学を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●災害看護学の3科目18単位 △共通科目又は他の特論科目から10単位以上 計30単位以上を修得		
	母子看護学特論	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	●					
	母子看護学演習	1	4	120										●					
	母子看護学特別研究	2	12	360										●					
	がん看護学特論Ⅰ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	●				
	がん看護学特論Ⅱ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	●				
	がん看護学特論Ⅲ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	●				
	がん看護学特論Ⅳ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	●				
	がん看護学特論Ⅴ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	●				
	がん看護学演習Ⅰ	1	2	60											●				
	がん看護学演習Ⅱ	1	2	60											●				
専門看護師教育課程（C N S）	がん看護学実習Ⅰ	2	2	90											●		老年看護学を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●老年看護学の3科目18単位 △共通科目又は他の特論科目から10単位以上 計30単位以上を修得		
	がん看護学実習Ⅱ	2	2	90											●				
	がん看護学実習Ⅲ	2	4	180											●				
	がん看護学実習Ⅳ	2	2	90											●				
	がん看護学課題研究	1・2	2	60											☆				
	災害看護学特論Ⅰ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
	災害看護学特論Ⅱ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
	災害看護学特論Ⅲ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
	災害看護学特論Ⅳ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
	災害看護学特論Ⅴ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
	災害看護学特論Ⅵ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
専門看護師教育課程（C N S）	災害看護学特論Ⅶ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●		精神看護学を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●精神看護学の3科目18単位 △共通科目又は他の特論科目から10単位以上 計30単位以上を修得	
	災害看護学実習Ⅰ	2	2	90												●			
	災害看護学実習Ⅱ	2	3	135												●			
	災害看護学実習Ⅲ	2	2	90												●			
	災害看護学実習Ⅳ	2	3	135												●			
	災害看護学課題研究	1・2	2	60												☆			
	老年看護学特論Ⅰ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
	老年看護学特論Ⅱ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
	老年看護学特論Ⅲ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
	老年看護学特論Ⅳ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
	老年看護学特論Ⅴ	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△	●			
専門看護師教育課程（C N S）	老年看護学演習Ⅰ	1	2	60												●		* 専門看護師教育課程を専門とする 学生の履修等に関しては別に定めるが、 併せて修士の学位取得のため、 ☆課題研究（または特別研究）を修得	
	老年看護学演習Ⅱ	1	2	60												●			
	老年看護学実習Ⅰ	1	2	90												●			
	老年看護学実習Ⅱ	2	4	180												●			
	老年看護学実習Ⅲ	2	4	180												●			
	老年看護学課題研究	1・2	2	60												☆			

※CNS学生は専門看護師教育課程のこと。

# 看護学専攻履修の手引き

## 1. 履修届の提出

所定の履修届を4月15日(火)までに提出してください。届出のない授業科目については、履修できません。なお、履修科目を変更するときは、提出した履修届を取りに来ていただき、修正のうえ担当教員の許可を得て、学務課教務担当へ再提出してください。

## 2. 提出先 福井大学学務部松岡キャンパス学務課 教務担当

電話 0776-61-8247 (直通) 0776-61-3111 (代表) 内線 2141  
FAX 0776-61-8162  
E-mail: m-kyomu@ml.u-fukui.ac.jp

## 3. 修了要件

博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学（休学期間は除く。）し、所定の授業科目について30単位以上※1を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文※2の審査及び最終試験に合格する必要があります。

修得単位については、授業科目一覧表（1頁）の「単位修得」欄をよく読んでください。

なお、在学期間に関して、優れた研究業績を上げたものについては、当該課程に1年以上在学すればよいこととなっています。

また、職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年）を超えて一定の期間（4年以下）にわたり、計画的に教育課程を履修（「長期履修」という。）することを希望する場合は、学務課へお問い合わせください。

※1 専門看護師の資格を取得しようとする学生は、40単位以上

※2 専門看護師の資格を取得しようとする学生は、課題研究の論文

## 4. その他

(1) 大学院学則により、博士前期課程における在学期間は、標準修業年限（2年）の2倍（4年）

の年数（「長期履修」の場合は5年）を超えることができないことになっています。

また、休学期間は、通算して2年を超えることができないことになっています。

このため、入学してから在籍できる期間は、休学期間を含め最長6年間（「長期履修」の場合は7年間）となります。

(2) 医療並びに医学関連分野で活躍されている社会人の方々に、高度な医学研究能力を身に付けていただく機会を与えるために、授業科目によっては夜間にも開講しています。

(3) 諸事情により、授業時間割表と実際の開講時間が異なる場合がありますので、履修届の提出にあたっては、事前に担当教員に確認してください。



(趣旨)

第 1 条 福井大学大学院医学系研究科（以下「本研究科」という。）に関する事項は、福井大学大学院学則（平成 16 年福大学則第 2 号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(教育研究上の目的)

第 2 条 大学院学則第 4 条第 3 項に規定する、本研究科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、次のとおりである。

医学系研究科

高度な医学及び看護学の知識を修得し、高い水準の医学研究を遂行できる研究能力や先端的で高度専門的な臨床技術を提供できる実践能力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性のもと、人類の健康福祉と社会福祉に貢献できる医療人を育成することを目的とする。

博士課程

統合先進医学専攻

医科学および生命科学領域において、高度な知識および科学的・論理的思考に基づき、獨創性・創造性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者の養成、各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え、高い倫理観と研究マインドを持った臨床医高度専門医療人の養成、並びに地域に貢献ができる臨床研究能力や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・E R 救急医・家庭医を養成することを目的とする。

博士前期課程

看護学専攻

高い倫理観と良識のもと、国際的な視野と科学的な分析能力を備え、高度な看護理論・技術と異分野の融合を見据え、看護学を体系化・深化させる研究を遂行・発信できる研究・教育者、並びに高度な実践能力を備え、地域ヘルスケアを自律して行うことができる看護実践者を養成し、看護学の発展と地域社会に貢献することを目的とする。

博士後期課程

看護学専攻

高い倫理観と良識のもと、グローバルな視点と多角的・科学的な分析能力を備え、卓越した看護理論・技術と異分野を融合し、データや ICT・ロボット・AI 等を利活用しながら、様々な課題の解決策を国内外に応用する“広域ヘルスケア”及び乳幼児から老年期にいたる生涯を通じた個人の発達を促進させる“生涯発達ヘルスケア”を統合・実践できる研究・教育者、トップリーダーを養成し、看護学の発展と国内外の地域社会に貢献することを目的とする。

(研究科長)

第 3 条 医学系研究科に研究科長を置く。

2 研究科長に関し必要な事項は、別に定める。

(教育課程)

第 4 条 開設する授業科目、履修単位数及び履修年次等は、博士課程にあつては、別表 1、博士前期課程にあつては、別表 2、博士後期課程にあつては別表 3 のとおりとする。

(指導教員)

第 4 条の 2 学位論文（博士前期課程にあつては、修士論文又は特定の課題についての研究の成果とする。以下同じ。）の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を行うため、学生ごとに研究指導担当教員の中から指導教員を定める。ただし、次項の博士後期課程の学生に関する副指導教員にあつては、本学大学院の他の研究科の教員の中からも定めることができるものとする。

2 博士後期課程にあつては、各学生に対し主指導教員 1 名及び副指導教員 2 名以上による P O S コミティ（Program of Study Committee）を構成する。

3 指導教員は、医学系研究科教授会（以下「教授会」という。）において定める。

(修得単位)

第5条 博士課程の学生は、別表1に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の修得単位欄に定めるとおり30単位以上を修得しなければならない。

2 博士前期課程の学生は、別表2に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の修得単位欄に定めるとおり30単位以上を修得しなければならない。また、博士前期課程に専門看護師教育課程を置き、専門看護師の資格取得に係る履修科目、修得単位等について、別に定める。

3 博士後期課程の学生は、別表3に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の修得単位欄に定めるとおり16単位以上を修得しなければならない。

4 指導教員が必要と認めた場合は、教授会の議を経て、他の課程又は本学大学院の他の研究科の授業科目を履修させ、これを当該課程で修得した単位とすることができる。ただし、当該修得単位は、修了要件の単位には算入しないものとする。

5 博士課程授業科目早期履修制度を利用する者は、教授会の議を経て、大学院の授業科目を履修することができ、博士課程入学後に単位を認定することがある。

(履修の方法等)

第5条の2 学生は、別表1、2、3より選択した授業科目を、当該授業科目担当教員及び指導教員の承認を経て、指定する期日までに所定の履修届により届け出なければならない。

2 学生は、前項の履修届の提出後に授業科目の変更をしようとするときは、指定する期日までに所定の手続を行わなければならない。

3 本研究科は、大学院学則第29条の5第1項の規定に基づき、学生の入学後の各年度に、学生に対し研究指導計画を明示する。

(単位の計算方法)

第5条の3 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(単位修得の認定)

第5条の4 授業科目の単位修得の認定については、試験その他の方法により授業科目担当教員が行う。

(試験)

第6条 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、年1回行う。

3 追試験は、学生が、病気、災害等やむを得ない理由により定期試験を受験できなかったときに、願い出により行う。この場合において、当該願い出は、当該授業科目担当教員の承認を得て行わなければならない。

4 再試験は、定期試験又は追試験を受験し不合格となった学生に対して、願い出により行うことがある。

5 試験において不正行為を行った学生に対しては、当該試験を無効とし、大学院学則第43条の規定により懲戒する。

(成績の評価)

第7条 試験その他の審査による成績の評価については、評価点又は評価をもって表し、可否の認定は、次の表に掲げる基準により行う。ただし、再試験による評価は、60点以下とする。

評価点	評価	評価基準	認定
100点～90点	秀	目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果を挙げている	合格
89点～80点	優	目標を十分に達成している	
79点～70点	良	目標を概ね達成している	

69点～60点	可	目標を最低限達成している	
59点～ 0点	不 可	目標を達成していない	不 合 格

(教育方法の特例)

第7条の2 医学系学研究科における授業及び研究指導は、教授会が教育上特別の必要があると認める場合は、夜間その他特定の時間又は時期において行うことができる。

2 前項に規定する教育方法の特例による授業又は研究指導を受けようとする社会人である学生は、指定の期日までに書面をもってその旨医学系研究科長に願い出て、許可を受けなければならない。

(長期履修学生)

第7条の3 学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを申し出たときは、教授会の議を経て、長期履修学生としてその計画的な履修を認めることができる。

(学位論文の提出)

第7条の4 学生は、学位論文を指導教員の承認を得て、指定の期日までに、医学系研究科長に提出しなければならない。

2 博士後期課程の学生で、前項の学位論文を提出する者は、別に定める研究基礎力試験（QE；Qualifying Examination）を受験し、合格しなければならない。

(学位論文の審査)

第7条の5 学位論文の審査については、福井大学学位規程（平成16年福大規程第30号）に定めるところによる。

(雑則)

第8条 大学院学則及びこの規程に定めるもののほか、本研究科に関する必要な事項は、医学系研究科長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成19年2月15日福大院医規程第1号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年2月7日福大院医規程第1号）

1 この規程は、平成20年4月1日施行する。

2 平成20年3月31日以前に入学した者は、この規程第2条、別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、看護学専攻の学生が、CNS（がん看護学）科目を履修希望する場合は、選考の上認めることがある。

附 則（平成21年3月12日福大院医規程第1号）

この規程は、平成21年4月1日から施行し、この規程による改正後の福井大学大学院医学系研究科規程は、平成20年10月1日から適用する。

附 則（平成22年6月17日福大院医規程第6号）

この規程は、平成22年10月1日から施行する。

附 則（平成24年2月16日福大院医規程第1号）

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月15日福大院医規程第2号）

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 平成24年3月31日以前に入学した学生は、この規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成25年1月17日福大院医規程第1号）

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 平成25年3月31日以前に入学した学生は、この規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成25年3月19日福大院医規程第2号）

1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。

2 平成25年3月31日以前に入学した者は、この規程第2条、別表2の規定にかかわらず、なお

従前の例による。

附 則（平成 25 年 6 月 20 日福大院医規程第 3 号）  
この規程は、平成 25 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 2 月 13 日福大院医規程第 1 号）  
この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 6 月 19 日福大院医規程第 2 号）  
この規程は、平成 26 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 3 月 19 日福大院医規程第 1 号）  
この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年 3 月 17 日福大院医規程第 1 号）  
この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 3 月 7 日福大規程第 31 号）  
この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 9 月 25 日福大規程第 71 号）  
この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 31 年 3 月 29 日福大規程第 23 号）  
この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 2 年 3 月 2 日福大規程第 39 号）  
この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 4 年 2 月 17 日福大規程第 16 号）  
この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 4 年 6 月 28 日福大規程第 88 号）  
この規程は、令和 4 年 6 月 28 日から施行し、令和 4 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（令和 5 年 3 月 6 日福大規程第 16 号）  
この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（令和 6 年 2 月 21 日福大規程第 2 号）  
この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から適用する。

附 則（令和 7 年 3 月 19 日福大規程第 8 号）  
この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1 （省略）

別表 2 （省略）

別表 3 （省略）

平成 30 年 1 月 23 日  
医学系研究科長裁定

(趣旨)

第 1 条 この要項は、福井大学学位規程（平成 16 年福大規程第 30 号。以下「規程」という。）第 31 条の規定に基づき、修士の学位に係る学位論文（以下「修士論文」という。）審査の実施及び学位記授与に関する取扱いについて必要な事項を定める。

(出願者の資格及び提出期限)

第 2 条 規程第 3 条第 2 項の規定による修士論文の審査を願い出ることができる者は、福井大学大学院医学系研究科博士前期課程の最終学年（福井大学大学院学則（平成 16 年福大規則第 2 号）第 36 条ただし書の規定に該当する場合を含む。）に在学し、所定の単位を修得した者で、かつ、必要な研究指導を受けた者とする。

2 規程第 4 条の提出期限は、原則、次のとおりとする。

(1) 3 月修了予定者 1 月 10 日

(2) 9 月修了予定者 6 月 10 日

3 前項に定める日が土曜日、日曜日及び祝日のときは翌履修日を提出期限とする。

(出願のための提出書類等)

第 3 条 規程第 4 条に規定する提出書類の様式及び部数は、次の各号に掲げるとおりとし、提出する際には、指導教員の承認を得て学務部松岡キャンパス学務課に提出する。

(1) 修士論文審査願（別紙様式第 1 号） 1 部

(2) 論文目録（別紙様式第 2 号） 4 部

(3) 修士論文 4 部

(4) 論文内容要旨（別紙様式第 3 号） 4 部

(5) 履歴書（別紙様式第 4 号） 1 部

必要に応じて以下を提出

(6) 参考論文 4 部

(修士論文)

第 4 条 規程第 4 条の規定により提出する修士論文は、単著とする。

2 専門看護師の資格を取得しようとする学生は、課題研究の論文をもって修士論文に代えることができるものとし、その審査については別に定める。

3 論文提出後から最終試験までの間に、論文名に変更が生じた場合には、学位論文題目変更願（別紙様式第 5 号）により速やかに変更を届け出るものとする。

(修士論文の受理)

第 5 条 医学系研究科長は、修士論文の審査の出願があったときは、医学系研究科博士前期課程委員会（以下「博士前期課程委員会」という。）の議を経て修士論文を受理する。

(審査委員会の構成)

第 6 条 規程第 7 条第 1 項に規定する審査委員会委員は、3 名で構成する。

2 前項に規定する審査委員会は、博士前期課程委員会で協議のうえ選出した大学院担当教授 2 名及び指導教員 1 名で構成する。

3 前項の博士前期課程委員会で選出される 2 名の委員のうち 1 名は、提出論文の内容に応じた関連分野の准教授をもって代えることができる。

4 審査委員会は、博士前期課程委員会で選出された 2 名の委員のうち委員の互選により 1 名を主査とし、他の 2 名を副査とする。

(審査基準)

第 7 条 審査委員会は、論文内容の信頼性及び発展性等の観点から修士の学位にふさわしいものであるかを審査する。

(公開発表会)

第 8 条 審査委員会は、修士論文の審査の過程において、修士論文についての公開発表会を開催するものとする。

(最終試験)

第9条 審査委員会は、規程第8条に規定する最終試験を行うものとする。

(修士論文審査等の結果の報告)

第10条 審査委員会は、論文審査等の結果を、修士論文審査結果報告書(別紙様式第6号)により、博士前期課程委員会に報告するものとする。

(学位授与予定者の決定)

第11条 博士前期課程委員会は、規程第11条の規定により、前条の審査委員会による報告に基づき、学位を授与すべきか否かを審議し、単記無記名投票により議決するものとする。

2 研究科長は、規程第12条の規定により、前項で議決された者を学位授与予定者として学長へ報告する。

(修士論文の最終提出)

第12条 学位授与決定の通知を受けた者は、修士論文に表紙をつけて製本したもの2部を学位記授与日の前日までに医学系研究科長に提出するものとする。

(雑則)

第13条 この要項に定めるもののほか、修士論文審査の実施に関し必要な事項は、博士前期課程委員会の議を経て、別に定める。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

なお、福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項(平成28年4月1日学長裁定)は廃止する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和4年1月13日から施行し、令和4年1月1日から適用する。

附 則

この要項は、令和5年10月12日から施行し、令和6年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、令和7年4月1日から施行する。

別紙様式(省略)

## 専門看護師教育課程履修の手引き

専門看護師とは、水準の高い看護を効率よく提供するための知識・技術を深め、卓越した看護を実践できると認められた看護師です。専門分野ごとに日本看護協会が認定しています。

看護師として5年以上の実践経験を持ち、看護系の大学院で修士課程を修了して必要な単位を取得した後、専門看護師認定審査に合格することが要件となっています。

本学の専門看護師教育課程は、日本看護系大学協議会の認定を受けていますので、修了することで専門看護師認定審査の要件の一つを得ることができます。

- (認定審査) ・災害看護専門看護師  
・がん看護専門看護師  
・老年看護専門看護師

専門看護師教育課程を修了するには、

1. 各専門看護師教育課程で定めた科目のうち、38単位以上を修得する。

① 共通科目Aは、次の7科目のうち8単位以上を修得する。

- 「看護研究」 (2単位)
- 「看護倫理」 (2単位)
- 「看護理論」 (2単位)
- 「看護教育論」 (2単位)
- 「看護管理論」 (2単位)
- 「看護政策論」 (2単位)
- 「コンサルテーション論」 (2単位)

② 共通科目Bは、次の3科目6単位を修得する(必修)。

- 「ヘルスアセスメント」 (2単位)
- 「病態生理学」 (2単位)
- 「臨床薬理学」 (2単位)

③ 専攻教育課程科目の各教育課程で定める特論、演習、実習の全科目24単位を修得する。

2. 上記の単位修得に加え、「課題研究2単位(または特別研究12単位)」を修得することで、専門看護師教育課程を修了(修士学位の取得)となります。

福井大学大学院医学系研究科博士前期課程看護学専攻における  
専門看護師教育課程の履修規程

平成 28 年 7 月 20 日  
福大規程第 120 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、福井大学大学院医学系研究科規程（平成 16 年福大院医規程第 5 号）第 5 条第 2 項の規定に基づき、福井大学大学院医学系研究科博士前期課程看護学専攻における専門看護師教育課程（以下「専門看護師教育課程」という。）の履修科目、修得単位等に関し必要な事項を定める。

(教育課程の種類)

第 2 条 専門看護師教育課程は、次のとおり。

- (1) 災害看護専門看護師教育課程
- (2) がん看護専門看護師教育課程
- (3) 老年看護専門看護師教育課程

(授業科目等)

第 3 条 専門看護師教育課程の授業科目及び単位数は、次のとおり。

2 共通科目

区分	授業科目名	単位数
共通科目 A	看護研究	2 単位
	看護倫理	2 単位
	看護理論	2 単位
	看護教育論	2 単位
	看護管理論	2 単位
	看護政策論	2 単位
	コンサルテーション論	2 単位
共通科目 B	ヘルスアセスメント	2 単位
	病態生理学	2 単位
	臨床薬理学	2 単位

3 専攻教育課程科目

- (1) 災害看護専門看護師教育課程

授業科目名	単位数
災害看護学特論Ⅰ	2 単位
災害看護学特論Ⅱ	2 単位
災害看護学特論Ⅲ	2 単位
災害看護学特論Ⅳ	2 単位
災害看護学特論Ⅴ	2 単位
災害看護学特論Ⅵ	2 単位
災害看護学特論Ⅶ	2 単位



災害看護学実習Ⅰ	2単位
災害看護学実習Ⅱ	3単位
災害看護学実習Ⅲ	2単位
災害看護学実習Ⅳ	3単位

(2) がん看護専門看護師教育課程

授業科目名	単位数
がん看護学特論Ⅰ	2単位
がん看護学特論Ⅱ	2単位
がん看護学特論Ⅲ	2単位
がん看護学特論Ⅳ	2単位
がん看護学特論Ⅴ	2単位
がん看護学演習Ⅰ	2単位
がん看護学演習Ⅱ	2単位
がん看護学実習Ⅰ	2単位
がん看護学実習Ⅱ	2単位
がん看護学実習Ⅲ	4単位
がん看護学実習Ⅳ	2単位

(3) 老年看護専門看護師教育課程

授業科目名	単位数
老年看護学特論Ⅰ	2単位
老年看護学特論Ⅱ	2単位
老年看護学特論Ⅲ	2単位
老年看護学特論Ⅳ	2単位
老年看護学特論Ⅴ	2単位
老年看護学演習Ⅰ	2単位
老年看護学演習Ⅱ	2単位
老年看護学実習Ⅰ	2単位
老年看護学実習Ⅱ	4単位
老年看護学実習Ⅲ	4単位

(修得単位)

第4条 各専門看護師教育課程の単位修得は、次の各号のとおりとする。

- (1) 前条第2項に掲げる共通科目Aから8単位以上かつ共通科目Bの6単位の合計14単位以上を修得すること。

- (2) 前条第3項に掲げる専攻教育課程科目から各号の課程ごとに指定するすべての科目を修得すること。
- (3) 修士の学位取得のため、必要な研究指導を受けた課題研究(または特別研究)を修得すること。

附 則

- 1 この規程は、平成28年7月20日から施行し、平成28年4月1日から適用する。
- 2 平成28年3月31日以前に入学した学生は、この規程の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 福井大学大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)における災害看護専門看護師資格取得のための履修に関する要項(平成25年3月14日 医学系研究科長裁定)は、廃止する。

附 則(平成30年3月7日福大規程第32号)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(令和6年2月21日福大規程第3号)

- 1 この規程は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 令和6年3月31日以前に入学した者は、なお従前の例による。

附 則(令和7年3月19日福大規程第9号)

この規程は、令和7年4月1日から施行する。

専門看護師教育課程における「課題研究」の審査基準等に関する申合せ

令和 7 年 4 月 10 日  
博士前期課程委員会決定

(趣旨)

第 1 条 この申合せは、福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項（平成 30 年 1 月 23 日医学系研究科長裁定。以下「要項」という。）第 4 条第 2 項の規定に基づき、課題研究の論文に係る審査基準等に関し必要な事項を定める。

(課題研究)

第 2 条 課題研究とは、臨床現場において実用可能性が高い研究論文のことを指し、以下の内容を含める。

- (1) 看護に関する特定の現象の探求
- (2) 援助技術や看護体制、システムの評価研究
- (3) プログラムの開発
- (4) 先駆的看護援助方法の検証
- (5) 事例研究（看護の働きかけによる明らかな変化や成果等が得られた事例であること）
- (6) 文献研究（研究成果、実践事例、看護や保健行動に関する概念や理論等によって系統的に組み立てられていること）

(審査基準)

第 3 条 課題研究の審査基準は、以下のとおりとする。

- (1) 研究目的は専門看護師分野の知識・技術の向上や開発を図るための意義があること。
- (2) 研究の方法は専門看護分野において妥当であること。
- (3) 実践の場における研究であること。
- (4) 研究の方法及び対象者に対して倫理的配慮がなされていること。
- (5) 考察と結論が妥当であること。

(審査教員の要件)

第 4 条 課題研究の審査は、専門看護師教育課程の課題研究担当教員が担当する。

2 課題研究担当教員は、当該教育課程の置かれている大学院に所属する教員とし、非常勤教員も可とする。

3 課題研究の審査に主査を置き、課題研究担当教員をもって充てる。

(報告会)

第 5 条 主査は、研究課題の審査の過程において、最終報告会を開催するものとする。

(最終試験)

第 6 条 要項第 9 条に規定する最終試験は、最終報告会により行う。

(審査等の結果の報告)

第 7 条 主査は、審査結果を博士前期課程に報告するものとする。

2 報告書の様式は、要項第 10 条に規定する修士論文審査結果報告書(別紙様式第 6 号)に準ずる。

附 則

この申合せは、令和 4 年 1 月 13 日から施行し、令和 4 年 1 月 1 日から適用する。

附 則

- 1 この申合せは、令和 7 年 4 月 10 日から施行し、令和 7 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 専門看護師教育課程における「課題研究」の審査基準等に関する申合せ(令和 4 年 1 月 13 日 修士課程委員会決定)は、廃止する。

# 授 業 科 目 に つ い て

## 【共 通 科 目】

注)「担当教員名」の○印は，単位認定者を表す。

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU101
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 回	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
看護研究				質的研究、量的研究、研究倫理 文献検討、アクションリサーチ	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
長谷川 智子		教授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp	
坂下 雅文		講師／医学研究支援センター		msaka@u-fukui.ac.jp	
渡邊 享平		講師／医学研究支援センター		kyohei@u-fukui.ac.jp	
北野 華奈恵		講師／基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp	
礪波 利圭		講師／基盤看護学		ritonami@u-fukui.ac.jp	
江本 リナ		教授／日本赤十字看護大学		emoto@redcross.ac.jp	
学修目標					
1. 臨床看護実践の質の向上に資する看護研究の意義と主要な研究方法を習得する。					
2. 看護研究の知識と具体的なプロセスを学び、臨床の看護事象から研究主題を絞り込み、科学的探究と理論的説明ができる能力を養う。					
3. 帰納法・演繹法を理解したうえで、研究課題に合った研究方法を選択し計画する能力を養う。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	看護実践と研究のプロセスの定義	臨床実践における研究活動の意義 研究の歴史、研究における用語			長谷川智子
2	看護実践と研究のプロセスの実際	研究主題の明確化と研究計画 研究方法の決定方法と分析			長谷川智子
3	研究における利益相反と倫理的配慮（1）	(1)利益相反への配慮			坂下雅文
4	研究における利益相反と倫理的配慮（2）	(2)倫理的配慮と審査委員会の意義			渡邊享平
5	文献検討の意義とエビデンス（1）	(1)文献の重要性と成果の活用			四谷淳子
6	文献検討の意義とエビデンス（2）	(2)検索と吟味（クリティーク）			四谷淳子
7	質的研究（1）研究の概要	(1)質的研究の特徴、倫理的配慮、研究の種類			北野華奈恵
8	質的研究（2）データ収集方法	(2)面接法、参加観察法			礪波利圭
9	質的研究（3）研究の実際	(3)演習：データの分析と考察			礪波利圭
10	量的研究（1）主な研究法	(1)実験研究の特徴と分析方法の実際			長谷川智子
11	量的研究（2）調査研究	(2)調査研究法の特徴と測定方法・分析方法の実際			長谷川智子
12	量的研究（3）統計学的手法	(3)量的データの収集方法と分析 統計学的手法の実際（パトリック検定とノンパラメトリック検定）			長谷川智子
13	量的研究（4）統計処理演習	(4)統計処理ツールの使い方とデータ解析の実際 データ解析で得られた結果の検討と考察			長谷川智子
14	アクションリサーチ（1）概念	(1)アクションリサーチの歴史と概念			江本リナ
15	アクションリサーチ（2）実際	(2)看護実践とアクションリサーチを使用した研究の実際			江本リナ

授業の形式	授業形態		
講義 ・ 演習	対面 ・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（ ）		
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>			
※導入している主体的・対話的教育手法を選択してください（ <u>当てはまるものをすべて</u> 残し、その他を消去） ・ 演習          ・ 問題解決型学習          ・ 授業外学習の推進          ・ ディスカッション			
<b>到達目標</b>			
研究プロセスが理解できる。 研究倫理が理解できる。 文献検討の意義が理解でき、クリティークができる。 質的研究のプロセスが理解できる。 量的研究のプロセスが理解できる。 アクションリサーチのプロセスが理解できる。			
<b>準備学習（予習・復習）</b>			
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第 1～2 回    看護研究のプロセスについて 第 3～4 回    研究倫理について 第 5～6 回    文献検討について 第 7～9 回    質的研究の特徴について 第 10～13 回 量的研究の特徴について 第 14～15 回 アクションリサーチについて ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
<b>成績評価方法</b>			
学習態度（講義受講状況）、レポートにより総合的に評価する。 レポート課題 ✔ 研究計画書を A4 レポート 2 枚にまとめる。 ✔ テーマは何でも可。 ✔ 調査内容を明記する必要があるが、調査票を作成する必要はない。			
<b>成績評価基準</b>			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
<b>教科書及び参考書</b>			
教科書：特に指定はない 参考書： （1） 松木光子、小笠原知枝編．（2012）これからの看護研究、基礎と応用．ヌーベルヒロカワ：東京．4861740355 （2） 石井京子、多尾清子．（2002）ナースのための質問紙調査とデータ分析．医学書院：東京．4260332082 （3） 筒井真優美、江本リナほか．（2024）アクションリサーチ入門、看護研究の新たなステージへ．ライフサポート：東京．4796581030 （4） 大谷尚．（2019）質的研究の考え方、研究方法論から SCAT による分析まで．名古屋大学出版会：愛知．4815809445 （5） 木原雅子、木原正博監訳．（2022）質的研究法、その理論と方法．メディカル・サイエンス・インターナショナル：東京．4815730475 （6） アメリカ心理学会著、前田樹海ほか訳．（2023）APA 論文作成マニュアル第 3 版、医学書院：東京．4260048120			
<b>その他履修上の注意点等</b>			
<table border="1" data-bbox="175 2056 1428 2152"> <tr> <td data-bbox="175 2056 475 2152">代表者 (氏名・E-Mail)</td> <td data-bbox="475 2056 1428 2152">四谷淳子    jyotsuya@u-fukui.ac.jp</td> </tr> </table>		代表者 (氏名・E-Mail)	四谷淳子    jyotsuya@u-fukui.ac.jp
代表者 (氏名・E-Mail)	四谷淳子    jyotsuya@u-fukui.ac.jp		

教育研究区分：		共通科目		科目番号：		62CSU102					
単 位 数：		2 単位		コマ数		15 コマ		開講時期：		1 または 2 年次後期	
授業科目名：						キーワード：					
看護倫理						倫理的調整、意思決定、生命操作、臓器移植、延命治療、専門看護師					
担当教員名				職名／所属				E メールアドレス			
○ 波崎 由美子				教 授／育成期看護学				yuminami@u-fukui.ac.jp			
井川 正道				教 授／地域健康学講座				iqw@u-fukui.ac.jp			
糟野 健司				准教授／腎臓病態内科学				kasuno@u-fukui.ac.jp			
未定				未定							
中野 妃佐恵				がん看護専門看護師・乳がん看護認定看護師／福井県立病院				h-nakano-9e@pref.fukui.lg.jp			
富永 知恵子				がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師／福井赤十字病院				chemo.cn@gmail.com			
学修目標											
卓越した看護実践の基礎となる倫理的調整に必要な基礎的能力を獲得するため、臨床看護の実践における倫理的問題を明確化し、倫理的調整の土台となる諸理論の特徴および問題解決に必要な知識を教授する。また、それらを踏まえ、看護実践場面で経験する倫理的問題を検討することで、自己の考え方を見直し、倫理的感受性を高め、専門看護師としての倫理的調整に必要な基礎的能力を獲得する。											
各回の授業の内容											
(回)		(主題)			(学修内容)				(教員)		
1		倫理的調整に必要な基礎知識 1)			倫理とは何か、倫理理論と看護倫理 看護における倫理：歴史的展望 社会的倫理、専門職、社会				波 崎		
2		倫理的調整に必要な基礎知識 2)			看護実践上の倫理的概念：看護師の倫理的 意思決定の基盤となる概念				波 崎		
3		倫理的意思決定への支援 1)			倫理原則に基づくアプローチ				波 崎		
4		" 2)			医療職とインフォームド・コンセント				未 定		
5		" 3)			医療者、患者、家族の意思決定				未 定		
6		看護実践場面で直面する倫理的 問題 1)			生命操作と倫理的問題 1)：生殖医療				未 定		
7		看護実践場面で直面する倫理的 問題 2)			生命操作と倫理的問題 2)：遺伝子医療				井 川		
8		看護実践場面で直面する倫理的 問題 3)			生命操作と倫理的問題 3)：事例検討				井 川		
9		看護実践場面で直面する倫理的 問題 4)			臓器移植と倫理的問題：脳死・臓器移植				糟 野		
10		看護実践場面で直面する倫理的 問題 5)			延命治療と倫理的問題：延命操作・薬害 問題				未 定		
11		看護実践における倫理調整 1)			専門看護師としての倫理的調整の実際 1)				中 野		
12		看護実践における倫理調整 2)			専門看護師としての倫理的調整の実際 2)				中 野		
13		看護実践における倫理調整 3)			専門看護師としての倫理的調整の実際 3)				富 永		
14		看護倫理の教育			倫理的能力の促進				波 崎		
15		研究と倫理			研究倫理 倫理審査委員会 研究倫理教育の重要性 APRIN e-learning プログラム				波 崎		

<b>授業の形式</b>		<b>授業形態</b>
講義 ・ 演習		対面・遠隔（リアルタイム）
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>		
・プレゼンテーション ・ グループワーク ・ 授業外学習の推進 ・ ミニレポート ・ディスカッション		
<b>到達目標</b>		
1) 看護実践場面での倫理的調整に必要な生命倫理、看護倫理に関する知識を獲得する。 2) 看護実践場面で遭遇した倫理的問題を抱える事例を検討し、本人、家族、医療職等のそれぞれの立場・価値観の違いから生じる葛藤を明確化できる。 3) 看護実践場面で直面する倫理的問題について、専門看護師として発言することができる。		
<b>準備学習（予習・復習）</b>		
○予習 本授業は、多様な視点から看護倫理について学ぶ講義内容となっています。授業では各テーマに応じて看護倫理について扱いますので、そのテーマに関連する内容を各自で事前に把握しておくこと。わからない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。		
○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。		
<b>成績評価方法</b>		
修学態度、レポート、ゼミナール討論により評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。		
<b>成績評価基準</b>		
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。		
<b>教科書及び参考書</b>		
<b>【教科書】</b> 指定なし		
<b>【参考書】</b> 1) サラ T. フライ 著、片田範子・山本あい子 訳：看護実践の倫理第 3 版、日本看護協会出版会、2010。 2) 宮坂道夫 著、医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ（第 3 版）：医学書院、2016。 3) Anne J. Davis Verena Tschudin Louise de Raeve 編集 小西恵美子 監訳 和泉成子 江藤裕之 訳 看護倫理を教える・学ぶ 倫理教育の視点と方法、2008。 その他、講義で適宜提示する。また、必要に応じて資料を配布する。		
<b>その他履修上の注意点等</b>		
・質問は担当回の教員にメールしてください。 ・質問・相談は随時受け付けます。		
<b>代表者 （氏名・E-Mail）</b>	波崎由美子・yuminami@u-fukui.ac.jp	



教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU103
単位数：	2単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
看護理論				看護、人間、環境、健康、理論	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○上原 佳子		教 授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
梅田 尚子		講 師／育成期看護学		numeda@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
看護理論の変遷と諸理論の特徴について知識を深め、諸理論と看護現象との関係について理解し、各看護領域の実践、教育、研究に活用するための視点を探求する。また、その存在論的、認識論的、方法論的前提を分析し、看護の理論的基盤を模索する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	看護理論とは (1)	理論の定義、看護理論とは、理論の構造と種類			上原
2	人間の心理行動に関連する理論 (1)	ストレス理論			上原
3	人間の心理行動に関連する理論 (2)	コーピング理論			上原
4	人間の心理行動に関連する理論 (3)	危機理論			梅田
5	看護介入に必要な理論 (1)	病みの軌跡			梅田
6	看護介入に必要な理論 (2)	自己効力理論			上原
7	看護介入に必要な理論 (3)	健康行動モデル			上原
8	看護理論：環境論	ナイチンゲールの理論と活用			上原
9	看護理論：ニード論	ヘンダーソンの理論と活用			月田
10	看護理論：セルフケア理論	オレムの理論と活用			月田
11	看護理論：対人関係理論	ペプロウの理論と活用			上原
12	看護理論：看護ケアの臨床知	ベナーの理論と活用			月田
13	看護理論：演習 (1)	看護理論についてのプレゼンテーション (1) ＜興味のある看護理論家を一人選び、その理論について紹介する＞			上原
14	看護理論：演習 (2)	看護理論についてのプレゼンテーション (2)			上原
15	看護理論：演習 (3)	看護理論についてのプレゼンテーション (3)			上原
授業の形式				授業形態	
講義 ・ 演習				対面 ・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・実験／演習 ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション					
到達目標					
1. 看護理論の変遷について理解できる。 2. 看護理論における人間、環境、健康の捉え方を理解できる。 2. 授業で紹介された理論について概要を説明できる。 3. 看護実践における理論の活用について考察できる。					

## 準備学習（予習・復習）

### ○予習

各授業の学修内容について、参考図書等を熟読し、概要を把握しておくこと。分からない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。

### ○復習

授業資料の読み返し、参考図書での追加学修により理解に努めること。

### ○演習および課題レポート

＜演習＞13～15回

・授業でとりあげた以外の興味がある看護理論家一人を選び、その理論について紹介する。自身の看護実践におけるその理論を活用した事例の考察を含める。パワーポイントにてプレゼンテーションを行う。一人発表20分、質疑応答10分とし、13～15回のいずれかにて発表する。順番に関しては、履修者で相談し決定する。

＜課題レポート＞

・プレゼンテーションした内容をレポートにまとめる（A4用紙、枚数自由）

## 成績評価方法

レポート、プレゼンテーション内容、授業への取り組み態度・ディスカッションへの参加度等の修学態度により総合的に評価する。

評価基準：課題レポート40%、プレゼンテーション40%、修学態度20%、計100%

## 成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

## 教科書及び参考書

教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。

[参考図書]

- (1) 筒井真優美 編：看護理論家の業績と理論評価（第2版）、医学書院、東京、2020。ISBN-13:978-4260039611
- (2) アン・マリナー・トメイ他編著；都留伸子監訳：看護理論家とその業績（第3版）、医学書院、東京、2004。  
ISBN-13:978-4260333399
- (3) 城ヶ端初子 編著：実践に生かす看護理論19（第2版）サイオ出版、東京、2018。ISBN-13:978-4907176716
- (4) 佐藤栄子 編著：中範囲理論入門-事例を通してやさしく学ぶ（第2版）、日総研出版、名古屋、2009。  
ISBN-13:978-4776014140
- (5) 野川道子 編著：看護実践に活かす中範囲理論（第2版）、メヂカルフレンド社、東京、2016。  
ISBN-13:978-4839216122
- (6) リチャード・S・ラザルス、スーザン・フォルクマン著；本明寛、春木豊、織田正美 監訳：ストレスの心理学－認知的評価と対処の研究－、実務教育出版、東京、1991。ISBN-13:978-4788960701
- (7) リチャード・S・ラザルス著；本明寛 監訳：ストレスと情動の心理学－ナラティブ研究の視点から－、実務教育出版、東京、2004。ISBN-13:978-4788960794
- (8) Woog P. 編：The Chronic Illness Trajectory Framework－The Corbin and Strauss Nursing Model－黒江ゆり子 他訳：慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウスによる看護モデル、医学書院、東京、1995。ISBN-13:978-4260341721
- (9) 松本千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に、医歯薬出版株式会社、東京、2002。ISBN-13:978-4263233375
- (10) 坂野雄二、前田基成編著：セルフ・エフィカシーの臨床心理学、北大路書房、京都、2002。ISBN-13:978-4762822636
- (11) フロレンス・ナイチンゲール著；湯楨ます 他訳：看護覚え書-看護であること・看護でないこと-（改訳第7版）、

<p>現代社、東京、2011. ISBN-13:978-4874741429</p> <p>(12) ヴァージニア・ヘンダーソン著；湯槇ます 他訳：看護の基本となるもの（再新装版）、日本看護協会出版会、東京、2016. ISBN-13:978-4818019966</p> <p>(13) ドロセア・E. オレム著；小野寺杜紀 訳：オレム看護論 看護実践における基本概念（第4版）、医学書院、東京、2005. ISBN-13:978-4260000604</p> <p>(14) ヒルデガード・E. ペプロウ著；稲田八重子 他訳：人間関係の看護論、医学書院、東京、1973. ISBN-13:978-4260344784</p> <p>(15) パトリシア・ベナー著；井部俊子 他訳：ベナー看護論-初心者から達人へ（新訳版）、医学書院、東京、2005. ISBN-13:978-4260001090</p> <p>その他、講義で適宜提示する。</p>	
<p><b>その他履修上の注意点等</b></p> <p>質問は、授業内容に関することは担当回の教員、授業の評価や課題レポート、プレゼンテーション等科目全体に関することは代表教員にメール連絡すること。</p>	
<p><b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b></p>	<p>上原佳子・uehara@u-fukui.ac.jp</p>

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU104
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 または 2 年後期
授業科目名：				キーワード：	
看護教育論				社会要請と教育 教育設計 生涯教育	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○ 波崎 由美子		教授／育成期看護学		yuminami@u-fukui.ac.jp	
西 菌 貞子		教授／奈良学園大学		t-nishizono@naragakuen-u.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
富永 知恵子		がん看護専門看護師・がん化学療法 看護認定看護師／福井赤十字病院		chemo.cn@gmail.com	
中野 妃佐恵		がん看護専門看護師・乳がん看護 認定看護師／福井県立病院		h-nakano-9e@pref.fukui.lg.jp	

学修目標

看護職における継続教育の現状と課題について理解を深め、看護職への教育のあり方についてディスカッションやプレゼンテーションを通して探究する。

教育力をもった看護教育者や看護実践者を目指し、看護の質向上と教育設計について探究をはかる。

各回の授業の内容

(回)	(主題)	(学修内容)	(教員)
1	教育学の考え方	教育とは	西 菌
2	職業と教育	時代背景と看護教育の変遷、社会の要請と教育	西 菌
3	看護基礎教育から専門職業人教育、生涯教育とその発展	看護専門職業人養成と法規・規則 専門職業人 養成の変遷	西 菌
4	人材育成における教育方法	学習理論	月田
5	社会の要請と研究者・専門看護師の育成	専門教育の目的と社会のニーズ	西 菌
6	生涯学習体系と看護の継続教育	キャリア形成と継続教育	西 菌
7	社会が求める高等教育	高度専門職業人養成としての大学院教育 国際比較	波崎
8	看護師に求められる能力 1	実践者に期待されるコンピテンシー	西 菌
9	看護師に求められる能力 2	コンピテンシーの育成	西 菌
10	看護師に求められる能力 3	効果検証	西 菌
11	大学教育～新人教育～現任教育の現状と課題	トランジション：円滑な移行、生涯学習 継続教育	西 菌
12 13	看護の質向上と教育 1	専門看護師の教育的役割 自己研鑽を支える教育環境 看護ケア向上における教育的機能 組織・部署での教育的課題 討議	富永
14	看護の質向上と教育 2	看護教育活動の実際(事例演習) 模擬授業計画書	中野
15	看護の質向上と教育 3	まとめ 今後に向けて、看護継続教育の現状と展望	西 菌

授業の形式		授業形態
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔授業（Zoom オンライン）
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>		
・ 演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ グループワーク ・ ディスカッション		
<b>到達目標</b>		
1) 看護教育の変遷に着目し、時代の要求と教育の関係を説明することができる。 2) 教育課程の仕組みを理解し、理念、教育目的、教育目標、単元構成と教育方法の関連性を説明することができる。 3) 看護学教育の特性について理解を深め、授業設計と評価について説明することができる。 4) 看護職における継続教育の現状を分析・考察し、継続教育の課題を明らかにすることができる。 5) 看護学士教育、現任教育における教育・実践者として、学習者の能力向上につなげる教育プランを作成することができる。		
<b>準備学習（予習・復習）</b>		
予習:各単元に関連した文献、参考図書をレビューし、わからない用語やより深く知りたいことが生じた場合は、自分で調べたうえで授業に臨むこと。 復習:授業資料等を基に授業で学んだ内容を振り返り、理解を深めること。		
<b>成績評価方法</b>		
修学態度、プレゼンテーション、レポート、ディスカッション等について各教員が評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。無断での欠席は修学態度として減点対象とする。		
<b>成績評価基準</b>		
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。		
<b>教科書及び参考書</b>		
適宜紹介する		
<b>その他履修上の注意点等</b>		
・ 質問・相談は随時受け付けます。		
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	波崎由美子（yuminami@u-fukui.ac.jp）	

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU105
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 および 2 年次
授業科目名：				キーワード：	
看護管理論				看護管理、マネジメント	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○礪波 利圭		講 師／基盤看護学		ritonami@u-fukui.ac.jp	
長谷川 智子		教 授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp	
諏訪 万恵		副院長・看護部長／看護部		suwa@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
1）保健医療システムについて理解し、看護管理者として携わる看護職と協力し、多職種との協働や調整を通して専門看護師としての職務が遂行できるように専門的知識を学ぶ。					
2）看護サービスの特徴とアウトカムとしての評価方法について説明できる。					
3）医療政策、政策決定への影響力、社会の変化を裏づけ説明できる。					
4）看護管理、安全管理上の課題を理解する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	看護とマネジメント	看護管理の概念、看護マネジメント マネジメントの考え方の変遷			長谷川
2	マネジメントの基礎地知識	マネジメントの定義、組織マネジメント リーダーシップ、安全管理			長谷川
3	キャリアマネジメント	看護職のキャリア形成			礪波
4	看護サービス論（1）	サービスの概念と看護サービスにおける人材開発			諏訪
5	看護サービス論（2）	看護サービスのマネジメントと評価			諏訪
6	看護サービス論（3）	看護サービスと看護体制			諏訪
7	ヘルスケアシステムの構造と現状	社会保障制度、地域包括ケアシステム 社会保障制度改革			長谷川
8	看護サービスの質管理	看護サービス管理の基本、看護と専門職サービス			長谷川
9	看護サービスの質保証	組織改革とリーダーシップ、多職種との協働・調整			長谷川
10	看護実践のアウトカム評価（1）	組織の成り立ちと組織マネジメント、 マネジメントプロセス			長谷川
11	看護実践のアウトカム評価（2）	組織の分析方法、実践のデータ化			長谷川
12	看護実践のアウトカム評価（3）	アウトカムの数値化			長谷川
13	組織分析の実際（1）	SWOT・クロス分析の実際：演習			礪波
14	組織分析の実際（2）	SWOT・クロス分析の実際：演習			礪波
15	組織分析の実際（3）	SWOT・クロス分析の実際：演習			礪波
授業の形式				授業形態	
講義 ・ 演習				対面 ・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・ 演習 ・ 問題解決型学習 ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション					

<b>到達目標</b>	
1. 看護におけるマネジメントの基礎が理解できる。 2. 看護サービスが理解できる。 3. 看護サービスの質管理が理解できる。 4. 看護実践のアウトカム評価ができる。 5. 組織分析の実際が理解できる。	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
○予習	
各授業の学修内容について、参考図書等を読み、学修内容の概要を把握しておくこと。分からない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。	
○復習	
授業資料の読み返しにより理解に努めること。	
○課題レポート	
自らの施設について SWOT 分析を行い、A4 用紙 2 ページ程度にまとめる。	
<b>成績評価方法</b>	
課題レポート、修学態度により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。	
＜参考図書＞	
(1) 上泉和子他：看護の統合と実践[1]看護管理、医学書院、2024、ISBN:978-4260053044	
(2) 深澤優子著：SWOT/クロス分析、日総研、2016、ISBN:978-4776017745	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
授業内容に関する質問は担当回の教員、授業の評価は代表教員にメール連絡すること。	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	礪波 利圭 ritonami@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU106
単位数：	2単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次/2 年次通年
授業科目名：				キーワード：	
看護政策論				看護政策、医療政策、関係法規、医療福祉制度、保健医療システム、高度実践看護師	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○長谷川 美香		教 授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
諏訪 万恵		副院長・看護部長／看護部		suwa@u-fukui.ac.jp	
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp	
山村 修		教授／地域医療推進講座		kapi@u-fukui.ac.jp	
三嶋 一輝		主任医療ソーシャルワーカー／ 福井大学医学部附属病院		kazkim@g.u-fukui.ac.jp	
田村 梨華		医療ソーシャルワーカー／ 福井大学医学部附属病院		tam1224@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
1. 社会的な看護のあり方を政策として把握し、我が国の保健・医療・福祉・看護政策の現状と課題を理解する。					
2. 我が国の保健・医療・福祉・看護政策の形成過程を理解し、その過程における高度実践看護師の役割・機能を検討する。					
3. 保健・医療・福祉・看護政策に対して、高度実践看護師として自身が貢献できる内容を考察し、看護の現状を改善・向上するための方略を提言できる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	看護政策概論	看護政策の分析 1) ・日本の保健医療福祉政策 ・政策が社会に与える影響			長谷川
2	医療制度と看護の役割 1)	保健医療福祉制度の体系 1) ・医療制度の歴史と医療法			北 出
3	医療制度と看護の役割 2)	保健医療福祉制度の体系 2) ・地域共生社会と看護の役割			北 出
4	医療政策と病院経営	国民の医療ニーズに基づく良質の医療・看護提供体制の構築 ・国民の医療ニーズに基づく医療提供体制の仕組み			諏訪
5	医療事故と法的解釈	医療事故の対応と経営への影響 ・医療事故に伴う法的責任と病院経営への影響			諏訪
6	高度実践看護師の組織への導入	組織における高度実践看護師の活動 ・高度実践看護師の活躍の場 - 具体的事例 ・病院組織における高度実践看護師の役割			諏訪
7	福祉と看護の連携 1)	在宅療養者が利用可能な福祉制度			三 嶋
8	福祉と看護の連携 2)	在宅療養者の福祉サービス活用に向けた看護との連携			田 村
9	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステム 1) ・介護保険法と地域包括ケアシステム			山 村



10	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステム 2) ・ヘルスケア提供システムにおける多職種連携	山 村
11	看護政策のあり方、立案、実施、評価のプロセス 1) (講義)	政策立案とその展開	北 出
12	看護政策のあり方、立案、実施、評価のプロセス 2) (講義)	日本の保健医療政策と政策策定過程の実際	北 出
13	看護政策のあり方、立案、実施、評価のプロセス 3) (演習)	看護政策の分析 2) ・現在の看護政策を題材に、立案に至る現状・背景、主な施策等をデータ・資料から読み解く ・政策立案、実施、評価のプロセス	長谷川
14	看護政策のあり方、立案、実施、評価のプロセス 4) (演習)	看護政策の分析 3) ・政策立案、実施、評価のプロセス ・看護行政の動向把握と課題の明確化	長谷川
15	まとめ	高度実践看護師としての実践と展望	長谷川
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・実験／演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション			
到達目標			
1. 看護実践で活用可能な医療制度、社会資源に関する知識を獲得する。 2. 看護政策立案の講義・演習を通し、看護政策策定のプロセスを説明できる。 3. 高度実践看護師としての看護政策への参画の必要性和役割について説明できる。			
準備学習 (予習・復習)			
○予習 各授業の学修内容について、参考図書等を読み、学修内容の概要を把握しておくこと。分からない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。 ○復習 授業資料の読み返しにより理解に努めること。			
成績評価方法			
学修態度により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
教科書及び参考書			
教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。 ＜参考図書＞ (1) 野村陽子：看護制度と施策，法政大学出版局，2015 (978-4588675188) (2) 見藤隆子ほか：看護職のための政策過程入門第 2 版，制度を変えると看護が変わる，日本看護協会出版会，2017 (978-4818020511) (3) 厚生労働統計協会：国民衛生の動向 2023／2024，2023 (03854-08)			
その他履修上の注意点等			

授業内容に関する質問は担当回の教員、授業の評価や課題レポートは代表教員にメール連絡すること。

**代表者**

**(氏名・E-Mail)**

長谷川 美香・mikah@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU107
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 または 2 年次
授業科目名：				キーワード：	
コンサルテーション論				コンサルテーション、相談、援助関係	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○上原 佳子		教 授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
長谷川 智子		教 授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp	
北野 華奈恵		講 師／基盤看護学		kyoshi @u-fukui.ac.jp	
礪波 利圭		講 師／基盤看護学		ritonami@u-fukui.ac.jp	
高森 巳早都		認知症看護認定看護師／福井大学 看護キャリアアップ部門		nmisato@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
専門看護師等の高度実践看護師が看護師や管理者などから臨床的な相談を受けた時、その相談内容を分析し、状況を改善するための知識や技術を助長するようなケアが提供できるように基礎的知識およびカウンセリングや問題解決技法を修得する。また、専門看護師等による高度な知識と技術を駆使した実践的なコンサルテーションのあり方を理解し、実践できる能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			教員
1	コンサルテーションの定義	コンサルテーションの概念と基本〔1-1〕 コンサルテーション・コンサルタント・コンサルティの定義と役割			長谷川
2	コンサルテーションの概念	コンサルテーションの在り方とコンサルティとしての能力			長谷川
3	コンサルテーションの基礎	コンサルテーションのプロセスとコンサルタントとしての援助関係の構築			長谷川
4	コンサルテーションの基礎	コンサルテーションのプロセスと援助関係の構築〔1-2〕 コミュニケーション技法			上原
5	コンサルテーションの基礎	コンサルテーションの方法〔2-1〕 組織へのコンサルテーション、認定看護師によるコンサルテーションの意義			上原
6	コンサルテーションの実際	1) 施設内におけるコンサルテーションの実際（3-①） 症例検討：病棟看護師、看護管理者からのコンサルテーション			長 谷 川 北 野
7	コンサルテーションの実際	2) 施設内におけるコンサルテーションの実際（3-②） ①事例を用いてエキスパートコンサルテーションとプロセス コンサルテーションの違いを知り、介入方法を習得する。 ②コンサルテーション体制の実際について検討する ③コンサルテーションの記録の実際について検討する			高森
8	コンサルテーションの実際	1) 地域・在宅領域におけるコンサルテーションの実際（3-①） 訪問看護師からのコンサルテーション症例検討			上原 礪波
9	コンサルテーションの実際	2) 地域・在宅領域におけるコンサルテーションの実際（3-②） 地域病院の看護師からのコンサルテーション症例検討			上原 礪波
10	コンサルテーションの実際	【演習課題】 自らのコンサルタントあるいはコンサルティとしての経験に			長 谷 川 礪波

11	コンサルテーションの実際	ついてまとめ、その時の自らの行動と考えについて客観的に評価する。	長谷川 礪波
12	コンサルテーションの実際	【演習課題】 コンサルテーションの意義とコンサルテーションのスキルにはどのようなものがあるのかについて事例を用いて述べる。	長谷川 北野
13	コンサルテーションの実際		長谷川 北野
14	コンサルテーションの実際	【演習課題】 コンサルテーションに関連する研究論文（原著論文・研究報告）を一つ選び、内容を要約し、学んだこと・考えたことをレポートにまとめる。	上原
15	コンサルテーションの実際		上原
授業の形式			授業形態
講義 ・ 演習			対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・実験／演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション			
到達目標			
1) 高度実践看護師によるコンサルテーションの概念を述べることができる。 2) 臨床的な相談に対して、高度実践看護師として専門的な状況分析ができる。 3) 臨床的問題に対して、高度実践看護師として問題解決に向けた技術を提供できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 各授業の学修内容について、参考図書等を読み、学修内容の概要を把握しておくこと。分からない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。			
○復習 授業資料の読み返しにより理解に努めること。			
○課題レポート 演習課題に関するレポートをまとめる。課題は各演習担当の教員に提出すること。			
成績評価方法			
課題レポート、修学態度により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
教科書及び参考書			
教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。			
参考図書 (1)エドガー・H・シャイン著、金井真弓訳、金井壽宏監訳：人を助けるとはどういうことか、本当の協力関係を つくる 7 つの原則第 1 版第 5 刷、英治出版、2010、ISBN：978-4-86276-060-9 (2)エドガー・H・シャイン著、稲葉元吉、尾川丈一訳：プロセス・コンサルテーション、援助関係を築くこと 第 1 版第 4 刷、白桃書房、2006、ISBN：978-4-561-13140			
その他履修上の注意点等			
授業内容に関する質問は担当回の教員、授業の評価は代表教員にメール連絡すること。			
代表者 (氏名・E-Mail)		上原 佳子・uehara@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU108
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 または 2 年次の通年
授業科目名：				キーワード：	
ヘルスアセスメント				フィジカルアセスメント、身体診察、 部位別身体診察、年齢の特徴、救急医療、 在宅医療	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○北野 華奈恵		講師/基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp	
長谷川 智子		教授/基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp	
四谷 淳子		教授/コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教授/臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
上原 佳子		教授/基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
対象者の健康状態を包括的に判断するために必要なフィジカルアセスメントの知識と方法を学ぶ。高度な看護実践を行うために、必要な情報を収集する身体面の観察技術(面接、視診、触診、打診、聴診、測定)を習得し、経緯や自覚症状などと照らし合わせながら問診を行い、観察した結果から対象の健康状態を評価するまでの過程を学習する。また、小児・高齢者など身体診察の年齢により変化をとまなうフィジカルアセスメントの知識、救急及び在宅医療の状況に応じた身体診察技術を修得する。なお、呼吸器系、循環器系、消化器系、中枢神経系、腎・泌尿器系、内分泌代謝系、筋骨格系など、全身を診査する内容を含む。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	身体診察基本手技  部位別身体診察手技（１）	身体診察基本手技の理論&演習 全身状態とバイタルサイン総論&各論 〔講義資料１－１（１）〕 頭頸部〔講義資料２－１（１）〕 演習１〔演習資料２－２（１）〕			長谷川智子
2	部位別身体診察手技（２）	胸部 〔講義資料２－１（２）〕 演習２〔演習資料２－２（２）〕			長谷川智子
3	部位別身体診察手技（３）	腹部 〔講義資料２－１（３）〕 演習３〔演習資料２－２（３）〕			上原佳子
4	部位別身体診察手技（４）	四肢・脊柱、泌尿・生殖器、乳房・リンパ節 〔講義資料２－１（４）〕 演習４〔演習資料２－２（４）〕			上原佳子
5	部位別身体診察手技（５）	神経系〔講義資料２－１（５）〕 演習５〔演習資料２－２（５）〕			北野華奈恵
6	身体診察の年齢による変化（１）	小児（１）〔講義資料１－１（１）〕 演習〔演習資料１－１（３）〕			北野華奈恵
7	身体診察の年齢による変化（２）	小児（２）〔講義資料１－１（２）〕 演習〔演習資料１－１（４）～（６）〕			北野華奈恵
8	身体診察の年齢による変化（３）	高齢者（１）〔講義資料１－２（１）～（２）〕			四谷淳子
9	身体診察の年齢による変化（４）	高齢者（２）〔講義資料１－２（３）〕			四谷淳子
10	身体診察の年齢による変化（５）	高齢者（３）〔講義資料１－２（４）〕 演習〔資料１－２（５）～（６）〕			四谷淳子
11	状況に応じた身体診察（１）	救急医療（１）〔講義資料２－１（１）〕 （全身診察）			磯見智恵
12	状況に応じた身体診察（２）	救急医療（２）（局所所見の観察、頭部～胸部）			磯見智恵
13	状況に応じた身体診察（３）	救急医療（３） 演習〔演習資料２－１（２）～（７）〕			磯見智恵

		(局所所見の観察，腹部～四肢)	
14	状況に応じた身体診察（４）	在宅医療（１）〔講義資料２－２（１）〕 （導入期、安定期、急性期、看取り期）	長谷川智子
15	状況に応じた身体診察（５）	在宅医療（２） 演習〔演習資料２－２（２）～（４）〕（認知症）	上原佳子
16	総合演習	これまでの講義に基づき、全身状態・緊急度の評価、問診、フィジカルアセスメント、適切な問診、意識の評価、腹部・胸部のアセスメントについて検討事例を上げてグループワークを行い、高度実践看護師としてフィジカルアセスメントの知識を応用した看護実践についてより深く学ぶ。	全教員
授業の形式		授業形態	
講義　・　演習 その他（授業は、一般社団法人 S-QUE 研究会の e-learning 科目「フィジカルアセスメント：基礎&応用」を受講する。学習内容の各講義を聴講し、講義確認テストを受講する。順序通りに受講することを推奨するが、各自、学びやすい順番で受講してかまわない） e-learning 受講後、全講義を通しての課題検討およびグループワークを行う。		対面・　遠隔（オンデマンド）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・実験／演習　　　　　・問題解決型学習　　　・ミニッツペーパー　　　・ミニテスト			
到達目標			
ヘルスアセスメントの理論について理解できる。 部位別身体診察手技が習得できる。 年齢別変化を理解したうえで、年齢層に応じた身体診察手技が習得できる。 救急医療・在宅医療の特徴を理解慕う上で、状況に応じた身体診察手技が習得できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第１回　身体基本手技の理論について 第２～５回　身体の各部位の解剖と機能について 第６～７回　小児の身体の特徴について 第８～１０回　高齢者の身体の特徴について 第１１～１３回　救急医療の特徴的疾患について 第１４～１５回　在宅医療の特徴的疾患について ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
学習態度（講義受講状況）、各回の確認テストの回答率、レポートにより総合的に評価する。 レポート課題「ヘルスアセスメントを学び、自らの課題について２ページ（A4）程度にまとめること」			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の５段階で評価する。			

<b>教科書及び参考書</b>	
教科書：特に指定はない。	
参考書：	
ベイツ診察法第2版、メディカルサイエンスインターナショナル、2015、4895927989	
ベイツ診察法ポケットガイド第3版、メディカルサイエンスインターナショナル、2015、4895927997	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
レポートは全ての講義を受講後、メールにて提出すること。	
<b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b>	北野 華奈恵・kyoshi@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU109
単 位 数：	2 単位	コマ数	16 コマ	開講時期：	1 または 2 年次の通年
授業科目名：				キーワード：	
病態生理学					
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○磯見 智恵		教授/ 臨床看護学		ichie @u-fukui.ac.jp	
四谷 淳子		教授/コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
長谷川 智子		教授/基盤看護学		hasekatz @u-fukui.ac.jp	
上原 佳子		教授/基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
北野 華奈恵		講師/基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
高度な看護実践に向けて、臨床病態（症状とメカニズム）について理解を深め、患者の身体を統合的に把握するための基礎知識を修得し、患者に対する援助方法や正常な機能へ戻すための方法について自ら考え対策を立て対処できるように、人体の正常な構造、および全身の器官・臓器の機能とそのメカニズムを学ぶ。人体の生理学的な機能異常に基づく代表的な疾患を理解し、エビデンスに基づいた最善のケアを提供できるよう、生理機能評価の方法と実際を学ぶ。 さらに、各器官・臓器ごとの疾病の定義と特徴及び顕微鏡所見、病因論などを学ぶ。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	病理学総論 (e-learning 通番 1, 3, 12, 20, 22)	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学			磯見
2	循環器系(1) (e-learning 通番 2)	心臓、血管、リンパ管の構造と機能			長谷川智
3	循環器系(2) (e-learning 通番 13, 21)	循環器系の異常、主な循環器疾患の病態生理			長谷川智
4	呼吸器系 (e-learning 通番 4, 14, 23)	呼吸器系の構造と機能、呼吸器疾患の病態生理			長谷川智
5	消化器系 (e-learning 通番 7, 24)	消化器系の構造と機能 主な消化器系疾患の病態生理			上原
6	肝・胆・膵 (e-learning 通番 24)	主な消化器系疾患の病態生理			上原
7	自律神経・内分泌 (e-learning 通番 5, 15)	自律神経の構造と機能、内分泌のしくみ 代表的な内分泌疾患の病態、診断、治療			磯見
8	運動器系 (e-learning 通番 6, 16)	構造と機能、骨格筋の構造、神経筋伝達メカニズム			四谷
9	生殖系 (e-learning 通番 8)	生殖系の構造と機能			上原
10	細胞・遺伝子 (e-learning 通番 9)	生物の遺伝情報の発現と伝達のしくみ			北野
11	泌尿器系 (e-learning 通番 10, 17)	泌尿器系の構造と機能 水と電解質異常、主な症状のメカニズム			四谷
12	免疫 (e-learning 通番 11, 26)	免疫機構としくみ（自然免疫と獲得免疫）			北野
13	感染	感染症の変貌、医療施設関連感染と市中感染			北野



	(e-learning 通番 25)	感染症の検査、抗菌薬、耐性菌の検出と耐性遺伝子	
14	がん (e-learning 通番 27)	がんの疫学、腫瘍の病態、発がん因子と予防	磯見
15	皮膚・感覚器系 (e-learning 通番 18, 19)	視覚器、聴覚器、味覚器、皮膚感覚器の形態と機能	四谷
16	総合演習	これまでの講義に基づき、各領域における代表的な疾患と治療、生活上の課題を上げ、課題に対し高度実践看護師として病態生理学の知識を活用した看護実践についてグループワークを通して学ぶ。	全教員
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習  その他（授業は、一般社団法人 S-QUE 研究会の e-learning 科目「臨床病態生理学」を受講する。学習内容の各講義を聴講し、講義確認テストを受講する。順序通りに受講することを推奨するが、各自、学びやすい順番で受講してかまわない）  e-learning 受講後、全講義を通しての課題検討およびグループワークを行う。		対面 ・ 遠隔（オンデマンド）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・実験／演習      ・問題解決型学習      ・ミニッツペーパー      ・ミニテスト			
到達目標			
1. 正常な人体の構造と機能について説明できる。 2. 生体の恒常性の意義と一般的なメカニズムを理解し、恒常性が保たれる様々な調節機能と制御機構について説明できる。 3. 生体へ障害や疾病をもたらす侵襲因子・障害物質について理解し、それに対する免疫減少や炎症反応の過程、さらに内分泌系と生体防御のかかわりについて説明できる。 4. 疾患の病態・経過の把握のために必要な生理機能評価の方法と実際を理解する。			
準備学習（予習・復習）			
○予習  各主題および学習内容を確認し、各系統の構造と機能および主要な疾患に関する病態と治療について大まかに理解した上で授業を受けること。  ○復習  授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
学習態度（講義受講状況）、各回の確認テストの回答率、レポートにより総合的に評価する。  レポート課題「病態生理を学び、自らの課題について2ページ（A4）程度にまとめること」			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
教科書：特に指定はない  参考図書			

. 松尾理. カラー図解症状の基礎からわかる病態生理. 第 2 版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2011 . 中込さと子監修, 西垣昌和ほか編 . 基礎から学ぶ遺伝看護学～「継承性」と「多様性」の看護学 . 羊土社, 2019	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
レポートは全ての講義を受講後、メールにて提出すること。	
<b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b>	磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU110
単 位 数：	2 単位	コマ数	16 コマ	開講時期：	1 または 2 年次の通年
授業科目名：				キーワード：	
臨床薬理学				薬物動態（PK），薬理学（TD），薬物相互作用，抗菌薬，抗がん剤，服薬管理	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教授/コミュニティ看護学		jyotsuya @u-fukui.ac.jp	
長谷川 智子		教授/基盤看護学		hasekatz @u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教授/臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
上原 佳子		教授/基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
北野 華奈恵		講師/基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
薬剤学・薬理学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬効、作用機構、副作用、リスクマネジメント等、臨床における薬物の理論と実際について学習する。また、小児、女性、高齢者等、年齢による特性・個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学ぶ。臨床薬理学の知識を活用し、高度臨床判断に基づく高度な看護実践能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	薬物動態の理論（1）	薬物の投与経路・吸収・分布 薬物の代謝・排泄　　〔講義資料 1-2), 1-3)〕			四谷淳子
2	薬物動態の理論（2）	薬物投与計画とその最適化 薬効の個人差に影響する因子 時間薬理学　　　　　〔講義資料 1-4)〕			四谷淳子
3	薬物動態の理論（3） 薬物動態演習	妊娠・授乳と薬物治療　　〔講義資料 1-5)〕 演習 1　　　　　　　　　〔演習資料 1-5)〕			四谷淳子
4	主要薬物の薬理作用・副作用の理論（1）	薬物の効果と副作用の理論，時間薬理学と薬物 応答性の個人差　　〔講義資料 1-1）-（1），（2）〕			四谷淳子
5	主要薬物の薬理作用・副作用の理論（2）	精神神経系に作用する薬物 〔講義資料 1-1）-（3）〕			四谷淳子
6	主要薬物の薬理作用・副作用の理論（3）	心・血管系に作用する薬物 〔講義資料 1-1）-（4）〕			磯見智恵
7	主要薬物の薬理作用・副作用の理論（4）	呼吸器系・消化器系に作用する薬物 〔講義資料 1-1）-（5）〕			長谷川智子
8	主要薬物の薬理作用・副作用の理論（5）	内分泌・代謝系に作用する薬物 〔講義資料 1-1）-（6）〕			磯見智恵
9	主要薬物の薬理作用・副作用の理論（6）	腎・泌尿器に作用する薬物と抗炎症薬 〔講義資料 1-1）-（7）〕			四谷淳子
10	主要薬物の薬理作用・副作用の理論（7）	骨・関節系に作用する薬物 〔講義資料 1-1）-（8）〕			四谷淳子
11	主要薬物の薬理作用・副作用の理論（8）	抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗がん剤 〔講義資料 1-1）-（9）〕			上原佳子
12	主要薬物の薬理作用・副作用の理論（9）	小児・妊婦・高齢者の薬物治療 〔講義資料 1-1）-（1）〕 演習 2　〔演習資料 1-2）-（1）〕			北野華奈恵
13	薬物相互作用と演習（1）	肝機能障害 各疾患の治療に使用する主要薬物①			四谷淳子
14	薬物相互作用と演習（2）	各疾患の治療に使用する主要薬物② 演習 3　〔演習資料 1-2）-（2）～1-2）-（4）〕			四谷淳子

15	主要薬物の安全管理と処方の理論	薬物治療の安全管理 〔講義資料 2-1〕 - 〔4〕 薬物治療に役立つ臨床薬理の基本 〔講義資料 2-1〕 - 〔5〕 演習 4〔演習資料 2-2〕 - 〔1〕, 〔2〕	四谷淳子
16	総合演習	これまでの講義に基づき、小児、女性、高齢者等、年齢による特性・個体差のある薬理作用と主要薬物の服用管理、生活上の課題を上げ、課題に対し高度実践看護師として臨床薬理の知識を活用した臨床判断についてグループワーク及びディスカッションを通して学ぶ。	全教員
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習 その他（授業は、一般社団法人 S-QUE 研究会の e-learning 科目「臨床薬理学」を受講する。学習内容の各講義を聴講し、講義確認テストを受講する。順序通りに受講することを推奨するが、各自、学びやすい順番で受講してかまわない） e-learning 受講後、全講義を通しての課題検討およびグループワークを行う。		対面 ・ 遠隔（オンデマンド）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・ 実験／演習          ・ 問題解決型学習          ・ ミニッツペーパー          ・ ミニテスト			
到達目標			
1. 臨床薬理の基礎知識を説明できる。 2. 薬物の動態・副作用・相互作用について説明できる。 3. 基礎的な疾患・病態における薬物治療の根拠を説明できる。 4. 代表的な薬剤についての投与方法、投与後のモニタリング、症状管理、服薬管理、服薬指導について説明できる。 5. 薬物療法を受ける患者への看護援助の意義および方法を考察できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第 1 回～第 3 回 薬物動態について 第 4 回～第 12 回 各疾患の治療に使用する主要薬物の薬理作用・副作用について 第 13 回～第 14 回 疾患の治療に使用する主要薬物の相互作用について 第 15 回 薬物治療の安全管理について ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
学習態度（講義受講状況）、各回の確認テストの回答率、レポートにより総合的に評価する。 レポート課題「臨床薬理学を学び、自らの課題について 2 ページ（A4）程度にまとめること」			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
教科書及び参考書			
教科書：特に指定はない。 参考書 1）医療情報科学研究所編：薬が見える Vol.1, メディックメディア, 2014. ISBN:9784896328318 2）医療情報科学研究所編：薬が見える Vol.2, メディックメディア, 2015. ISBN:9784896325850 3）医療情報科学研究所編：薬が見える Vol.3, メディックメディア, 2016. ISBN:9784896326406 4）医療情報科学研究所編：薬が見える Vol.4, メディックメディア, 2020. ISBN:9784896328004 5）笹原俊之編, 宮田篤郎編：ベッドサイドの薬理学, 丸善出版, 2018. ISBN:9784621302743			

<b>その他履修上の注意点等</b>	
レポートは全ての講義を受講後、メールにて提出すること。	
<b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b>	四谷淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU111
単 位 数：	1 単位	コマ数	8 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
国際地域看護学				異文化、国際協力、国際的視野	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
長谷川 美香		教 授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
○青木 未来		講 師／コミュニティ看護学		m-aoki@u-fukui.ac.jp	
平井 孝治		講 師／コミュニティ看護学		hirai-t@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
1. グローバルな視点から社会が抱える健康問題を理解し、看護師として貢献するために必要な基礎知識を学ぶ。 2. すべての人々に良質な看護を提供するために必要な国際的視野を養う。 3. 国の背景および異文化を理解し、個別性を尊重した看護とは何かを考える。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	イントロダクション	授業の概要と評価基準 国際看護を学ぶ意義			長谷川 青木
2	国際看護の概念と対象	世界にみる国際看護協力の歴史 日本における国際看護協力の歴史 世界の人々の健康にかかわる諸要因（人口学的・生物学的・文化学的・社会的・環境要因）			平井 青木
3	看護における文化	看護と文化 異文化の理解と看護			青木
4	世界の健康問題	世界の健康問題を理解するうえでの基本概念 世界的健康問題を引き起こす感染症、災害に起因する健康問題、関連する国際機関・国際協力機関			青木
5	世界の保健医療システムと課題	保健医療システムとは 世界の保健医療システムに関連する看護職の課題と課題解決法			青木
6	国際協力としての看護の実践	国際協力における看護教育・看護管理・看護政策			青木
7	国際地域看護の実践	在日外国人の医療と看護 看護英語の実践 ケアリング理論と実践			青木 平井
8	まとめ	これまでの学修内容を振り返り、社会が抱える健康問題とその解決方法についてのプレゼンテーション			青木、平井、 長谷川
授業の形式			授業形態		
講義 ・ 演習			対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用		

<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験／演習</li> <li>・問題解決型学習</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・グループワーク</li> <li>・授業外学習の推進</li> <li>・ディスカッション</li> <li>・ディベート</li> </ul>	
<b>到達目標</b>	
1. 国際地域看護学を学ぶ意義を説明できる。 2. 世界や日本における国際看護協力の歴史を説明できる。 3. 国際化を考慮した看護が必要とされる場所を説明できる。 4. 世界の健康課題を改善するためにどのような取り組みがなされているか説明できる。	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習：以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。                第1回 国際看護学の定義                第2回 国際看護協力の変遷、世界の人々の健康にかかわる諸要因                第3回 異文化の理解と看護                第4回 世界的健康問題、関連する国際機関・国際協力機関                第5回 保健医療システムの定義と内容                第6回 国際協力としての看護の実際                第7回 国際地域看護の実際                第8回 これまでの学習内容を振り返り、プレゼンテーション             </li> <li>・ 復習：授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b>	
修学態度、レポート、課題発表・討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
参考書： <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 森淑江，山田智恵理，正木治恵編集：国際看護，南江堂，2019。 ISBN:978452425264</li> <li>2) 渡部良典，峰松愛子，塚本尚子編集：看護英語入門ーケアリング理論と実践，上智大学出版，2023。 ISBN:978432411308</li> </ul>	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業への積極的な参加が求められます。</li> <li>・ 質問や困ったことがあれば、担当教員に早めに相談してください。</li> <li>・ 看護学科で実施する英国研修に参加可能とします。その場合は、第8回プレゼンテーションで研修成果を含めて発表してください。</li> </ul>	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	青木 未来 m-aoki@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU112
単 位 数：	2 単位	コマ数	15	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
保健医学統計				記述統計、推測統計、多変量解析、統計ソフト活用、疫学	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○藤田 亮介		教授/医学系部門医療統計学		rfujita@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
本授業では、保健医療分野におけるデータの収集、解析、解釈に必要な統計学の基礎から応用までを学びます。統計的手法の理解と実践を通じて、科学的根拠に基づく意思決定や課題解決に役立つ能力を養います。また、統計ソフトウェア（Excel、EZR など）を活用したデータ解析のスキルを習得し、現場での活用力を高めるとともに、論理的思考やチームでの協働能力を育成します。保健医療分野の課題に対し、統計を効果的に活用できる力を身につけることを目指します。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	オリエンテーションと統計学の概要	オリエンテーション、統計学の基本概念、保健医療における統計学の役割			藤田 亮介
2	データの種類と記述統計	データの種類（定性データ・定量データ）、中央値、平均、分散、標準偏差の計算、ヒストグラムや箱ひげ図による可視化			藤田 亮介
3	データ収集と調査設計	サンプリングの方法（無作為抽出、層化抽出など）、バイアスとエラーの種類、調査計画の立て方			藤田 亮介
4	確率の基礎	確率の基本概念、条件付き確率とベイズの定理、保健分野での確率の応用例			藤田 亮介
5	確率分布	二項分布と正規分布、ポアソン分布とその応用、正規分布の特徴と応用			藤田 亮介
6	推測統計の基礎	母集団と標本、点推定と区間推定、標本分布と信頼区間			藤田 亮介
7	仮説検定の基礎	仮説検定の概念（帰無仮説と対立仮説）、p 値と有意水準、t 検定の基礎			藤田 亮介
8	t 検定と応用	対応のある/ない t 検定、効果量の解釈、演習問題			藤田 亮介
9	分散分析（ANOVA）	一元配置分散分析の理論、分散分析の結果の解釈、多重比較（Tukey 法など）			藤田 亮介
10	相関と回帰分析	ピアソンの相関係数とその解釈、単回帰分析の基礎、回帰モデルの診断			藤田 亮介
11	多変量解析の基礎	重回帰分析、主成分分析と因子分析の概要、実際のデータを使った解析			藤田 亮介



12	統計ソフトの活用	Excel、EZR などの基礎操作、データ入力から解析までの流れ、実践演習	藤田 亮介
13	疫学と統計	疫学研究のデザイン（横断研究、コホート研究など）、リスク指標（相対リスク、オッズ比など）、感度と特異度	藤田 亮介
14	統計の限界とエビデンスの解釈	統計結果の誤用と解釈の注意点、エビデンスレベルの理解、統計活用のケーススタディ	藤田 亮介
15	総括と応用事例の発表	学んだ内容の振り返り、応用事例のプレゼンテーション、質疑応答とフィードバック	藤田 亮介
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・ 実験／演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ ミニッツペーパー ・ ディスカッション			
到達目標			
1. 保健分野で使用される統計の基礎を理解できる。			
2. データ解析の手法を学び、統計ソフトウェアを使用してデータを解析できる。			
3. 得られた結果を適切に解釈し、実際の課題に応用できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習			
各回の授業資料を Google Classroom に掲示するので、授業前に一読しておくこと。分からない用語については調べておくこと。さらに深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べた上で授業を受けること。			
○復習			
授業後は、授業資料の読み返し、演習のやり直しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
レポート提出（40%）、演習課題（30%）、最終プレゼンテーション（30%）			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
教科書及び参考書			
【教科書】			
指定しない。			
【参考書】			
・『改訂 7 版 保健統計・疫学』福富和夫、橋本 修二著、南山堂、2023（ISBN:978-4525053376）			
・『ていねいな保健統計学 第 2 版』白戸亮吉、鈴木研太著、羊土社、2022（ISBN:978-4758109765）			
・『親切的医療統計学 第 2 版』奥田千恵子著、金芳堂、2019（ISBN:978-4765317740）			
・『押さえておきたい臨床統計の勘所 入門から実践的アプローチまで』折笠秀樹著、ライフサイエンス出版、2022（ISBN:978-4897754529）			
・『みんなの医療統計 12 日間で基礎理論と EZR を完全マスター！（KS 医学・薬学専門書）』新谷歩著、講談社、2017（ISBN:978-4061563216）			
・『初心者でもすぐにできる フリー統計ソフト EZR（Easy R）で誰でも簡単統計解析(改訂第 2 版)』 神田善伸著、南江堂、2024（ISBN:978-4524218615）			

### その他履修上の注意点等

- ・ Classroom のクラスコードは受講者全員に事前通知します。
- ・ ノート PC を持参してください。事前に Excel、EZR をインストールしておくこと。
- ・ 質問は担当教員にメールしてください。
- ・ 質問・相談は随時受け付けます。

### 代表者

(氏名・E-Mail)

藤田 亮介 rfujita@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：	62CSU113
単 位 数：	2 単位	コマ数	16	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
英語論文閲読				クリティーク法 論文検索、論文作成	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○宇随 弘泰		教授/ 臨床看護学		huzui@u-fukui.ac.jp	
本田 信治		准教授/基盤看護学		s-honda@g.u-fukui.ac.jp	
平井 孝治		講師/コミュニティ看護学		hirai-t@u-fukui.ac.jp	
青木 未来		講師/コミュニティ看護学		m-aoki@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
英語で書かれた学術論文を効率的に読み解き、研究に役立つ知識を引き出す能力を養成することである。特に、論文の構造や論旨を把握し、クリティカルシンキング（クリティーク法）を用いた評価や議論のスキルを身につけることを目指す。					
1. 英語学術論文の基本構造を理解し、効果的に読み解く能力を学修する。					
2. 批判的思考を用いた論文評価と議論を行い、自らの研究に活用できる力を学修する。					
3. 英語での学術的な議論やプレゼンテーションスキルを学修する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	・イントロダクションとシラバス説明 ・英語学術論文の基本的な構造と形式	・授業の概要と評価基準 ・学術論文の基本構造と種類の理解：各セクションの役割を説明			宇随
2	Abstract と Introduction の理解	論文の概要を把握し、研究目的や背景情報の見極め方を学修する。			宇随
3	Methodology セクションの読み方	Methodology の重要性を理解し、研究デザインやサンプルサイズなどの評価方法を学修する。			宇随
4	Results セクションの分析	結果のデータやグラフの読み取り方を学び、統計的手法について基本的な理解を深める。			宇随
5	Discussion の評価	Discussion における研究結果の意義と限界の指摘、将来の展望の設定を学修する。			宇随
6	論文全体のクリティーク法：批判的思考を用いた論文評価	クリティカルリーディングの手法を用いて、論文全体を評価する方法を学修する			青木
7	参考文献の利用と引用の意義：文献レビューの方法	参考文献の適切な使用法とその信頼性の評価を学修する。			平井
8	研究論文のレビュー記事分析：レビュー論文・メタ解析論文の読み方	レビュー論文・メタ解析論文を効果的に活用し、研究の背景や動向を理解する。			本田
9	学術的な検索ツール・文献管理ツールの紹介	学術論文の検索とその管理を行うツールやサイトの紹介と実際の使用法を学修する。			平井
10-11	グループディスカッション：論文の批判的評価と議論	グループで選んだ論文を分析し、批判的な意見交換を行う。			宇随、本田、青木、平井
12-15	自らの研究テーマに関連する論文の選定と発表	研究に関連する論文を選び、要点を発表できるよう学修する。			宇随、本田、青木、平井
16-19	発表練習とフィードバック：プレゼンテーションスキルの向上	選定した論文の発表を行い、講師とグループからフィードバックを受ける。			宇随、本田、青木、平井
20-21	学会発表用スライド作成の基礎 データの視覚化とその解釈	英語でのプレゼンテーションスキルとコツを学修する。自分の研究データの視覚化の手法を学修する。グラフ・図・グラフィックアブストラクト作			青木、平井

		成の実践。	
22-25	学術的な議論の進め方 ：ディスカッションと論拠の提示	効果的な学術的議論の方法を学び、発表後の質疑応答の進め方を学修する。 論文を元に賛成・反対の立場で議論を行い、論理的な反論（ディベート）の実践。	宇随、本田、 青木、平井
26-29	論文作成の実際	Medical Writing Skills を用いた論文作成法の個別学修指導。	宇随、本田、 青木、平井
30	課題研究のテーマ選定	これまでの学修内容を振り返り、各自の自己研究テーマの設定と発表を行う。	宇随、本田、 青木、平井
授業の形式		授業形態	
※選択してください  （当てはまるものをすべて残し、その他を消去）  講義     ・    演習		※選択してください  （当てはまるものをすべて残し、その他を消去）  対面・    遠隔（オンデマンド）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
※導入している主体的・対話的教育手法を選択してください（当てはまるものをすべて残し、その他を消去）  ・ 演習             ・ プレゼンテーション  ・ グループワーク         ・ ディスカッション         ・ ディベート			
到達目標			
・ 英語論文を効率的に分析し、自分の研究に関連する内容を抽出できる。 ・ 批判的思考をもって論文を評価し、ディスカッションで意見を述べるができる。 ・ 英語で研究内容をまとめ、発表するスキルを身につける。			
準備学習（予習・復習）			
・ 予習：各講義前に指定された論文の事前読解と要点のまとめ。 ・ 復習：授業後の論文要約作成、ディスカッション内容の振り返りと復習。			
成績評価方法			
修学態度、レポート、課題発表・討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
教科書及び参考書			
教科書：特定の教科書は指定しないが、主要な学術論文データベース（PubMed、Google Scholar など）を使用 参考書：「はじめて学ぶ文献レビュー 第 2 版」総合医学社 若村智子(著)    メディカルオンラインで閲覧可 「医学論文の読み方 2.0」    中外医学社 片岡裕貴(著)    メディカルオンラインで閲覧可			
その他履修上の注意点等			
・ 授業への積極的な参加が求められます。 ・ 英語論文の検索と閲覧にはインターネット接続が必要です。 ・ 質問や困ったことがあれば、担当教員に早めに相談してください。			
代表者  （氏名・E-Mail）		宇随   弘泰（huzui@u-fukui.ac.jp）	

## 【専 門 科 目】

注)「担当教員名」の○印は，単位認定者を表す。

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62BAN101
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
基礎看護学特論				学術論文、人間理解、補完代替療法、尺度開発	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○上原 佳子		教 授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
長谷川 智子		教 授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp	
北野 華奈恵		講 師／基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp	
礪波 利圭		講 師／基盤看護学		ritonami@u-fukui.ac.jp	
本田 育美		教 授／名古屋大学大学院		ihonda@met.nagoya-u.ac.jp	
吉岡 さおり		教 授／京都府立医科大学		s-yoshi@koto.kpu-m.ac.jp	
学修目標					
学術的な論文の特徴を理解し、学術論文を作成する上で必要な基礎知識を身につける。 加えて、看護の対象となる人間を統合的・多面的に理解し捉えるために必要な様々なアセスメント方法とその評価について学ぶ。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	学術論文の基礎	看護系論文執筆ルール			長谷川
2	看護における国際的視点	海外における看護の動向			長谷川
3	疫学的視点	看護学における疫学的視点			長谷川
4	研究課題の検討(1)	基盤看護学分野における研究の実際			北野
5	研究課題の検討(2)	測定用具の種類と選択			北野
6	研究課題の検討(3)	基盤看護学分野における文献検討の実際			北野
7	補完代替療法と看護(1)	補完代替療法と看護への応用			上原
8	補完代替療法と看護(2)	補完代替療法に関する実験研究と評価			上原
9	質的研究事例 (1)	質的研究の進め方			礪波
10	質的研究事例 (2)	質的研究の実際			礪波
11	質的研究事例 (3)	質的研究の評価			礪波
12	尺度開発の方法	尺度開発と必要な知識			上原
13	尺度開発事例	尺度開発過程の実際			吉岡
14	人間の行動と評価	健康行動理論の概説と実際・評価			本田
15	情報伝達の実際	効果的プレゼンテーションの実際			長谷川・上原 北野・礪波
授業の形式				授業形態	
講義 ・ 演習				対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・実験／演習      ・問題解決型学習      ・プレゼンテーション      ・授業外学習の推進      ・ディスカッション					

<b>到達目標</b>
1. 学術論文の構成と内容について理解できる。 2. 学術論文の文献検討の方法について理解できる。 3. 人間理解のための視点やアセスメント方法とその評価について理解できる。 4. 尺度開発方法の概要が理解できる。
<b>準備学習（予習・復習）</b>
○予習 各授業の学修内容について、参考図書等を読み、学修内容の概要を把握しておくこと。分からない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。 ○復習 授業資料の読み返しにより理解に努めること。 ○課題レポート ・ 自らでテーマを決め、それについて以下の項目を満たしたレポートを作成すること。テーマは自分の好きなもの（こと、本、人、動物等）、趣味、はまっているもの（こと等）、人に紹介したいもの（こと等）とする。 ・ 好きな理由、はまっている理由等について客観的根拠を踏まえて述べること。 ・ 引用文献を入れること。 ・ 体裁はレポートの書き方あるいは American Psychology Association: APA フォーマットに従うこと。 ・ A4 レポート用紙 3 枚以内とすること。 ・ レポートの内容について、15 回「情報伝達の実際」授業で、パワーポイントにてプレゼンテーションを行う。
<b>成績評価方法</b>
課題レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、修学態度により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。
<b>成績評価基準</b>
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。
<b>教科書及び参考書</b>
教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。 < 参考図書 > (1) 前田樹海、江藤浩之著：APA②学ぶ看護系論文執筆のルール、医学書院、東京、2013、ISBN-13: 978-4-260-01739-8 (2) 木下是雄：理科系の作文技術（改版）、中央公論社、東京、2002。 ISBN-13:978-4121006240 (3) 清水幾太郎：論文の書き方（改版）、岩波書店、東京、2015。 ISBN-13:978-4004150923 (4) 小笠原知枝、松木光子編集：これからの看護研究－基礎と応用－（第 3 版）、ヌーヴェルヒロカワ、東京、2012。 ISBN-13:978-4861740350 (5) 小塩真司他：質問紙調査の手順（心理学基礎演習；vol. 2）、ナカニシヤ出版、京都、2007。 ISBN-13:978-4779502002 (6) 堀洋道監修、山本真理子編：心理測定尺度集Ⅰ 人間の内面を探る「自己・個人内過程」、サイエンス社、東京、2001。 ISBN-13:978-4781909875 (7) 堀洋道監修、吉田富二雄編：心理測定尺度集Ⅱ 人間と社会のつながりをとらえる「対人関係・価値観」、サイエンス社、東京、2001。 ISBN-13:978-4781909882 (8) 堀洋道監修、松井豊編：心理測定尺度集Ⅲ 心の健康をはかる「適応・臨床」、サイエンス社、東京、2001。 ISBN-13:978-4781909899 (9) 堀洋道監修、松井豊編：心理測定尺度集Ⅳ 子どもの発達を支える「対人関係・適応」、サイエンス社、東京、2007。 ISBN-13:978-4781911670

- (10) 堀 洋道監修、吉田 富二雄、宮本 聡介編：心理測定尺度集Ⅴ 個人から社会へ「自己・対人関係・価値観」、サイエンス社、東京、2011. ISBN-13：978-4781912721
- (11) 堀 洋道監修、松井 豊編、宮本 聡介編：心理測定尺度集Ⅵ 現実社会とかかわる「集団・組織・適応」、サイエンス社、東京、2011. ISBN-13：978-4781912745
- (12) 宮本 聡介、宇井 美代子編：質問紙調査と心理測定尺度―計画から実施・解析まで サイエンス社、東京、2014. ISBN-13：978-4781913414
- (13) 鎌原雅彦他：心理学マニュアル 質問紙法、北大路書房、京都、1998. ISBN-13:978-4762821097
- (14) 小塩真司：研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析（第 3 版）、東京図書、東京、2020. ISBN-13:978-4489023354
- (15) 今西二郎編：医療従事者のための補完・代替医療（改訂 2 版）、金芳堂、京都、2009. ISBN-13:978-4765313759
- (16) アメリカ心理学会著、前田樹海他訳：APA 論文作成マニュアル第 2 版、医学書院、東京、2011. ISBN-13：978-4260012201
- その他、授業において適宜提示する。

#### その他履修上の注意点等

授業内容に関する質問は担当回の教員、授業の評価や課題レポート、プレゼンテーション等科目全体に関する質問は代表教員にメール連絡すること。

#### 代表者

(氏名・E-Mail)

上原 佳子・uehara@u-fukui.ac.jp



教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62BAN102
単 位 数：	4 単位	コマ数	30 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
基礎看護学演習					
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○上原 佳子		教 授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
長谷川 智子		教 授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp	
北野 華奈恵		講 師／基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp	
礪波 利圭		講 師／基盤看護学		ritonami@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
修士論文のテーマに関する文献講読を通して研究課題を明確にして、課題に応じた研究方法、研究計画の作成能力、遂行能力を養う。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1～3	看護実践を踏まえた研究的課題の検討	研究動機の明確化			上原・長谷川・北野・礪波
4～6	研究の意義・視点の検討	リサーチクエッション			〃
7～9	過去の研究背景の分析	文献クリティーク			〃
10～12	過去の研究における課題	文献クリティーク			〃
13～15	研究の概念枠組みの検討	理論的背景			〃
16～18	研究方法の検討	帰納法的、演繹手法、研究デザイン			〃
19～21	分析手法の検討	量的・質的な分析と相補関係			〃
22～24	結果のまとめ方	結果の効果的な表示方法・書き方			〃
25～27	考察と結論のまとめ方	考察と結論の効果的な表示方法・書き方			〃
28～30	発表・プレゼンテーションの方法	効果的・説得力のあるプレゼンテーション			〃
授業の形式			授業形態		
演習			対面・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用		
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・実験／演習      ・問題解決型学習      ・プレゼンテーション      ・授業外学習の推進      ・ディスカッション					
到達目標					
1. 文献講読を通して、研究論文のまとめ方が理解できる 2. 文献クリティークができる 3. 研究課題を明確にできる 4. 研究課題に応じた研究方法や研究計画が説明できる					
準備学習（予習・復習）					
予習：各自の研究課題に関連した研究論文を文献検索し、熟読する。その中から、文献講読する文献を選択し、熟読し、文献クリティークする。文献講読の資料を作成する。					
復習：文献講読でディスカッションした内容を整理する。					

<b>成績評価方法</b>	
プレゼンテーション、ディスカッション、修学態度、成果物により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
教科書は指定しない。	
＜参考書＞	
(1) D.F. ポーリット、C. T. ベック：近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法（第 2 版）、医学書院、東京、2010. ISBN-13: 978-4260005265	
(2) 小笠原知枝、松木光子編集：これからの看護研究－基礎と応用－（第 3 版）、ヌーヴェルヒロカワ、東京、2012. ISBN-13: 978-4861740350	
(3) 崎村耕二著：最新英語論文によく使う表現基本編、創元社、東京、2017. ISBN-13: 978-4422810867	
(4) 福田尚代、西山聖久著：理工系なら必ず知っておきたい 英語論文を読みこなす技術、誠文堂新光社、東京、2016. ISBN-13: 978-4416715253	
(5) 後藤 匡啓著、長谷川 耕平監修：僕らはまだ、臨床研究論文の本当の読み方を知らない。～論文をどう読んでどう考えるか、羊土社、東京、2021. ISBN-13: 978-4758123730	
(6) アメリカ心理学会著：前田樹海ほか訳。APA 論文作成マニュアル(第 2 版)、医学書院：東京、2011. ISBN-13: 978-4260012201	
その他、演習中で適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 質問は担当教員にメールしてください。</li> <li>● 課題は教員全員にメール添付して提出してください。必ず内容がわかるようなファイル名（下記参照）にしてください。 (研究計画書例：学生氏名_研究計画書_Ver#_ゼミ日西暦) (文献例：筆頭著者_論文タイトル短縮版_雑誌名_巻_号_発行年) (文献カード例：学生氏名_文献カード_Ver#_論文タイトル短縮版_雑誌名)</li> <li>● 対面で演習を行う場合は、参加人数分の資料を印刷してください。</li> <li>● レポート等の書式は APA フォーマットに準じてください。</li> </ul>	
<b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b>	上原 佳子・uehara@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62BAN203	
単 位 数：		12 単位		コマ数		90 コマ	
開講時期：		2 年次通年					
授業科目名：				キーワード：			
基礎看護学特別研究							
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス			
○上原 佳子		教 授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp			
長谷川 智子		教 授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp			
北野 華奈恵		講 師／基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp			
礪波 利圭		講 師／基盤看護学		ritonami@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
1. 修士論文のテーマに関する文献講読を通して研究課題を明確にし、研究の意義を見出す。 2. 研究課題に応じた研究方法を選択し、研究計画を作成・実施する。 3. 得られたデータを的確に分析・考察し、研究の臨床的应用を見出す。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1～5	研究的課題の明確化	各自の研究課題、問題意識の明確化				上原・長谷川・北野・礪波	
6～15	研究課題の現状と意義の検討	文献クリティーク				〃	
16～25	研究方法の検討	研究の限界と研究デザインの検討				〃	
26～35	研究計画の立案	研究デザインの作成				〃	
36～50	研究計画の実施	計画の実施とデータ収集の実際				〃	
51～60	データ分析	データ分析とその解析方法				〃	
61～70	結果の評価	結果と考察の文章化				〃	
71～80	研究の文章化	修士論文の作成				〃	
81～90	研究内容の公開	効果的プレゼンテーション				〃	
授業の形式				授業形態			
演習・実験				対面・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・実験／演習      ・問題解決型学習      ・プレゼンテーション      ・授業外学習の推進      ・現地調査 ・ディスカッション							
到達目標							
1. 研究課題を明確化できる 2. 研究課題に応じた研究計画を立案できる 3. 的確な方法でデータ収集および分析ができる 4. 結果を的確に考察できる 5. 研究成果を論文にまとめることができる 6. 研究成果を効果的にプレゼンテーションできる 7. 研究成果の臨床的应用について述べるができる							

<b>準備学習（予習・復習）</b>	
常に、自己の研究課題に関する研究論文、研究に関連する参考図書を熟読し、研究計画や研究の実施に活用する。適宜、担当教員の指導を受け、その内容を整理し、主体的に疑問や課題を解決しながら研究を実施する。	
<b>成績評価方法</b>	
プレゼンテーション、ディスカッション、修学態度、成果物により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
教科書は指定しない。	
参考書	
(1) アメリカ心理学会著、前田樹海ほか訳。（2011）APA 論文作成マニュアル第 2 版、医学書院：東京、ISBN-13：978-4260012201	
その他、演習中に適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 質問は担当教員にメールしてください。</li> <li>● 課題、計画書、論文等は教員全員にメール添付して提出してください。必ず内容がわかるようなファイル名（下記参照）にしてください。</li> <li>● （研究計画書例：学生氏名_研究計画書_Ver#_ゼミ日西暦）</li> <li>● （文献例：筆頭著者_論文タイトル短縮版_雑誌名_巻_号_発行年）</li> <li>● （文献カード例：学生氏名_文献カード_Ver#_論文タイトル短縮版_雑誌名）</li> <li>● 対面で演習を行う場合は、参加人数分の資料を印刷してください。</li> <li>● レポート等の書式は APA フォーマットに準じてください。</li> </ul>	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	上原 佳子・uehara@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62ADU101
単位数：	2単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
成人看護学特論				成人、ライフサイクル、健康、看護	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui. ac. jp	
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui. ac. jp	
宇随 弘泰		教授／臨床看護学		huzui@u-fukui. ac. jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui. ac. jp	
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui. ac. jp	
学修目標					
成人期にある人とその家族への看護の基盤となる概念や理論について探求し、看護を創造する基礎的能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	成人の定義と成人期の特徴	成人とは、心身の変化と社会との相互作用、成人を取り巻く現状			佐藤
2-3	成長発達からみた成人の特徴	生涯発達理論・ライフサイクル論を活用したリフレクションでの事例検討			月田
4	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護	ヘルスプロモーション、ヘルスプロテクション			磯見
5-6	成人への看護アプローチの基本	行動変容モデル、実践における倫理的判断、家族支援、症状マネジメントにおける看護技術			磯見
7	人生最期の時を支える看護	意思決定支援、ACP、エンドオブライフケア			磯見
8	成人看護学での臨床研究の検討①	成人看護学分野における研究論文を読み解く			月田
9-10	成人看護学での臨床研究の検討②	成人看護学分野における研究論文のクリティーク			佐藤・磯見・宇随・月田・清水
11-13	成人看護学で用いる諸理論	対人関係・セルフケア、適応に関する理論、成人学習に関する理論を活用した実践現場での事例検討			磯見・月田
14-15	成人看護学での臨床研究の検討③	研究論文のクリティークに基づく成人看護学分野の課題の検討			佐藤・磯見・宇随・月田・清水
授業の形式				授業形態	
講義 ・ 演習				対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・演習 ・プレゼンテーション ・授業外学習の推進 ・ディスカッション					
到達目標					
1. ライフサイクルにおける成人期の特徴と健康課題について説明できる。 2. 成人看護学で重要な概念と理論について説明できる。また事例検討への理論の活用について説明できる。 3. 成人看護学における研究論文を収集し、クリティークすることができる。 4. 研究論文のクリティークを通して、成人看護学分野の看護の課題を説明できる。					

<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<p>予習：各授業の学修内容について、教科書や参考図書を熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。</p> <p>復習：授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>	
<b>成績評価方法</b>	
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62ADU102
単位数：	4単位	コマ数	60 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
成人看護学演習				成人、看護、文献クリティーク、 研究計画	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
宇随 弘泰		教授／臨床看護学		huzui@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
成人期にある対象の健康及び健康障害における課題と看護に関する文献を分析・考察し、自らの研究課題とそれを明らかにするための研究計画を探究する基礎的能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1～ 10	成人期の健康問題と看護に関する文献 のクリティーク	成人期に生じやすい健康問題と看護実践に関 する研究論文を多角的に検討し、体系的に知識 を整理する。			佐藤・磯見・ 宇随・月田・ 清水
11～ 40	関心のある領域の文献クリティーク	関心のある領域における研究の動向を検討し、 知見を整理する。クリティークを通して多様な 研究方法を学ぶ。英語論文を抄読する。			”
41～ 60	研究課題の明確化と研究計画の立案	文献クリティークにより、自己の研究課題を明 確にする。研究課題を明らかにするための研究 方法について検討し、研究計画を立案する。			”
授業の形式				授業形態	
演習				対面・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・実験／演習      ・プレゼンテーション      ・授業外学習の推進      ・ディスカッション					
到達目標					
1. 必要な文献を収集し、文献クリティークを行い、レビューをまとめることができる。 2. 成人期に生じやすい健康問題と看護実践において、明らかになっている知見を説明できる。 3. 関心のある領域における研究の動向と、明らかになっている知見を説明できる。 4. 自己の研究課題とそれを明らかにするための研究方法について説明できる。					
準備学習（予習・復習）					
予習：各授業の学修内容について、図書や研究論文等を熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や 深く知りたいことは、自分で調べたうえで授業を受けること。 復習：授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日まで に提出すること。					
成績評価方法					

修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。

#### 成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。

#### 教科書及び参考書

適宜紹介する。

#### その他履修上の注意点等

#### 代表者

(氏名・E-Mail)

磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp



教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62ADU203
単 位 数：	12 単位	コマ数	180 コマ	開講時期：	2 年次通年
授業科目名：				キーワード：	
成人看護学特別研究				成人、健康、看護、研究論文	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
宇随 弘泰		教授／臨床看護学		huzui@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
自己の研究課題を明らかにするための一連の研究プロセスに取り組むことで、研究を展開する基礎的能力を修得する。また得られた研究結果の実践への活用について探求する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	研究課題の明確化と研究計画の立案	研究課題に基づいて、目的、意義、研究方法（対象、調査方法と内容、分析方法）を検討する。			佐藤・磯見・宇随・月田・清水
2	実施のための準備・調整	倫理審査の申請を行い、承認を得る。調査施設や対象者と研究実施のための調整を行う。			〃
3	データ収集	研究計画に基づいて、データを収集する。			〃
4	データの分析、考察	研究結果について多面的に検討し、先行研究との比較検討を行う。			〃
5	研究論文の作成	研究論文を作成する。			〃
6	研究発表	作成した論文に基づいて、スライドならびに発表原稿を作成し、発表する。研究内容に対する意見を踏まえ、研究プロセスを振り返る。			〃
授業の形式				授業形態	
演習				対面・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・実験／演習      ・問題解決型学習      ・プレゼンテーション      ・授業外学習の推進      ・現地調査 ・ディスカッション					
到達目標					
1. 研究課題に基づいて、目的、意義、研究方法を説明できる。 2. 研究計画書を作成し、発表することができる。 3. 調査を実施し、結果について多面的に検討し、先行研究との比較検討を行い、新たな知見を説明できる。 4. 研究内容をプレゼンテーション資料にまとめ、分かりやすく発表することができる。 5. 研究プロセスを振り返り、今後の課題について説明できる。					
準備学習（予習・復習）					
予習：各授業の学修内容について、図書や研究論文等を熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や深く知りたいことは、自分で調べたうえで授業を受けること。 復習：授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日まで提出すること。					

<b>成績評価方法</b>	
修学態度、ゼミナール討論、研究内容により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b>	磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62CAN101
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特論				がん医療、がん患者、家族、看護	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
宇随 弘泰		教 授／臨床看護学		huzui@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
がん患者とその家族への看護の基盤となる概念や理論について探求し、看護を創造する基礎的能力を修得する。 がんの診断時から終末期に至るまでの、がん患者とその家族の特徴を理解し、看護（心理社会的支援を含む）を追究することができる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1-2	がん医療の動向	がんの人口統計学的特徴 がん医療発展の歴史と医療制度政策			磯見
3	がん看護の対象の特徴と看護の役割	がん看護学の定義 成熟期にあるがん患者・家族の特徴 がんサバイバーシップの概念 がんの予防行動と看護の役割			磯見
4	治療に伴う看護（1）手術療法	最新の手術療法と周手術期における看護援助 （4-6 回は、OCNS と合同）			佐藤
5	治療に伴う看護（2）薬物療法	最新のがん薬物療法と治療に伴う看護援助			〃
6	治療に伴う看護（3）放射線療法	最新の放射線療法と治療に伴う看護援助			〃
7	成熟期にあるがん患者・家族への看護と多職種連携	倫理的判断、家族支援、症状マネジメント、多職種連携			磯見
8-9	がん患者のストレスフルな状況や危機的状況に活用できる理論	理論の理解と事例への適用 ・ストレス・コーピング理論 ・アギュララとメズニックの問題解決型理論 ・フィンの危機理論			佐藤
10-11	がん患者のセルフケア支援に関する理論	理論の理解と事例への適用 ・オレムのセルフケア理論 ・自己効力理論 ・セルフマネジメント			磯見
12	がん患者の人生最期の時を支える看護	アドバンス・ケア・プランニング（ACP） エンドオブライフ・ケア（EOL）			磯見
13	がん看護学での臨床研究の検討①	がん看護学分野における研究論文を読み解く			月田
14-15	がん看護学での臨床研究の検討②	がん看護学分野における研究論文のクリティーク			磯見・佐藤・宇随・月田・清水
授業の形式				授業形態	
講義 ・ 演習				対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	

<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>	
・演習      ・プレゼンテーション      ・授業外学習の推進      ・ディスカッション	
<b>到達目標</b>	
1. がん患者と家族の特徴と健康課題について説明できる。 2. がん看護学で重要な概念と理論について説明できる。また事例検討への理論の活用について説明できる。 3. がん看護学における研究論文を収集し、クリティークすることができる。 4. 研究論文のクリティークを通して、がん看護学分野の看護の課題を説明できる。	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
予習：各授業の学修内容について、教科書や参考図書を熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。 復習：授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日まで提出すること。	
<b>成績評価方法</b>	
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
専門看護師を目指す院生と研究を主体として学ぶ院生が共に学び合うことで、新たな視点や発想に気づいたり、理解や思考を深める場となっています	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62CAN102
単位数：	4単位	コマ数	コマ	開講時期：	1年次後期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学演習				がん看護、文献クリティーク、研究課題の明確化	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
宇随 弘泰		教授／臨床看護学		huzui@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
がん看護に関連する文献のクリティークを通して研究課題を明確にし、研究計画の作成に必要な基礎的能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1-15	国内外のがん看護に関連する文献のクリティーク (1)	国内外のがん看護に関連する文献を収集し適切にクリティークする			磯見・月田
15-30	がん看護における文献のクリティーク (2)	文献レビューを作成する 文献クリティークを通して、がん看護における研究の動向や最新の知見、研究方法について吟味する			磯見・月田
30-45	研究課題の明確化	文献レビューを通して、自らの研究課題を明確にする			磯見・月田
45-60	研究計画書の立案	文献レビューにより、自己の研究課題を明確にする。研究課題を明らかにするための研究方法について検討し、研究計画を立案する			磯見・佐藤・宇随・月田・清水
授業の形式				授業形態	
演習				対面・遠隔 (リアルタイム) 上記を併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・演習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ディスカッション					
到達目標					
① 国内外のがん看護に関連する文献を収集し、多角的な視点で検討することができる					
② がん看護における研究の動向や最新の知見、研究方法について明らかにできる					
③ 自己の研究課題を明確にし、研究計画書を立案することができる					
準備学習 (予習・復習)					
○予習：各授業の学修内容について、図書や研究論文等を熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や深く知りたいことは、自分で調べたうえで授業を受けること。					
○復習：復習:授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。					

<b>成績評価方法</b>	
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
専門看護師を目指す院生と研究を主体として学ぶ院生が共に学び合うことで、新たな視点や発想に気づいたり、理解や思考を深める場となっています	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62CAN203
単位数：	12 単位	コマ数	90 コマ	開講時期：	2 年次通年
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特別研究				がん看護、研究論文 プレゼンテーション	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
がん看護学分野において自ら選んだ研究課題について探究し修士論文を作成する。一連の研究プロセスに取り組むことで、研究を展開する基礎的能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	研究課題の明確化と研究計画の立案	研究課題に基づいて、目的、意義、研究方法（対象、調査方法と内容、分析方法）を検討する。			磯見 月田
2	実施のための準備・調整	倫理審査の申請を行い、承認を得る。調査施設や対象者と研究実施のための調整を行う。			〃
3	データ収集	研究計画に基づいて、データを収集する。			〃
4	データの分析、考察	研究結果について多面的に検討し、先行研究との比較検討を行う。			〃
5	研究論文の作成	研究論文を作成する。			〃
5	研究発表	作成した論文に基づいて、スライドならびに発表原稿を作成し、発表する。研究内容に対する意見を踏まえ、研究プロセスを振り返る。			〃
授業の形式				授業形態	
・ 演習				対面・遠隔（リアルタイム） 上記を併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・ 実験／演習      ・ 問題解決型学習      ・ プレゼンテーション      ・ 授業外学習の推進      ・ 現地調査 ・ ディスカッション					
到達目標					
1. 研究課題に基づいて、目的、意義、研究方法を説明できる。 2. 研究計画書を作成し、発表することができる。 3. 調査を実施し、結果について多面的に検討し、先行研究との比較検討を行い、新たな知見を説明できる。 4. 研究内容をプレゼンテーション資料にまとめ、分かりやすく発表することができる。 5. 研究プロセスを振り返り、今後の課題について説明できる。					
準備学習（予習・復習）					
予習：各授業の学修内容について、図書や研究論文等を熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や深く知りたいことは、自分で調べたうえで授業を受けること。 復習：授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日まで提出すること。					
成績評価方法					

<p>修学態度、ゼミナール討論、研究内容により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。</p>	
<p><b>成績評価基準</b></p> <p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。</p>	
<p><b>教科書及び参考書</b></p> <p>適宜紹介する。</p>	
<p><b>その他履修上の注意点等</b></p>	
<p><b>代表者</b> (氏名・E-Mail)</p>	<p>磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp</p>



教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62DIS101
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学特論				災害看護、災害サイクル、被災者、援助者、要配慮者、防災、復興、専門職連携	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
災害看護の基盤となる概念・理論を学び、災害種類や災害サイクル・被災者や援助者特性に応じた災害看護を展開する能力を修得する。また、災害看護に関する現状と課題について理解し、関連研究について理解を深める。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1-2)	災害看護の定義と特徴	災害看護の定義、災害と倫理			佐藤・清水
3-4)	災害看護の理論と概念	ストレス反応、危機理論、セルフケア理論、災害関連死、生活不活発病などの理論や概念を活用した実践現場の事例検討			〃
5-6)	災害種類・災害サイクル別による生活上の諸問題	災害種類・災害サイクルにおける身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題			佐藤・清水 酒井
7-9)	被災者・援助者の特性	要配慮者の定義と対象の特徴を踏まえた生活援助、被災者と援助者の特性と支援の実際			〃
10-11)	地域防災、病院防災	住民や住民組織による地域防災と看護支援、災害時の初動体制、BCP や災害対応訓練			〃
12)	復興支援	復興支援時の諸問題と看護介入、災害対応政策における課題			佐藤・清水
13)	専門職連携	災害支援活動における IPW			〃
14-15)	災害看護学領域における研究の検討	災害看護学領域における研究論文のクリティーク			佐藤・清水 酒井
授業の形式			授業形態		
講義			対面・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（ 対面      ・ 遠隔(リアルタイム) ）		
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・問題解決型学習      ・プレゼンテーション      ・反転授業 ・グループワーク      ・授業外学習の推進      ・ディスカッション					
到達目標					
① 被災者や要配慮者、援助者の特徴を理解し、災害看護に適用できる主要な理論や概念を用いて災害時の現象を説明できる。					
② 災害種類・災害サイクルにおける生活上の諸問題および看護について説明できる。					
③ 地域や病院など、場所別での備えや訓練について説明できる。					
④ 災害支援活動における専門職連携について説明できる。					
⑤ 災害看護学領域における研究の動向や既存の研究と自己の研究との関連や相違性について説明できる。					

<b>準備学習（予習・復習）</b>	
○予習 第 1～13 回 各回の授業内容に沿い、学習した内容をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。また、ディスカッション内容を明確にし、授業を受けること。 第 14～15 回 各自の研究テーマに関連した文献、参考図書をレビューし内容を整理する。さらに 1 文献を選びクリティークした上で講義に臨むこと。	
○復習 授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。	
<b>成績評価方法</b>	
レポート (40%)、プレゼンテーション (30%)、討議 (30%) を総合して評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし 適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62DIS102
単 位 数：	4 単位	コマ数	60 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学演習				災害看護、文献クリティーク 研究課題の明確化	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
災害看護学に関する文献のクリティークを通して研究課題を明確にし、研究計画の作成に必要な基礎的能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	文献のクリティークⅠ	国内外の災害看護学領域に関する研究を多角的視点で検討し、体系的に知識を整理し、関連文献のクリティークを行う			佐藤・清水 酒井
2	文献のクリティークⅡ	文献レビューを作成する。 災害看護学領域や関心のある領域における研究の動向や新たな知研、研究方法を明らかにする。			〃
3	研究課題の明確化	文献レビューより、災害発生時や備えの時期に応じた、個人・家族・地域・医療機関などにおける研究課題を明確にする。			〃
授業の形式				授業形態	
演習				対面・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（ 対面 ・ 遠隔（リアルタイム） ）	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・演習      ・プレゼンテーション      ・グループワーク      ・授業外学習の推進      ・ディスカッション					
到達目標					
① 国内外の災害看護学領域に関する研究を多角的視点で検討し、体系的に知識を整理することができる。 ② 災害看護学領域や関心のある領域における研究の動向や新たな知研、研究方法を明らかにすることができる。 ③ 自己の研究課題を明確にすることができる。					
準備学習（予習・復習）					
○予習 各自の研究テーマに関連した文献、参考図書等をレビューし、次の授業までに整理しておくこと。より深く知りたいことが生じた場合には、さらに自分で調べ、疑問点、ディスカッション内容等を明確にし、授業を受けること。 ○復習 授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。 レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。					
成績評価方法					
レポート(40%)、プレゼンテーション（30%）、 討議（30%）を総合して評価する。					

<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし 適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62DIS203
単位数：	12単位	コマ数	180コマ	開講時期：	2年次通年
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学特別研究				研究課題の明確化、研究計画立案、 研究の展開、先行研究との比較検討 論文作成、研究発表	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
講義・演習による知識の活用および文献検討をふまえて、災害看護分野に関する研究課題を科学的に探究する。研究テーマの明確化、研究計画書の作成、データ収集と結果、論文作成までの過程を学ぶ。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1)	研究課題の明確化と研究計画の立案	研究課題に基づき研究計画の概要を明確にする			佐藤・磯見 清水・酒井
2)	研究計画の調整	研究計画に基づき計画の実施について調整する			〃
3)	データ収集	研究計画に基づき研究を展開する			〃
4)	データの分析、考察	研究結果について多面的に検討し、先行研究と比較検討する			〃
5)	研究論文の作成	研究論文を作成する			〃
6)	発表	作成した論文に基づき発表する			〃
授業の形式				授業形態	
演習・個別指導				対面・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（ 対面 ・ 遠隔（リアルタイム） ）	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・プレゼンテーション      ・授業外学習の推進      ・ディスカッション					
到達目標					
① 研究課題に基づき研究計画の概要を明確にすることができる。 ② 研究計画に基づき計画の実施について調整することができる。 ③ 研究計画に基づき研究を展開することができる。 ④ 研究結果について多面的に検討し、先行研究と比較検討することができる。 ⑤ 研究論文を作成することができる。 ⑥ 作成した論文に基づき発表し、説明することができる。					
準備学習（予習・復習）					
○予習 指導教員・副指導教員と相談し、研究を進める。 ○復習 追加学修が必要な項目について学修する。					

<b>成績評価方法</b>	
研究過程における取り組み姿勢、プレゼンテーション状況、作成された修士論文及び論文発表状況を総合して評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし 適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。	
<b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b>	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62COM101
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：  地域看護学特論				キーワード：家族、健康政策、地域包括 ケアシステム、在宅看護	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp	
川口 めぐみ		准教授／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp	
夏梅 るい子		助教／コミュニティ看護学		natu-rui@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
地域で生活している様々なライフステージの人々や地域を対象として、地域住民の健康管理、地域包括ケアシステムの構築およびQOLの向上を目指し、家族のアセスメント・介入、保健指導等の看護支援について学び、関連研究について理解を深める。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	ガイダンス	地域看護の定義			長谷川
2	家族の理論 1)	家族の発達段階と課題 1)			川 口
3	〃 2)	家族の発達段階と課題 2)			川 口
4	〃 3)	家族の発達段階と課題 3)			川 口
5	家族のアセスメント・介入モデル 1)	カルガリーモデル 1)			長谷川
6	〃 2)	カルガリーモデル 2)			長谷川
7	〃 3)	カルガリーモデル 3)			長谷川
8	家族の中の暴力 (ドメスティック・バイオレンス)	暴力が健康に与える影響、看護職の役割			長谷川
9	健康づくり政策 1)	近代日本における死因分類の始動と意義			北 出
10	〃 2)	ポピュレーションアプローチ			北 出
11	〃 3)	乳児の健康を規定する要因			夏 梅
12	地域のケアシステム 1)	後期高齢者への保健事業			北 出
13	〃 2)	健康づくり政策の実際と評価			北 出
14	地域における健康危機管理 1)	地域防災計画と保健活動			北 出
15	〃 2)	健康危機管理の実際			北 出
授業の形式				授業形態	
講義・演習				対面・ 遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・プレゼンテーション ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ミニレポート ・ディスカッション					
到達目標					
1) 家族の発達段階と課題を説明できる。また、家族をアセスメントし、介入の方法を説明できる。 2) 地域共生社会の理念と推進方策について説明できる。 3) 保健福祉に関する政策形成過程と展開について説明できる。					

<b>準備学習（予習・復習）</b>	
○予習 講義の回は授業資料を Google Classroom に掲示するので、授業前に一読しておくこと。分からない用語については調べておくこと。プレゼンテーションの回は各自、発表資料を作成すること。	
○復習 授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理すること。	
<b>成績評価方法</b>	
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
【教科書】 指定なし	
【参考書】	
1) 森山美知子編：ファミリーナースングプラクティスー家族看護の理論と実践、医学書院、2001. （ISBN:978-4-260-33140-1） 2) 鈴木和子、渡辺裕子、佐藤律子：家族看護学ー理論と実践第 5 版、日本看護協会出版会、2019. （ISBN:978-4-8180-2208-9） 3) 小林奈美、グループワークで学ぶ家族看護論第 2 版 カルガリー式家族モデル実践へのファーストステップ、 医歯薬出版株式会社、2011. （ISBN:978-4-263-23546-1） 4) ケヴィン・ブラウン／マーティン・ハーバート：薮本知二／甲原定房監訳：家族間暴力防止の基礎理論、 明石書店：2004. （ISBN:978-4-7503-2009-0） 5) Penelope Hawe、Deirdre Degeling、Jane Hall 著、鳩野 洋子訳： ヘルスプロモーションの評価ー成果につながる 5 つのステップ、医学書院、2003. （ISBN:978-4-260-33284-2） 6) 森岡清美、望月嵩：新しい家族社会学 4 版、培風館、1997. （ISBN: 978-4-563-05034-4） 7) 法橋尚宏：新しい家族看護学ー理論・実践・研究ー、メヂカルフレンド社、2010. （ISBN: 978-4-839-21355-8） 8) 中野綾美、瓜生浩子：家族看護学ー家族のエンパワーメントを支えるケアー、メディカ出版、2020. （ISBN: 978-4-840-47214-2）	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
・質問は担当回の教員にメールしてください。 ・質問・相談は随時受け付けます。	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	長谷川美香・mikah@u-fukui.ac.jp



教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62COM102
単 位 数：	4 単位	コマ数	60 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：文献クリティーク、 研究計画書、分析手法	
地域看護学演習					
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp	
川口 めぐみ		准教授／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp	
夏梅 るい子		助教／コミュニティ看護学		natu-rui@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
地域看護学関連の理論・実践に関する文献のクリティークを通して、研究課題・研究方法について考察し、研究課題を明確にするための研究計画の立案に必要な基礎的能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1～7	課題文献の輪読	地域看護・保健理論および自らの研究課題に関連したテーマの文献収集およびクリティークを行い、プレゼンテーションに必要な資料を作成する。			長谷川・ 北出・川口・ 夏梅
8～ 17	課題の明確化	文献クリティークを通して、自らの研究課題を明確化する。クリティークを行なった文献は、基礎資料としてまとめておく。			〃
18～ 57	研究計画立案	研究課題を明確にするために必要な研究計画書を作成する。その際、研究実施に不可欠な視点である倫理的問題についても考察する。			〃
58～ 60	分析手法	分析手法に関する基礎知識を学ぶ。			〃
授業の形式			授業形態		
演習			対面・遠隔（リアルタイム）		
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・プレゼンテーション      ・授業外学習の推進      ・ディスカッション					
到達目標					
1) 研究課題に関連した文献を収集・精選し、クリティークできる。 2) 文献のクリティークを踏まえ、研究目的、研究の独創性等を口頭・文章にて説明できる。 3) 研究方法、評価項目、統計解析方法、倫理的配慮、個人情報の保護等、研究課題解決のための研究計画を立案できる。					
準備学習（予習・復習）					
○予習 各自の研究テーマに関連した文献、参考図書等をレビューし、次の授業までに内容を整理しておくこと。より深く知りたいことが生じた場合には、さらに自分で調べ、疑問点、ディスカッション内容等を明確にして授業を受けること。					

<p>○復習</p> <p>授業後はディスカッション内容を振り返り、次回の授業までに再度の文献レビュー、研究計画書の修正等に努めること。</p>	
<p><b>成績評価方法</b></p> <p>修学態度、研究計画書、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。</p>	
<p><b>成績評価基準</b></p> <p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。</p>	
<p><b>教科書及び参考書</b></p> <p>【教科書】</p> <p>指定なし</p> <p>【参考図書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) D.F. ポーリット, C.T. ベック 近藤潤子監訳「看護研究 原理と方法 第 2 版」. 医学書院 2010. (ISBN:978-4-260-00526-5)</li> <li>2) 対馬栄輝著「SPSS で学ぶ医療系多変量データ解析」第 2 版. 東京図書 2018. (ISBN:978-4-489-02290-6)</li> <li>3) 奥田千恵子著「医薬研究者のための評価スケールの使い方と統計処理」金芳堂 2007. (ISBN:978-4-7653-1303-2)</li> <li>4) 大谷信介ら編著「新 社会調査へのアプローチ」. ミネルヴァ書房 2013 (ISBN:978-4623066544)</li> </ol>	
<p><b>その他履修上の注意点等</b></p> <p>毎回の授業時にプレゼンテーション資料を準備すること。</p>	
<p><b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b></p>	<p>長谷川美香・mikah@u-fukui.ac.jp</p>

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62COM203
単 位 数：	12 単位	コマ数	180 コマ	開講時期：	2 年次通年
授業科目名：				キーワード：研究依頼、調査、統計的解析、論文、プレゼンテーション	
地域看護学特別研究					
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp	
川口 めぐみ		准教授／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
研究課題を探索し、調査、分析、考察の過程を通して、研究に必要な知識、技術等の基礎的能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1～ 44	研究実施への準備	研究目的、意義を再確認し、研究計画に基づき調査項目の精選を行なう。また、研究フィールドを開拓し、研究実施への協力依頼を行なう。			長谷川・ 北出・川口
45～ 59		研究フィールドへ出向き、対象者への調査を行なう。			〃
60～ 69	統計的解析	課題を明確にするために最も適切な分析手法を選択し、収集したデータを分析手法に基づき分析する。			〃
70～ 177	論文作成	論理性を考慮し、論文の構成を考える。また、分析結果から先行研究との比較、結果が意味するもの等を考察するとともに、研究結果を示す図表の作成を行なう。			〃
178 ～ 180	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションに必要な抄録およびパワーポイント資料を作成する。プレゼンテーションについては、必ず発表前にリハーサルを行なう。			〃
授業の形式				授業形態	
演習 ・ 実技				対面・遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション					
到達目標					
1) 研究計画書に沿って研究を実践できる。 2) 収集したデータを統計的解析手法にて分析し、その結果を理解できる。 3) 論文を作成する上で、緒言、方法、結果、考察など論旨の展開と校正を考慮することができる。 4) 看護学の発展に寄与できるエビデンスに基づいた科学論文を作成できる。					
準備学習（予習・復習）					
○予習 研究計画書に沿って研究を実践できるよう、次の授業までに内容を整理しておくこと。より深く知りたいことが生じた場合には、さらに自分で調べ、疑問点、ディスカッション内容等を明確にして授業を受けること。					

<p>○復習</p> <p>授業後はディスカッション内容を振り返り、次回の授業までに研究実践、論文作成に向け再考、修正等に努める。</p>	
<p><b>成績評価方法</b></p> <p>修学態度、研究計画書、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。</p>	
<p><b>成績評価基準</b></p> <p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。</p>	
<p><b>教科書及び参考書</b></p> <p>【教科書】</p> <p>指定なし</p> <p>【参考図書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) D.F. ポーリット, C.T. ベック 近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法 第 2 版. 医学書院 2010. (ISBN:978-4-260-00526-5)</li> <li>2) 対馬栄輝著：「SPSS で学ぶ医療系多変量データ解析」第 2 版. 東京図書 2018. (ISBN:978-4-489-02290-6)</li> <li>3) 奥田千恵子著「医薬研究者のための評価スケールの使い方と統計処理」金芳堂 2007. (ISBN:978-4-7653-1303-2)</li> <li>4) 大谷信介ら編著 「新 社会調査へのアプローチ」. ミネルヴァ書房 20013 (ISBN:978-4623066544)</li> </ol>	
<p><b>その他履修上の注意点等</b></p> <p>毎回の授業時にプレゼンテーション資料を準備すること。</p>	
<p><b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b></p>	<p>長谷川美香・mikah@u-fukui.ac.jp</p>

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62GER101
単 位 数：	2 単位	コマ数	1 5 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学特論				老年看護，高齢者，意思決定，生活不活発病，コンフォート	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
青木 未来		助 教／コミュニティ看護学		m-aoki@u-fukui.ac.jp	
仲上 豪二郎		教 授／東京大学		gojiron@g.ecc.u-tokyo.ac.jp	
学修目標					
老年看護の基本となる概念・理念を系統的に学び、あらゆる健康レベルにある高齢者とその家族への個別的看護を的確に展開する能力、老年看護を創造・開発する能力を養う。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	老年看護の定義と変遷 国際的な高齢社会の現状と動向	老年看護学の定義と老年看護学変遷，老年看護学の考え方，日本及び世界の高齢化の動向と，高齢化への取り組みや展望			四谷淳子 青木未来
2-3	老年看護学の諸理論	生涯発達理論，ライフサイクル理論，離脱理論，コンフォート理論，サクセスフルエイジング			四谷淳子 青木未来
4	高齢者の倫理的課題および家族への看護	アドボカシー，エイジズム，高齢者虐待 意思決定			四谷淳子 青木未来
5-6	高齢者の健康生活の評価と支援	ICF 生活機能評価，高齢者総合機能評価：CGA，認知機能アセスメント，主観的健康観，幸福感，家族機能			四谷淳子 青木未来
7	高齢者に特有な症候と看護（1）	褥瘡の予防ケアと発生後の管理			四谷淳子
8	高齢者に特有な症候と看護（2）	スキンケアの予防と管理			青木未来
9	高齢者に特有な症候と看護（3）	IAD（失禁関連皮膚炎）の予防と管理			四谷淳子
10	高齢者に特有な症候と看護（4）	サルコペニア，嚥下障害			四谷淳子
11	高齢者に特有な症候と看護（5）	排泄障害（下部尿路症状・便秘） エコーを用いたアセスメントの意義と方法			四谷淳子
12-13	老年看護学領域における研究の動向（1）	老年看護領域における最新の研究 （分子生物学的および工学的手法を融合させる研究，トランスレーショナルリサーチ）			仲上豪二郎
14-15	老年看護学領域における研究の動向（2）	老年看護学領域における臨床研究論文を読み，老年看護技術の新たな動向と課題を討議			四谷淳子 青木未来
授業の形式				授業形態	
講義 ・ 演習				対面・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・ 演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ ミニッツペーパー ・ グループワーク ・ 授業外学習の推進 ・ ミニレポート ・ ディスカッション					

<b>到達目標</b>	
1. 老年看護学の変遷と高齢社会の現状について説明できる。 2. 老年看護学における概念や諸理論を説明できる。 3. 高齢者に多い疾患や症候を理解し、検査・治療を受ける高齢者への看護援助を説明できる。 4. 高齢者の健康生活評価の特徴について説明できる。 5. 高齢者に生じやすい倫理的課題とその対応について説明することができる。	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第1回 老年看護学の定義と老年看護学変遷、国際的な高齢社会の現状と動向 第2回～第3回 老年看護学に活用できる諸理論（エリクソン発達理論，コンフォート理論など） 第4回～ 高齢者の倫理的課題（アドボカシー，エイジズム，高齢者虐待，意思決定） 第5回～第6回 高齢者の健康生活の評価（ICF，CGA） 第7回～第10回 高齢者に特有な症候と看護（サルコペニア，褥瘡，排泄障害，嚥下障害など） 第12回～第15回 老年看護学領域における最新の臨床研究論文を一編読み，整理する ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。	
<b>成績評価方法</b>	
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
参考書 1) E.H.エリクソン，J.M.エリクソン：ライフサイクル・その完結，みすず書房，2001. ISBN:9784622039679 2) キャサリン・コルカバ：コルカバ コンフォート理論，医学書院，2008. ISBN:9784260005654 3) 鳥羽研二編著：高齢者の生活機能の総合的評価，新興医学出版社，2010. ISBN:9784880027104 4) 小木曾加奈子編著：高齢者ケアの質を高める ICF を活かしたケアプロセス，学文社，2015. ISBN: 9784762030673 5) 日本老年医学会：高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン 2012 年版，医学と看護社，2012. ISBN: 9784906829149 6) 真田弘美，森武俊編：看護理工学，東京大学出版会，2015. ISBN : 9784130624145	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
質問・相談は随時受け付けます。	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62GER102
単 位 数：	4 単位	コマ数	60 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学演習				老年看護、高齢者、クリティーク、研究計画	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
川口 めぐみ		准教授／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp	
青木 未来		講 師／コミュニティ看護学		m-aoki@u-fukui.ac.jp	
平井 孝治		講 師／コミュニティ看護学		hirai-t@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
老年看護学特論を踏まえて、老年期特有の健康問題をもつ高齢者とその家族の特性に応じた効果的な看護実践方法と研究方法について探究する。文献を購読し、文献クリティークの方法や論文の書き方を学修する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1-15	老年看護学文献のクリティークⅠ	国内外の老年看護学分野に関する文献を収集し、それらを適切に批評する。			四谷淳子 川口めぐみ 青木未来 平井孝治
15-30	文献のクリティークⅡ	文献レビューを作成する。 老年看護学分野における研究の動向や最新の知見，研究方法を明らかにする。			四谷淳子 川口めぐみ 青木未来 平井孝治
30-45	研究課題の明確化	文献レビューより，自身の研究課題を明確にする。			四谷淳子 川口めぐみ 青木未来 平井孝治
45-60	研究計画の立案	文献レビューをもとに，適切な調査方法や看護実践方法を立案する。（実施可能な計画を立案する）  看護の実践・研究における倫理的課題を明確化し配慮に必要なことを抽出する。			四谷淳子 川口めぐみ 青木未来 平井孝治
授業の形式				授業形態	
演習				対面・ 遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・演習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ディスカッション					
到達目標					
1）老年看護学における研究の動向と課題について、自己の見解を述べることができる。 2）老年看護学に関する量的・質的研究の特徴についてレポートを作成し、プレゼンテーションすることができる。 3）老年看護学に関する文献検討を行い、その結果をプレゼンテーションすることができる。 4）老年看護学における研究方法の特徴をふまえて、自己の研究課題を明確化することができる。					
準備学習（予習・復習）					

<p>○予習</p> <p>老年看護に関する文献を検索・レビューし、クリティークの基準に沿ってプレゼンテーション資料にまとめる。</p> <p>○復習</p> <p>討議の内容を整理し資料にまとめる。</p>	
<b>成績評価方法</b>	
発表・討議への参加度	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
<p>参考図書</p> <p>1) D. F.ポーリット, C. T.ベック, 近藤潤子 (翻訳): 看護研究 第 2 版—原理と方法, 医学書院, 2010. ISBN:9784260005265</p> <p>2) Jennifer R. Gray, Susan K: Burns and Grove's The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, Elsevier, 2020. ISBN: 978-0323673174</p> <p>3) Denise Polit, Cheryl Beck : Nursing Research, LWW; Eleventh, North American, 2020. ISBN: 9781975110642</p> <p>4) Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb., et al : The Craft of Research, Univ of Chicago Pr; Reprint 版, 2016. ISBN: 9780226239736</p> <p>5) Marco Romanelli, Michael Clark, Amit Gefen, Guido Ciprandi : Science and Practice of Pressure Ulcer Management, Springer, 2018. ISBN: 978-1852338398</p>	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<p>質問・相談は随時受け付けます。</p> <p>学生の主体的な取り組みに期待する。学生相互に学び合う機会とする。アカデミックディスカッションの意味を考えながら、取り組む。</p>	
<b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b>	四谷淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp



教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62GER203
単 位 数：	1 2 単位	コマ数	90 コマ	開講時期：	2 年次通年
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学特別研究				老年看護、高齢者、	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
川口 めぐみ		講 師／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp	
青木 未来		講 師／コミュニティ看護学		m-aoki@u-fukui.ac.jp	
平井 孝治		講 師／コミュニティ看護学		hirai-t@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
老年看護学領域において自ら選んだ専門の研究課題について、一連の研究プロセスを展開し修士論文を作成する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	研究課題の明確化と研究計画立案	研究課題や意義を明確にし、研究目的・研究デザイン・研究対象・研究方法の選定、分析方法を検討する。			四谷淳子 川口めぐみ 青木未来 平井孝治
2	研究計画の実施	研究計画に基づいて、研究を実施する。			〃
3	データ分析	収集したデータを分析方法に基づき分析する。			〃
4	研究論文の作成	分析結果について先行研究との比較を基に考察を深め、論理的に論文を作成する。			〃
5	研究論文の発表	作成した論文の骨子から簡潔明瞭なプレゼンテーション資料を作成し、研究成果を発表する。			〃
授業の形式				授業形態	
・ 演習 ・ 実験				※選択してください 対面・ 遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・実験／演習 ・プレゼンテーション ・ディスカッション					
到達目標					
1．文献レビュー、計画書作成、倫理委員会資料作成、研究フィールドの開拓、中間報告、最終報告といった一連のステップを踏むことができる。 2．計画書に沿ってデータを収集し、分析、結果のまとめと考察を討議しつつ記述することができる。 3．研究に取り組んだ全過程をまとめ、論文を作成することができる。					
準備学習（予習・復習）					
○予習 老年看護に関する文献を検索・レビューし、クリティークの基準に沿ってプレゼンテーション資料にまとめる。 研究計画立案、実施及び論文記述に関して毎回、課題をまとめる。 ○復習 討議の内容を整理し資料にまとめる。					

<b>成績評価方法</b>	
研究プロセスを通して、その取り組む姿勢、最終修士論文内容と発表状況。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
参考図書	
1) Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb., et al : The Craft of Research, Univ of Chicago Pr; Reprint 版, 2016. ISBN: 9780226239736 2) D.F.Polit & C.T.Beck : Nursing Research, 11th ed. (Int'l ed.)- Generating & Assessing Evidence for Nursing Practice, WOLTERS KLUWER, 2021 ISBN: 9781975154141 3) Jennifer R. Gray, Susan K. Grove, 黒田 裕子, 逸見 功, 佐藤 富美子 (翻訳): パーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 9 版 評価・統合・エビデンスの生成, エルゼビア・ジャパン株式会社, 2023. ISBN : 97884860347949 4) アメリカ心理学会(APA), 前田 樹海, 江藤 裕之 (翻訳): APA 論文作成マニュアル 第 3 版, 医学書院, 2023. ISBN : 9784260048125	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
質問・相談は随時受け付けます。学生の主体的な取り組みに期待する。学生相互に学び合う機会とする。アカデミックディスカッションの意味を考えながら、取り組む。	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62MEN101
単 位 数：	2 単位	コマ数	1 5 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
精神看護学特論				家族支援、リカバリー、ストレングスモデル、レジリエンス、トラウマインフォームドケア、神経発達、DX/AI	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○川口 めぐみ		准教授／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp	
平井 孝治		講師／コミュニティ看護学		hirai-t@u-fukui.ac.jp	
國石 洋		助教／子どものこころの発達研究センター		kuniishi@u-fukui.ac.jp	
牧野 拓也		特命職員／神経科精神科		makitaku@u-fukui.ac.jp	
萱間 真美		学校長／国立看護大学校		kayamam@adm.ncn.ac.jp	
学修目標					
精神看護の基本となる概念・理念・精神療法を系統的に学び、人のメンタルヘルスや精神疾患をもつ人とその家族への個別的看護を的確に展開する能力、精神看護を創造・開発する能力を養う。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	精神保健医療福祉の現状	日本及び世界の精神保健医療福祉の動向と取り組みや展望			川口めぐみ
2	子どもの心の健康と発達支援	子どもを取り巻くこころの健康とその課題			平井孝治
3	家族の発達と支援 (1)	家族発達理論、家族の障害受容、家族機能と支援			川口めぐみ
4	家族の発達と支援 (2)	家族発達理論、家族の障害受容、家族機能と支援 (ディスカッション)			川口めぐみ 平井孝治
5	精神看護学の諸理論・概念 (1)	トラウマインフォームドケアの科学的背景と応用			川口めぐみ
6・7	精神看護学の諸理論・概念 (2)	精神疾患のリカバリーにおけるストレングス：理論的背景と実証的知見			萱間真美
8	精神疾患の科学的基盤と支援 (1)	心理療法のエビデンスと実践：児童青年期の不安症と強迫症の視点から			牧野拓也
9	精神疾患の科学的基盤と支援 (2)	唾液ストレスセンサによる精神健康度評価と応用			川口めぐみ
10	精神疾患の科学的基盤と支援 (3)	精神疾患の生物学的基盤とバイオマーカー			平井孝治
11	精神疾患の科学的基盤と支援 (4)	精神疾患研究におけるマウスモデルの役割と応用			國石洋
12	精神疾患の科学的基盤と支援 (5)	精神科医療における DX と AI 活用			川口めぐみ 平井孝治
13	精神看護学領域における研究の動向 (1)	精神看護学領域における研究の文献レビュー			川口めぐみ 平井孝治
14・15	精神看護学領域における研究の動向 (2)	臨床研究論文を読み、新たな動向と課題を討議			川口めぐみ 平井孝治
授業の形式				授業形態	
講義 ・ 演習				対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム) 上記を併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況					

<p>・演習    ・問題解決型学習    ・プレゼンテーション    ・ミニッツペーパー    ・グループワーク</p> <p>・授業外学習の推進    ・ミニレポート    ・ディスカッション</p>	
<p><b>到達目標</b></p> <p>1) 精神看護学の変遷と精神保健福祉の現状について説明できる。</p> <p>2) 精神看護の理論と実証的知見について説明できる。</p> <p>3) 症状を理解し、精神疾患をもつ人への看護援助を説明できる。</p> <p>4) 精神疾患をもつ人を支える家族の現状を理解し、家族への看護援助を説明できる。</p> <p>5) 精神症状をアセスメントする指標や尺度について説明できる。</p> <p>6) 精神疾患をもつ人とその家族に生じやすい倫理的課題とその対応について説明することができる。</p>	
<p><b>準備学習（予習・復習）</b></p> <p>○予習</p> <p>毎回講義内容に関する事前学習を行い、概要を理解した上で授業を受けること。</p> <p>○復習</p> <p>授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>	
<p><b>成績評価方法</b></p> <p>修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。</p>	
<p><b>成績評価基準</b></p> <p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。</p>	
<p><b>教科書及び参考書</b></p> <p>参考書</p> <p>1) E.H.エリクソン, J.M.エリクソン: ライフサイクル・その完結, みすず書房, 2001. ISBN:9784622039679</p> <p>2) モナ・ワソー, 高橋祥友 (監修), 柳沢圭子 (訳): 統合失調症と家族—当事者を支える家族のニーズと援助法, 金剛出版, 2010. ISBN : 9784772411349</p> <p>3) マイケル・ニーナン: あなたの自己回復力を育てる—認知行動療法とレジリエンス, 金剛出版, 2015. ISBN : 9784772414180</p> <p>4) 野中猛: 図説 リカバリー—医療保健福祉のキーワード, 中央法規出版, 2011. ISBN : 9784805835326</p> <p>5) リチャード・S・ラザルス, スーザン・フォルクスマン, 石垣琢磨 (監訳), 柳沢圭子 (訳): ストレスの心理学—認知的評価と対処の研究, 実務教育出版, 1991. ISBN : 9784788960701</p> <p>6) 萱間 真美 (編集), 林 直樹 (編集協力): ストレングスからみた 精神看護過程: +全体関連図, ストレングス・マッピングシート, 医学書院, 2021, ISBN : 9784260047876</p> <p>7) American Psychiatric, 日本精神神経学会 (監修): DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル, 医学書院, 2023. ISBN : 9784260052184</p>	
<p><b>その他履修上の注意点等</b></p> <p>質問・相談は随時受け付けます。</p>	
<p><b>代表者</b> (氏名・E-Mail)</p>	<p>川口 めぐみ、senmegu@u-fukui.ac.jp</p>

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62MEN102
単位数：	4単位	コマ数	60 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
精神看護学演習				精神看護、メンタルヘルス、 クリティーク、研究計画	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○川口 めぐみ		准教授／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp	
平井 孝治		講 師／コミュニティ看護学		hirai-t@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
精神看護学特論を踏まえて、人のメンタルヘルスや精神疾患をもちながら生きる人とその家族の特性に応じた効果的な看護実践方法と研究方法について探究する。文献を購読し、文献クリティークの方法や論文の書き方を学修する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1-15	精神看護学文献のクリティークⅠ	国内外の精神看護学分野に関する文献を収集し、それらを適切に批評する。			川口めぐみ 平井孝治
15-30	文献のクリティークⅡ	文献レビューを作成する。 精神看護学分野における研究の動向や最新の知見，研究方法を明らかにする。			〃
30-45	研究課題の明確化	文献レビューより，自身の研究課題を明確にする。			〃
45-60	研究計画の立案	文献レビューをもとに，適切な調査方法や看護実践方法を立案する。（実施可能な計画を立案する） 看護の実践・研究における倫理的課題を明確化し配慮に必要なことを抽出する。			〃
授業の形式			授業形態		
演習			対面・ 遠隔（リアルタイム） 上記を併用		
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・演習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ディスカッション					
到達目標					
1）精神看護学における研究の動向と課題について、自己の見解を述べることができる。 2）精神看護学に関する量的・質的研究の特徴についてレポートを作成し、プレゼンテーションすることができる。 3）精神看護学に関する文献検討を行い、その結果をプレゼンテーションすることができる。 4）精神看護学における研究方法の特徴をふまえて、自己の研究課題を明確化することができる。					
準備学習（予習・復習）					
○予習 精神看護に関する文献を検索・レビューし、クリティークの基準に沿ってプレゼンテーション資料にまとめる。 ○復習 討議の内容を整理し資料にまとめる。					
成績評価方法					
発表・討議への参加度					

<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
<p>参考図書</p> <p>1) D. F.ポーリット, C. T.ベック, 近藤潤子 (翻訳): 看護研究 第 2 版—原理と方法, 医学書院, 2010. ISBN : 9784260005265</p> <p>2) 坂下玲子: 系統看護学講座別巻 看護研究 (第 2 版), 医学書院, 2023. ISBN : 9784260049955</p> <p>3) ホロウェイ, ウィラー, 野口美和子 (監訳): ナースのための質的研究入門 - 研究方法から論文作成まで (第 2 版), 医学書院, 2006. ISBN : 9784260002264</p> <p>4) Kelly Pearson : APA Manual 7th Edition 2024 , Referencing Guide, 2023. ISBN-13 : 979-8223976615</p>	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
質問・相談は随時受け付けます。学生の主体的な取り組みに期待する。学生相互に学び合う機会とする。アカデミックディスカッションの意味を考えながら、取り組む。	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	川口 めぐみ・senmegu@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62MEN203
単 位 数：	1 2 単位	コマ数	90 コマ	開講時期：	2 年次通年
授業科目名：				キーワード：	
精神看護学特別研究				精神看護、家族看護、メンタルヘルス	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○川口 めぐみ		准教授／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp	
平井 孝治		講 師／コミュニティ看護学		hirai-t@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
精神看護学領域において自らの研究課題を探索し、一連の研究プロセスを通して、修士論文を作成・発表する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	研究課題の明確化と研究計画立案	研究課題や意義を明確にし、研究目的・研究デザイン・研究対象・研究方法の選定、分析方法を検討する。			川口めぐみ 平井孝治
2	研究計画の実施	研究計画に基づいて、研究を実施する。			〃
3	データ分析	収集したデータを分析方法に基づき分析する。			〃
4	研究論文の作成	分析結果について先行研究との比較を基に考察を深め、論理的に論文を作成する。			〃
5	研究論文の発表	作成した論文の骨子から簡潔明瞭なプレゼンテーション資料を作成し、研究成果を発表する。			〃
授業の形式				授業形態	
・ 演習      ・ 実験				対面・遠隔（リアルタイム） 上記を併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・ 演習      ・ プレゼンテーション      ・ ディスカッション					
到達目標					
1）文献レビュー、計画書作成、倫理委員会資料作成、研究フィールドの開拓、中間報告、最終報告といった一連のステップを踏むことができる。 2）計画書に沿ってデータを収集し、分析、結果のまとめと考察を討議しつつ記述することができる。 3）研究に取り組んだ全過程をまとめ、論文を作成することができる。					
準備学習（予習・復習）					
○予習 精神看護に関する文献を検索・レビューし、クリティークの基準に沿ってプレゼンテーション資料にまとめる。 研究計画立案、実施及び論文記述に関して毎回、課題をまとめる。 ○復習 討議の内容を整理し資料にまとめる。					
成績評価方法					
研究プロセスを通して、その取り組む姿勢、最終修士論文内容と発表状況。					
成績評価基準					
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格					

として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

#### 教科書及び参考書

##### 参考図書

- 1) D. F.ポリーット, C. T.ベック, 近藤潤子(翻訳): 看護研究 第2版—原理と方法, 医学書院, 2010.  
ISBN : 9784260005265
- 2) 坂下玲子: 系統看護学講座別巻 看護研究(第2版), 医学書院, 2023. ISBN : 9784260049955
- 3) ホロウェイ, ウィラー, 野口美和子(監訳): ナースのための質的研究入門 - 研究方法から論文作成まで(第2版), 医学書院, 2006. ISBN : 9784260002264
- 4) Kelly Pearson : APA Manual 7th Edition 2024 , Referencing Guide, 2023. ISBN-13 : 979-8223976615

#### その他履修上の注意点等

質問・相談は随時受け付けます。学生の主体的な取り組みを期待する。学生相互に学び合う機会とする。アカデミックディスカッションの意味を考えながら、取り組む。

#### 代表者

(氏名・E-Mail)

川口 めぐみ、senmegu@u-fukui.ac.jp



教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62MAC101
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
母子看護学特論				母子・家族、女性、ライフサイクル、健康課題、課題探求力	
担当教員名	職名／所属			E メールアドレス	
○波崎 由美子	教授／育成期看護学			yuminami@u-fukui.ac.jp	
友田 明美	教授／子どものこころの発達研究センター			atomoda@u-fukui.ac.jp	
嶋 雅代	准教授／育成期看護学			mashima@u-fukui.ac.jp	
梅田 尚子	講師／育成期看護学			numeda@u-fukui.ac.jp	
上澤 悦子	主任教員／英ウィメンズクリニック・大阪信愛学院大学 生殖看護認定看護師教育研修センター			kamisawae@osgu.ac.jp	
廣山 奈津子	助教／東京科学大学大学院 保健衛生学研究科			nhiro.rhn@tmd.ac.jp	
学修目標					
母子や家族の心身の健全な育成、周産期における母子の看護支援、女性の健康課題について、母子看護学領域で用いられる概念や理論、実際の研究をふまえ、ライフサイクルの視点で学修する。また、胎児期からの小児の疾病について医学的側面から学び、小児期の健康問題を有することもとその家族が直面する医療上の問題を検討し、地域保健の視点を含めた問題解決法について学修する。これらを通し、研究を展開する基礎的能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)		(学修内容)		(教員)
1	母子看護学領域の研究課題と取り組み方		オリエンテーション 母子を取り巻く社会と健康課題		波崎
2	母子看護学領域で用いられる概念・理論（１）		母子看護学領域に関わる概念・諸理論の概説		嶋
3	母子看護学領域で用いられる概念・理論（２）		関心ある概念、または理論と看護援助 プレゼンテーション①		嶋
4	母子看護学領域で用いられる概念・理論（３）		関心ある概念、または理論と看護援助 プレゼンテーション②		嶋
5	ライフサイクルにおける女性・子どもの健康課題（１）		ライフサイクル各期における女性・子どもの健康課題の概説		波崎
6	ライフサイクルにおける女性・子どもの健康課題（２）		ライフサイクル各期における健康課題 AYA 世代のがんと妊孕性の支援		波崎
7	ライフサイクルにおける女性・子どもの健康課題（３）		ライフサイクル各期における健康課題 子どものがんと妊孕性支援		波崎
8	ライフサイクルにおける女性・子どもの健康課題（４）		ライフサイクル各期における健康課題 母性準備期の課題と看護介入 プレコンセプションケア		上澤
9	ライフサイクルにおける女性・子どもの健康課題（５）		ライフサイクル各期における健康課題 子どもの発達と支援①		梅田
10	ライフサイクルにおける女性・子どもの健康課題（６）		ライフサイクル各期における健康課題 子どもの発達と支援②		梅田
11	母子看護学領域における新たな理論活用		ストレングスモデルと看護支援 （精神看護学特論 萱間先生の講義聴講）		波崎
12	現代社会において特別に支援を要する健康課題（１）		性科学、セクシュアリティと健康課題 性の多様性と支援		波崎
13	現代社会において特別に支援を要する健康課題（２）		暴力と健康問題 性暴力に対する活動と支援の実際		廣山

		フォレンジック看護	
14	子どもの虐待と脳科学	虐待と子どもの脳、看護専門職の役割と支援	友田
15	母子看護学領域の臨床看護研究の検討 母子看護の実践、教育・研究課題	関心あるテーマに関する新たな知見と課題 プレゼンテーション	波崎
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面・遠隔（リアルタイム）・遠隔（オンデマンド）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・ 演習      ・ プレゼンテーション      ・ ディスカッション			
到達目標			
①母子や家族の心身の健全な育成、周産期における母子の看護支援、女性の健康に関連した課題について、理解することができる。			
②母子への看護支援、健康課題について、母子看護学領域で用いられる概念や理論をふまえて、ライフサイクルの視点で考察することができる。			
③胎児期からの小児の疾病について医学的側面から理解することができる。			
④新生児期・小児期の健康問題を有する子どもとその家族が直面する医療上の問題などについて検討し、地域保健と異分野・他職種の協働と連携の視点を含めた問題解決法について理解することができる。			
⑤これらを通し、研究を展開する基礎的能力を修得することができる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習			
各回のテーマに関連した文献、参考図書等をレビューし、内容を整理しておくこと。より深く知りたいことが生じた場合には、さらに自分で調べ、疑問点、ディスカッション内容等を明確にし、授業を受けること。			
○復習			
授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
教科書及び参考書			
指定の教科書はない。参考書については、授業で適宜紹介する。			
その他履修上の注意点等			
質問は担当回の教員、または代表教員にメールしてください。			
代表者 (氏名・E-Mail)		波崎 由美子・yuminami@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62MAC102
単位数：	4単位	コマ数	30 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
母子看護学演習				母子看護学、論理的・批判的思考力、課題探求力、課題解決力、研究計画立案	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○波崎 由美子		教授／育成期看護学		yuminami@u-fukui.ac.jp	
嶋 雅代		准教授／育成期看護学		mashima@u-fukui.ac.jp	
梅田 尚子		講師／育成期看護学		numeda@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
母子看護学特論で学んだ内容に関連して、母子の心身の健全な育成に関連する諸因子、女性や子ども、家族の健康課題及び看護支援方法について国内外の関連文献を用いて検討し、実践の場で活用できる看護支援および研究への活用法について探求する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	文献の収集とクリティーク①	ライフサイクル各期の女性の健康課題・問題の抽出、具体的な看護支援とその評価を行う。(5 コマ)			波崎 嶋 梅田
2	文献の収集とクリティーク②	マタニティサイクルにおける母子と家族（ハイリスクを含む）の課題・問題の抽出、具体的な看護支援とその評価を行う。(5 コマ)			〃
3	文献の収集とクリティーク③	小児期の健康課題・問題の抽出、具体的な看護支援とその評価を行う。(5 コマ)			〃
4	研究課題の明確化	文献クリティークを通じて、自己の研究課題を明確にする。(10 コマ)			〃
5	研究計画の立案	倫理的問題、分析方法を検討し、実施可能な研究計画書を作成する。(5 コマ)			〃
授業の形式			授業形態		
演習			対面・遠隔（リアルタイム）		
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・プレゼンテーション ・ディスカッション					
到達目標					
1. 母子の心身の健全な育成に関連する諸因子、女性や子ども、家族の健康問題及び看護支援方法について国内外の関連文献を用いて検討することができる。 1) 関心のある看護現象や課題を説明できる。 2) 関心のあるテーマに関して現状を分析し、研究課題や研究方法を明確にできる。 3) 研究計画を作成することができる。 2. 実践の場で活用できる看護支援および研究への活用法について探求することができる。					
準備学習（予習・復習）					
○予習 関心がある研究テーマに関連した文献、参考図書等をレビューし、次の授業までに内容を整理・把握する。それらを資料として準備し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。より深く知りたいことに関して疑問点、ディスカッション内容等を明確にした資料を作成すること。 ○復習					

授業後は、プレゼンテーションに対するディスカッション内容を振り返り、理解を深める。	
<b>成績評価方法</b>	
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
教科書は特に使用しない。	
参考図書	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D.F. ポーリット&amp;C.T. ベック 著, 近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法第 2 版, 2010. ISBN : 978-4-260-00526-5</li> <li>・ スー・ブロクター・メアリー・レンフルー編, 前原澄子監訳：助産学研究入門 エビデンスにもとづく実践を目指して, 医学書院, 2003. ISBN : 978-4-260-33268-2</li> <li>・ 福原俊一：シリーズ臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト③概念モデルをつくる～研究課題を目に見える形に～, 2008. ISBN : 978-4-903-80304-3</li> <li>・ 大木秀一：看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん, 医歯薬出版, 2013. ISBN : 978-4-263-23581-2</li> </ul> その他、適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
・ 質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。	
<b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b>	波崎 由美子、yuminami@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62MAC203	
単 位 数：		12 単位	コマ数	180 コマ	開講時期：	2 年次通年
授業科目名：				キーワード：		
母子看護学特別研究				母子看護学・助産学、論理的・批判的思考力 研究倫理、課題探求力、研究遂行能力、課題解決力		
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス		
○波崎 由美子		教授／育成期看護学		yuminami@u-fukui.ac.jp		
嶋 雅代		准教授／育成期看護学		mashima@u-fukui.ac.jp		
梅田 尚子		講師／育成期看護学		numeda@u-fukui.ac.jp		
学修目標						
母子看護・助産学領域において自ら選んだ専門の研究課題に沿って研究をデザインし、高い倫理観をもって研究プロセスを実際に展開する。また、研究の成果を論文にまとめ発表する。						
各回の授業の内容						
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)	
1	研究準備	研究計画が研究目的に添っているかを確認し、調査項目を精選する。 研究計画書を作成し、研究倫理審査を受ける。 研究フィールドを調整する。(10 コマ)			波崎 嶋 梅田	
2	研究の実際	研究計画書に沿って研究を実施する。(50 コマ)			〃	
3	結果の分析	収集したデータを分析し、研究の方法、目的を満たすかを確認し、 必要時修正を行う。(30 コマ)			〃	
4	修士論文作成	分析結果に添い、研究で明らかになった事象を、先行研究からの比較、 結果の意味を考察し、論理的な論文とする。 必要な図表を作成する。(80 コマ)			〃	
5	修士論文発表	作成した論文をもとに、プレゼンに必要な抄録、パワーポイント、原稿 を作成し、成果を発表する。(10 コマ)			〃	
授業の形式				授業形態		
演習				対面・遠隔（リアルタイム）		
アクティブ・ラーニングの導入状況						
・演習 ・プレゼンテーション ・ディスカッション						
到達目標						
1. 修士論文の作成過程を理解し、論文を完成させることができる。 1) 研究計画書を作成できる。 2) 文献検討により、研究の必要性と意義を説明できる。 3) 研究計画書に沿ってデータ収集、分析ができる。 4) データ分析を通して、研究目的に即した結果を導き出すことができる。 5) 分析結果を目的に沿って考察できる。 6) 看護実践への示唆を提示できる。 7) 論理性・整合性・一貫性をもった研究論文を作成できる。 2. 論文内容についてわかりやすくプレゼンテーションすることができる。						

<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<p>研究準備から修士論文発表までの全過程を通し、</p> <p>○予習</p> <p>毎回のゼミナールでの指導内容を主体的に確認し、発表資料を準備してプレゼンテーションに臨む。</p> <p>○復習</p> <p>研究計画、研究スケジュールを確認し、主体的に研究を進める。また、ゼミナールでの質疑応答、指導内容を振り返り、要点を整理しながら、主体的に研究の実施、論文作成を進める。</p>	
<b>成績評価方法</b>	
<p>修学態度、修士論文の作成過程、ゼミナール討論、プレゼンテーション、論文内容（研究テーマの前提となる文献検討、テーマと論旨の一貫性）</p> <p>担当教員の合議により総合的に評価する。</p>	
<b>成績評価基準</b>	
<p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。</p>	
<b>教科書及び参考書</b>	
<p>教科書の指定はない。</p> <p>参考図書</p> <p>・ D. F. ポーリット &amp; C. T. ベック 著, 近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法第 2 版, 2010. ISBN : 978-4-260-00526-5</p> <p>・ バーンズ &amp; グローブ, 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功監訳：看護研究入門 原著第 7 版 一評価・統合・エビデンスの生成, 2015. ISBN : 978-4-860-34300-2</p> <p>その他、適宜紹介する。</p>	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<p>・ 質問は担当教員または代表教員にメールしてください。</p>	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	波崎由美子、yuminami@u-fukui.ac.jp

## 【専門看護師教育課程（CNS）】

注)「担当教員名」の○印は、単位認定者を表す。

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62CAN104	
単 位 数：		2 単位	コマ数	15	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：		
がん看護学特論Ⅰ				腫瘍の概念、発生機序、病態生理、がんの治療法、oncologic emergency		
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス		
○磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp		
五井 孝憲		教 授／外科学(1)		tgoi@u-fukui.ac.jp		
浦崎 芳正		教 授／保健管理センター		urasakiy@u-fukui.ac.jp		
安田 伸宏		教 授／附属国際原子力工学研究所		nyasuda@u-fukui.ac.jp		
前田 浩幸		准教授／外科学(1)		maedah@u-fukui.ac.jp		
塩浦 宏樹		准教授／放射線部		shioura@u-fukui.ac.jp		
福島 万奈		准教授／腫瘍病理学		manna@u-fukui.ac.jp		
細野 奈穂子		講 師／輸血部		hosono@u-fukui.ac.jp		
小練 研司		講 師／外科学(1)		koneri@u-fukui.ac.jp		
小淵 岳恒		講 師／救急部		kobuta@u-fukui.ac.jp		
根来 英樹		講 師／ 血液・腫瘍内科		enegoro@u-fukui.ac.jp		
渡邊 享平		講 師／医学研究支援センター／薬剤部		kyohei@u-fukui.ac.jp		
玉木 雅人		助 教／外科学(1)		m-tamaki@u-fukui.ac.jp		
星野 瞳		助 教／腫瘍病理学		hhoshino@u-fukui.ac.jp		
学修目標						
・がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理、各種治療法などを学び、基礎と臨床を関連させて理解できる。 ・oncologic emergency の病態に対する診断と治療を理解できる。						
各回の授業の内容						
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)	
1	がんの病態生理 (1)	腫瘍概論、がんの形態・分類、がんの原因・誘因			星野	
2	がんの病態生理 (2)	がん遺伝子とがん抑制遺伝子			星野	
3	がんの病態生理 (3)	がん細胞の特性、発がん増殖、がんの進展と転移			福島	
4	がん免疫	がん免疫応答、サイトカイン、腫瘍マーカー			福島	
5	がん疫学	がん疫学的特性、がん医療の動向と課題 がん登録、がん診療と検診のエビデンス			玉木	
6	がん診断	画像診断、確定診断法 がんゲノム医療（がん遺伝子パネル検査）とがん遺伝子検査、遺伝性腫瘍の診断			小練	
7	oncologic emergency	代謝物による emergency (SIADH、DIC など)、 構造的要因による emergency（上大静脈症候群、脊髄圧迫など）			前田	
8	がんの内科的治療	最新の化学療法、分子標的治療、外来化学療法			根来	
9	がんの外科的治療	外科学の歴史と最新手術			五井	
10	がんの放射線治療 (1)	放射線物理学・放射線生物・放射線腫瘍学の基礎、放射線による生物影響－分子から個体へ、			安田	
11	がんの放射線治療 (2)	がんの放射線治療における修飾因子 がんの放射線／抗がん剤併用治療の原理 放射線療法の照射方法、効果判定、有害事象と			塩浦	



		医療処置	
12	造血幹細胞移植	幹細胞ソースの種類と特徴、適応疾患、造血幹細胞移植合併症対策	細野
13	放射線被ばくと健康への影響	医療被ばくなどによる放射線被ばくとその対応	小淵
14	がんの補助薬物療法	がんの症状緩和と薬物療法 抗癌薬の薬理作用・薬物動態・有害事象	渡邊
15	がん看護と病態生理	がん看護に関連した専門知識を深める	磯見
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・実験／演習      ・ディスカッション			
到達目標			
・腫瘍の概念、発生機序、病態生理について説明できる。 ・がんの診断・治療について説明できる。 ・oncologic emergency の病態と治療について説明できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習  以下について、事前に調べて授業を受けること。  第1～3回    がんの病態生理と免疫について「病態生理学 12、14 回目」を受講してから臨む 第4～6回    主ながんの罹患や死亡、および主ながんの検査について調べる 第8～14回    主ながん治療の種類と概要について調べる  ○復習  授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
授業での討論内容（60%）、課題レポート（40%）を総合して評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。  北信がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。  （がんゲノム学特論、分子腫瘍学特論、腫瘍病理学特論、腫瘍放射線医学特論、分子生物学入門、がん外科学特論）			
その他履修上の注意点等			
事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。			
代表者  （氏名・E-Mail）		磯見    智恵・ichie@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62CAN105
単位数：	2単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特論Ⅱ				がん看護、理論、概念	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
長谷川 美香		教 授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
上原 佳子		教 授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
・がん看護領域の実践と研究に関連する理論や概念の活用について考え、理解を深めることができる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	がん看護に関連する理論と研究（1）	がん看護に活用できる理論や概念の理解と実践への適用-がん看護介入モデルの探究			磯見
2	がん患者の家族支援に関する理論	理論の理解と事例への適用			長谷川美
3		・家族看護の基本理念 ・システム理論、カルガリーモデル			
4	がん患者のストレスフルな状況や危機的状況に活用できる理論	理論の理解と事例への適用			佐藤
5		・ストレス・コーピング理論 ・アギュララとメズニックの問題解決型理論 ・フィンの危機理論			
6	がん患者のセルフケア支援に関する理論	理論の理解と事例への適用			磯見
7		・オレムのセルフケア理論 ・自己効力理論 ・セルフマネジメント			
8	不確かな状況にある患者・家族への支援に関する理論	理論の理解と事例への適用 ・ミシエルの不確実理論			佐藤
9	悲嘆・グリーフケアに関する理論	理論の理解と事例への適用 ・予期的悲嘆 ・家族の悲嘆の心理過程 ・グリーフケア			磯見
10	スピリチュアルペインに関する理論	理論の理解と事例への適用 ・村田理論			磯見
11	がん看護におけるケアリング	理論の理解と事例への適用 ・メイヤロフ、レイニンガーなどのケアリング理論			月田
12	がん予防と健康に関連する理論	がん予防と健康に関する理論と研究 ・プロチェスカの変化ステージモデル ・禁煙支援			上原
13	がん看護に関連する倫理的諸問題と理論	・フライの倫理原則			月田
14		・Jonsen 4 分割表を使用した事例検討 ・倫理的意思決定			

15	がん看護に関連する理論と研究（2） 理論を活用した事例検討	がん看護の幅広い実践に導入して活用するアプロ ーチについてディスカッション	磯見
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・ 実験／演習 ・ プレゼンテーション ・ グループワーク ・ ディスカッション			
到達目標			
・ がん看護領域の実践と研究に関連する理論や概念の活用について説明できる。 ・ 研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状と課題を洞察し、今後の展望について述べるこ とができる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習： ・ 学習内容に上げられている理論に関して、理論がまとめられたテキストで概要を把握したうえで授業を受けるこ と。 ・ 事前学習について、担当教員に確認し、講義までに課題を行う。 ・ 事例検討は、理論の活用について学んだことをいかし事例を踏まえてプレゼンテーション・ディスカッションの 準備を行う。			
○復習： ・ 講義終了後には、キーポイントについてまとめる。 ・ 1つの理論を選んで深く学ぶ。			
成績評価方法			
講義への取り組み状況(60%)とレポート(40%)			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格 として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
参考書 ・ 野川道子ほか編：看護実践にいかす中範囲理論第3版、メジカルフレンド社、2023。 ・ 城ヶ端初子：新訂版 実践に生かす看護理論19 第2版、サイオ出版、2018。 その他、看護理論や中範囲理論の解説本など			
その他履修上の注意点等			
代表者 （氏名・E-Mail）	磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp		

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62CAN106
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特論Ⅲ				最新の治療、がんサバイバー、長期的支援、臨床試験、がん分野の高度実践看護師	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○ 月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
廣野 靖夫		准教授／がん診療推進センター		hirono@u-fukui.ac.jp	
佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
波崎 由美子		教授／育成期看護学		yuminami@u-fukui.ac.jp	
我妻 孝則		がん看護専門看護師／金沢医科大学病院		wagataka@kanazawa-med.ac.jp	
高山 京子		准教授／順天堂大学医療看護学部		k.takayama.sv@juntendo.ac.jp	
繁田 里美		非常勤講師			
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"><li>・サバイバーシップの概念とがん体験者の複雑な健康問題について説明できる。</li><li>・治療に伴う問題と包括的な援助方法について説明できる。</li><li>・がん体験者の援助に活用可能な資源と調整について説明できる。</li><li>・がん看護分野の高度実践看護師の役割を事例を通して説明できる。</li></ul>					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1)	がんサバイバーシップの概念	がんサバイバーシップの概念 がん患者・家族の健康問題について		月田	
2)	治療に伴う看護（1）手術療法	最新の手術療法と周手術期における看護援助		佐藤	
3)	治療に伴う看護（2）薬物療法	最新のがん薬物療法と治療に伴う看護援助		〃	
4)	治療に伴う看護（3）放射線療法	最新の放射線療法と治療に伴う看護援助		〃	
5)	緩和ケア	がんのトータルペイン（事例） 症状マネジメントとチーム医療（事例）		繁田	
6)	がん体験者の長期的支援（1） サバイバーの支援	がんサバイバーシップの季節に応じた情報ニーズと看護援助		磯見	
7)	がん体験者の長期的支援（2） 栄養の支援	栄養のアセスメント方法と管理方法 がん体験者に特有な栄養問題と看護援助		廣野	
8)	がん体験者の長期的支援（3） セクシャリティの支援	セクシャリティおよび生殖の課題と看護援助		波崎	
9)	がん体験者の長期的支援（4） 災害と支援	災害に関連したがん体験者支援		佐藤	
10)	がん体験者の長期的支援（5） サポートグループと支援	サポートグループ、セルフヘルプ・グループ 活動と支援方法		繁田	
11)	がん体験者の長期的支援（6） 社会資源と支援	がん患者に活用できる社会資源と活用のための調整		月田	
12)	がんの臨床試験と看護（1）	臨床試験の過程に応じた看護援助		高山	
13)	がんの臨床試験と看護（2）	がん臨床試験において生じやすい倫理的問題、被験者保護の実際		〃	

14)	がん看護分野の高度実践看護師の役割（1）	がん看護分野の高度実践看護師の歴史と役割 がん看護分野の高度実践看護師の役割の実際	我妻
15)	がん看護分野の高度実践看護師の役割（2）	事例検討：実践・相談・調整・倫理調整	〃

授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		・ 対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・ 演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ ディスカッション			
到達目標			
1) 最新のがん治療と治療に伴う看護援助について説明できる。			
2) がん体験者の様々な健康問題と長期的支援について説明できる。			
3) 臨床試験の過程とリサーチナースの役割、生じやすい倫理的問題について説明できる。			
4) がん看護分野の高度実践看護師の歴史と役割の実際について説明できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習:各単元に関連した文献、参考図書をレビューし、わからない用語やより深く知りたいことは、自分で調べる。 また担当教員に事前課題を確認し、教員の指示に従って事前学修した内容を資料にまとめ、プレゼンテーションまたは提出の準備を行う。			
○復習:授業資料等を基に授業で学んだ内容を振り返り、理解を深めること。			
成績評価方法			
課題レポート、事例の討論内容、修学態度を総合し、担当教員の合議により評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
教科書及び参考書			
必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。 北陸がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。（がん患者看護論）			
その他履修上の注意点等			
・ 質問・相談は随時受け付けます。			
代表者 （氏名・E-Mail）		月田 佳寿美・tsuki@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62CAN107
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特論Ⅳ				がん薬物療法看護、ケアとキュアの統合、 チーム医療、セルフケア支援	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
渡邊 享平		講 師／医学研究支援センター／薬剤部		kyohei@u-fukui.ac.jp	
六戸部 香里		助教／臨床看護学・がん看護専門看護師		muto@u-fukui.ac.jp	
高野 智早		がん看護専門看護師／本学附属病院		tchihaya@u-fukui.ac.jp	
田墨 恵子		がん看護専門看護師・看護師長／大阪大学 医学部附属病院		ktazumi@hp-nurse.med.osaka-u.ac.jp	
中野 妃佐恵		がん看護専門看護師・乳がん看護認定看護 師／福井県立病院		h-nakano-9e@pref.fukui.lg.jp	
富永 知恵子		がん看護専門看護師・がん化学療法看護認 定看護師／福井赤十字病院		chemo.cn@gmail.com	
学修目標					
・事例を通して、がん薬物療法の evidence based practice においてケアとキュアの統合ができる。 ・事例を通して、がん薬物療法の効果と有害事象の予防・早期発見・早期対処に関する臨床判断を説明できる。 ・がん薬物療法における、高度実践看護師としての役割を説明できる。 ・がん薬物療法の有害事象への対応について、チーム医療を促進するアプローチを説明できる。 ・患者が疾患・治療に伴って生じる問題に自ら対処でき、QOL を維持向上できるようなセルフケア支援の方略を説明できる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	がん薬物療法の臨床薬理の理解と ケア（1）	主ながん薬物療法薬の作用機序（殺細胞抗がん薬、 分子標的薬、ホルモン薬、免疫療法）			渡邊
2	がん薬物療法の臨床薬理の理解と ケア（2）	主ながん薬物療法薬の有害事象の早期発見と予 防・対処法			
3	がん薬物療法の臨床薬理の理解と ケア（3）	事例を通して薬物療法の評価、身体・臨床所見、 患者教育を考える  （予後因子、効果予測因子、薬物動態、Biochemical modulation、抗がん薬耐性獲得機序を含める）			
4	がん薬物療法における高度実践看 護師の活動	がん薬物療法における総合的アセスメントと看護 （チームへのアプローチ含む）			田墨
5 6	消化器がん薬物療法と療養過程の マネジメント	事例分析：胃がん・大腸がん  ・事例のアセスメント（現病歴、既往歴、病理 診断、画像、看護情報などから）  ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断と セルフケア支援について討議する			牧野
7 8	肺がん薬物療法と療養過程のマネ ジメント	事例分析：非小細胞肺がん  ・事例のアセスメント（現病歴、既往歴、病理診 断、画像、看護情報などから）  ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断と セルフケア支援について討議する			富永

9 10	造血器腫瘍のがん薬物療法と療養過程のマネジメント	事例分析：白血病、悪性リンパ腫 ・事例のアセスメント（現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから） ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断とセルフケア支援について討議する	六戸部 磯見
11 12	がんの集学的治療と療養過程のマネジメント（1）（2）	事例分析：前立腺がん（手術、放射線、ホルモン、待機など） ・事例のアセスメント（現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから） ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断とセルフケア支援について討議する	高野
13 14	がんの集学的治療と療養過程のマネジメント（3）（4）	事例分析：乳がん（術前・術後補助化学療法、手術、放射線療法） ・事例のアセスメント（現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから） ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断とセルフケア支援について討議する	中野
15	がん薬物療法に伴う患者・家族へのセルフケア支援	事例検討：有害事象に対する予防および症状緩和に関するセルフケア支援	田墨
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・実験／演習      ・プレゼンテーション      ・グループワーク      ・ディスカッション			
到達目標			
・がん薬物療法の臨床薬理を理解し、有害事象の予防・早期発見・早期対処について説明できる ・がん薬物療法の継続および治療中の生活の質を高めるために必要なアセスメントとエビデンスに基づくセルフケア支援を含めた看護援助について説明できる			
準備学習（予習・復習）			
○予習： 以下の内容を準備して授業に臨む  ・1-4 回    殺細胞抗がん薬、分子標的薬、ホルモン薬、免疫療法の作用と有害事象について事前学習する。  ・5-14 回   事例のアセスメントに必要な病態生理・診断・治療などについて学習するとともに、担当教員に事前課題を確認し、教員の指示に従って事前学習した内容を提出またはプレゼンテーションする。  ・「臨床薬理学」の講義を受講したうえで授業に臨む。  ○復習： ・講義終了後には、キーポイントについてまとめる。			
成績評価方法			
講義への取り組み状況 (60%) とレポート (40%)			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			

<b>教科書及び参考書</b>	
参考書 ・必要に応じて資料配布・分権の紹介を行う ・各疾患の診断・治療ガイドライン ・北信がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。(腫瘍病理学特論、分子腫瘍学特論)	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b>	磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp



教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62CAN108
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特論Ⅴ				緩和ケア、症状マネジメント、倫理調整、家族看護、在宅ケア	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
大森 一郎		准教授／精神医学		omoriim@u-fukui.ac.jp	
小島 ひで子		教授／文京学院大学		hkojima@bgu.ac.jp	
佐久間 由美		がん看護専門看護師／聖隷三方原病院		ys1970@sis.seirei.or.jp	
山田 仁映		がん看護専門看護師／福井県済生会病院		yamada.hitoe4021@fukui.saiseikai.or.jp	
繁田 里美		非常勤講師			
学修目標					
・がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩の包括的なアセスメントと、ケアとキュアを統合した症状マネジメントについて理解する。 ・エンド・オブ・ライフケアと家族のグリーフワークについて理解する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	緩和ケアの概念	緩和ケアの歴史と現状 ・緩和ケアの歴史と理念 ・緩和ケアの現状と課題 ・生命を脅かす疾患に起因した諸問題に苦慮する患者・家族にかかわる看護師の責務			繁田
2	症状マネジメント (1) トータルペイン	がん患者のトータルペイン			佐藤
3	症状マネジメント (2) 症状マネジメントモデル	症状マネジメントモデルとその活用			〃
4-5	症状マネジメント (3) 身体症状のマネジメント	身体症状を呈する人へのケア ・症状（痛み、倦怠感、呼吸困難感、悪心・嘔吐、腹部膨満感、浮腫）発現のメカニズムと評価、ケア ・特殊な状況（腎機能障害、肝機能障害など）における薬剤の使い方			山田
6-7	症状マネジメント (4) 精神症状のマネジメント	精神症状を呈する人へのケア ・症状（不眠、せん妄、抑うつ、不安、希死念慮等）の評価、ケア			大森
8-9	症状マネジメント (5) スピリチュアルペインのマネジメント	スピリチュアルペインとケア ・スピリチュアルペインの概念 ・スピリチュアルペインのアセスメントとケア（事例）			佐久間
10	緩和ケアと倫理	看護師が遭遇する倫理的葛藤、倫理調整 ・セデーション、安楽死・尊厳死、輸液にかかわるケース			〃
11	インフォームドコンセントと意思決定支援	・患者の感情表出を促すコミュニケーション ・意思決定支援 ・バッドニュース後の患者・家族へのケア			〃
12-13	家族へのケア	がん患者を親にもつ子どもへのケア ・子どものグリーフワークの特徴 ・グリーフケア、遺族ケア			小島
14	在宅における緩和ケア	・在宅ケアの現状と課題 ・社会資源の活用とソーシャルワーク			長谷川

		・退院調整	
15	エンド・オブ・ライフケア	・エンド・オブ・ライフケア ・死期間近のケアと準備、看取りのケア	繁田
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習 ・ 文献購読		対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション			
到達目標			
1) 緩和ケアの歴史と現状・課題について説明できる。 2) トータルペインについて説明できる。 3) 症状マネジメント(身体的側面・精神的側面・スピリチュアルな側面)について説明できる。 4) インフォームドコンセントと意思決定支援について説明できる。 5) 看護師が遭遇する倫理的葛藤、倫理調整について説明できる。 6) 家族へのグリーフケアについて説明できる。 7) 在宅における緩和ケアの現状と課題について説明できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習：各授業の学修内容について、関係する図書や文献を検索・熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。また担当教員に事前課題を確認し、教員の指示に従って事前学修した内容を資料にまとめ、プレゼンテーションまたは提出の準備を行う。 ○復習：授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。 北陸がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。（分子腫瘍学特論、腫瘍放射線医学特論、分子生物学入門、がん外科学特論）			
その他履修上の注意点等			
・質問・相談は随時受け付けます。			
代表者 (氏名・E-Mail)		月田 佳寿美・tsuki@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62CAN109
単 位 数：	2 単位	コマ数	30 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学演習Ⅰ				がん薬物療法、エビデンス、支援計画、セルフマネジメント教育	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
上原 佳子		教 授／基礎看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
六戸部 香里		助教／臨床看護学・がん看護専門看護師		muto@u-fukui.ac.jp	
田墨 恵子		がん看護専門看護師・看護師長／大阪大学医学部附属病院		ktazumi@hp-nurse.med.osaka-u.ac.jp	
長 光代		がん看護専門看護師／おれんじ訪問看護ステーション		mitsuyo3843@gmail.com	
牧野 路子		がん看護専門看護師／本学附属病院		ymicheko@u-fukui.ac.jp	
富永 知恵子		がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師／福井赤十字病院		chemo.cn@gmail.com	
学修目標					
・がん薬物療法を受ける患者が、がん治療のどのような過程にいるかを理解し、理論やエビデンスに基づいた看護援助について事例を通して考えることができる。 ・外来がん薬物療法を受ける患者が、治療を継続しながら生活を調整するために必要な支援（地域連携を含む）を説明できる。 ・課題解決に必要な文献・資料を準備し、エビデンスに基づく援助計画を立てることができる。 ・がん薬物療法に必要な患者・家族に対するセルフマネジメント支援について看護師への模擬授業を実施できる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドラインの理解	がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドラインの作成過程および内容の理解と討議			磯見
2	がん薬物療法看護における研究の動向	文献検索のデータベースを活用して、国内外のがん薬物療法に関連した文献を検索し、プレゼンする			磯見 六戸部
3 4	外来がん薬物療法を受ける患者への看護	外来がん薬物療法におけるがん看護分野の高度実践看護師の活動の実際			牧野
5 6	がん薬物療法にかかわる看護師への教育	薬物の安全な取り扱いと管理、安全な投与管理とアセスメント、臨床判断にかかわる要因、過敏症状とインフュージョンリアクションへの対応、患者主体の症状マネジメント支援に関する基礎的知識・技術 高度実践看護師が行う看護師への教育の実際			田墨
7 8	がん薬物療法における地域連携	外来がん薬物療法を受ける患者を支援するための地域連携、院内外の多職種との連携とがん看護分野の高度実践看護師の役割、訪問看護の役割			長
9 10	がん薬物療法看護における研究の動向と課題の明確化	文献の内容を正確に読み取り、整理・分析してがん薬物療法に関する看護における研究の動向と看護の課題を明確にして発表・討議する			上原 磯見

11 12	がん薬物療法を受ける患者へのエビデンスに基づく援助計画の立案	がん薬物療法に関する知識を活用し、がん看護分野の高度実践看護師の役割と機能を考えたうえで、事例にそって援助計画を立案する	磯見 六戸部
13 14	援助計画の発表および討議	援助計画の発表および討議	磯見 六戸部 富永
15	がん薬物療法を受ける患者・家族のセルフマネジメント支援に関する教育 (1)	看護職を対象に教育技法などを用いて、患者・家族へのセルフマネジメント支援のための模擬授業を行うための授業計画	牧野 磯見 六戸部
16	がん薬物療法を受ける患者・家族のセルフマネジメント支援に関する教育 (2)	授業計画・内容のプレゼンテーション ディスカッション、修正点の明確化	〃
17 18	がん薬物療法を受ける患者・家族のセルフマネジメント支援に関する教育 (3) (4)	模擬授業のリハーサル実施 ディスカッション、改善点の明確化	〃
19	がん薬物療法を受ける患者・家族のセルフマネジメント支援に関する教育 (5)	看護師を対象に模擬授業を実施（大学院生）	牧野 磯見
20	模擬授業の実施についての評価	模擬授業の評価・ディスカッション	六戸部 月田
21   27	フィールドワーク	がん薬物療法における看護の実際 場所：福井大学医学部附属病院 通院治療センター 時間：2日間 ・外来でがん薬物療法を受ける患者の特徴を理解し、活用されている資料などを把握する ・外来でがん薬物療法を受ける患者および入院患者（導入時）への援助の実際を観察、記述し、観察した場面をがん看護の視点で分析する（ガイドラインその他の資料の活用状況、観察場面の看護師への面接触含む） ・演習で立案した援助計画を実現可能にするために、必要なことを臨床の指導者とともに検討する ・フィールドワークの計画を立てて、事前に担当教員および通院治療センター看護師と打ち合わせを行う	牧野 磯見 六戸部
28	フィールドワークのまとめ	・フィールドワークで得られた内容をまとめて OCNS と意見交換する	富永 磯見 六戸部
29	発表および討議	・フィールドワークのまとめと討議をふまえて、がん薬物療法におけるがん看護の課題を明らかにし、課題解決に向けて討議する	磯見 六戸部
30	がん薬物療法におけるがん看護分野の高度実践看護師の役割	・がん薬物療法におけるがん看護分野の高度実践看護師の役割について明確にする	磯見 六戸部
<b>授業の形式</b>		<b>授業形態</b>	
講義 ・ 演習 ・ 実習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム）	

<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>	
・実験／演習      ・問題解決型学習      ・プレゼンテーション      ・反転授業      ・グループワーク      ・現地調査	
<b>到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がん薬物療法を受ける患者への看護を理論やエビデンスを用いて説明することができる。</li> <li>・ 課題解決に必要な文献・資料を準備し、エビデンスに基づく援助計画を立てることができる。</li> <li>・ がん薬物療法に必要な患者・家族のセルフマネジメントに向けた支援に関して、看護師への教育（模擬授業）が実施できる。</li> <li>・ フィールドワークを通して、がん薬物療法における高度実践看護師の活動の実際を説明できる。</li> <li>・ フィールドワークを通して、薬物療法におけるがん看護の課題を明らかにし、課題解決に向けて検討することができる。</li> </ul>	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<p>○予習：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン」 を読んで、概要についてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。</li> <li>・共通科目の「看護教育論」で学習した内容を復習しておく（特に授業計画について）。</li> </ul> <p>○復習：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でのポイントや討論の内容をまとめる。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b>	
事例検討およびフィールドワークの内容（50%）、模擬授業（30%）、課題レポート（20%）を総合して評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
・がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン 2023 年版 第3 版	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62CAN110	
単 位 数：		2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：		
がん看護学演習Ⅱ				緩和ケア、補完代替療法、リンパ浮腫、 栄養管理、エンド・オブ・ライフケア、 地域連携、フィールドワーク		
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス		
○月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp		
廣野 靖夫		准教授／がん診療推進センター		hirono@u-fukui.ac.jp		
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp		
四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp		
上原 佳子		教授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp		
六戸部 香里		助教／臨床看護学・がん看護専門看護師		muto@u-fukui.ac.jp		
浦井 真友美		乳がん看護認定看護師／医学部附属病院看護部		urai@u-fukui.ac.jp		
牧野 路子		がん看護専門看護師／医学部附属病院看護部		ymicheko@u-fukui.ac.jp		
楠川 加津子		所長／永平寺町立在宅訪問診療所		eibou-clinic@orion.ocn.ne.jp		
上埜 千春		がん看護専門看護師／金沢医科大学病院		chiharu@kanazawa-med.ac.jp		
佐久間 由美		がん看護専門看護師／聖隷三方原病院		ys1970@sis.seirei.or.jp		
学修目標						
・ 診断期～終末期各期に生じるさまざまな苦痛症状や心理社会的・霊的苦痛および苦悩を理解し、ケアとキュアを統合して緩和する方法が説明できる。 ・ がんリハビリテーションや栄養管理など薬物療法以外の緩和ケアの方法が説明できる。 ・ エビデンスに基づく緩和ケア技術や援助体系を創造できる。						
各回の授業の内容						
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)	
1	緩和ケアにおけるチーム医療と OCNS の役割	・ なぜチーム医療が必要なのか ・ 緩和ケアにおける OCNS の役割			上埜	
2-3	補完代替療法	・ 補完代替療法を求める人への看護支援			上原	
4	がんのリハビリテーション	・ がんリハビリテーションの定義と目的、対象となる障害、リスク管理、評価 ・ 緩和ケアにおけるリハビリテーション			〃	
5-6	リンパ浮腫への援助	・ リンパ浮腫の援助の実際 (手技演習、予防とセルフケア)			浦井	
7-8	がんの栄養管理	・ がん患者の栄養管理の実際 ・ 終末期癌患者に対する輸液治療のガイドライン			廣野	
9	終末期に起こる様々な問題と看護 (1) トータルペインのアセスメント	・ トータルペインの 4 側面のアセスメントとケア ・ 事例検討			佐久間	
10	終末期に起こる様々な問題と看護 (2) 看取りと家族ケア	・ ホスピスにおける看取りと家族ケア、在宅ケア ・ 事例検討			〃	
11	終末期に起こる様々な問題と看護 (3) 意思決定支援	・ がん終末期に向けたコミュニケーション (死にゆくことの言語化) ・ 事例検討			〃	
12	がんのスキンケア	・ がん患者の皮膚の特徴とケア			四谷	
13-14	地域連携	・ がん患者が地域で安心して療養生活を送るための環境の調整			牧野	
15-16	緩和ケアに関連するがん患者の教育・相談 (1)	・ がん療養に関する相談、意思決定支援 ・ 療養の場を移行する患者の意思決定支援 ・ 事例検討			六戸部 月田	
17	緩和ケアに関連するがん患者教育・相談 (2)	・ ストレスマネジメント、セルフケア支援 ・ 事例検討			〃	

18-20	フィールドワーク (1) 在宅における緩和ケア	在宅での緩和ケアの実際 場所：永平寺町立在宅訪問診療所 時間：1 日間 方法： ・在宅診療に参加し、在宅での緩和ケアの実際を観察、 記述し、がん看護の視点で分析・考察する。 ・事前に計画を立てて、フィールドワークの指導者ならび に担当教員と打合せを行い臨む。	楠川 月田
21-24	フィールドワーク (2) 施設における緩和ケア	施設での緩和ケアの実際 場所：金沢医科大学病院 時間：1 日間 方法： ・緩和ケア病棟における緩和ケアに関する援助の実際を観 察、記述し、がん看護の視点で分析・考察する。 ・緩和ケアチームおよび看護相談に参加し、多職種による 症状緩和の実際を観察、記述し、がん看護の視点で分 析・考察する。	上埜 月田 六戸部
25	フィールドワークのまとめ	・フィールドワークの学びとディスカッション ・リフレクション（レポートにまとめて提出）	磯見 月田 六戸部
26	緩和ケアについての看護師への教育（1）教育ニーズの明確化	・緩和ケアについての看護師の教育ニーズの明確化	六戸部
27	緩和ケアについての看護師への教育（2）教育計画の立案	・看護師への教育計画の立案	〃
28	緩和ケアについての看護師への教育（3）教育計画の評価	・教育計画のディスカッション	
29	看護師の精神的支援	・がん患者・家族をケアする看護師への精神的支援の必要性と実際 ・デスカンファレンス	六戸部
30	まとめ	・1 回から 29 回までの学びを踏まえて、がん看護における緩和ケアの課題を検討する。	磯見 月田 六戸部
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習 ・ 文献購読		対面 ・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・演習 ・ フィールドワーク ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション			
到達目標			
1) 緩和ケアにおけるチーム医療と OCNS の役割について説明できる。 2) 薬物療法以外の緩和ケアの方法（補完代替療法、リンパ浮腫のケア、栄養管理）について説明できる。 2) 終末期に起こる問題と看護について説明できる。 3) がん患者が地域で安心して生活できる環境調整について説明できる。 4) 緩和ケアに関連するがん患者の教育・相談について説明できる。 5) 緩和ケアに関する看護師の教育と精神的支援が説明できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習:各単元に関連した文献、参考図書をレビューし、わからない用語やより深く知りたいことは、自分で調べる。 また担当教員に事前課題を確認し、教員の指示に従って事前学修した内容を資料にまとめ、プレゼンテーションまたは提出の準備を行う。 ○復習:授業資料等を基に授業で学んだ内容を振り返り、理解を深めること。			
成績評価方法			
課題レポート、プレゼンテーション、討論内容、修学態度を総合し、担当教員の合議により評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			

<b>教科書及び参考書</b>	
必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。 e-learning を合わせて聴講すること。（在宅緩和医療特論、臨床栄養学特論）	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
・質問・相談は随時受け付けます。	
<b>代表者（氏名・E-Mail）</b>	月田 佳寿美・tsuki@u-fukui.ac.jp



教育研究区分：		専門看護師教育課程(CNS)		科目番号：	62CAN211
単位数：	2単位	コマ数	45コマ	開講時期：	2年次前期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学実習Ⅰ				直接的ケア、包括的アセスメント、CNSの役割、専門的な知識・技術・態度、看護実践能力	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
上埜 千春		がん看護専門看護師／金沢医科大学病院		chiharuu@kanazawa-med.ac.jp	
我妻 孝則		がん看護専門看護師／金沢医科大学病院		wagataka@kanazawa-med.ac.jp	
六戸部 香里		がん看護専門看護師		muto@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
様々な問題をもつがん患者を受け持ち、直接ケアを通して専門的な知識・技術を修得し、高度実践看護師としての態度や実践能力を養う。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)		(学修内容)		(教員)
2週間以上 目標達成まで	1. 専門的知識を活用し情報整理と問題の焦点化 2. 諸理論を活用した高度な看護実践と評価 3. 実践事例を通じた課題の明確化		◆がん患者・家族と取り巻く社会環境などを、包括的に理解、アセスメントし、問題の焦点化をする。 ◆様々な問題をもつ事例を受け持ち、包括的アセスメントに基づき、先行研究や諸理論を活用した高度な看護を実践し、評価する。 ◆受け持ち事例の分析を通して、がん分野の高度実践看護師としての自己の課題を明確にする。		上埜 我妻 月田 磯見 六戸部
実習場所					
・金沢医科大学病院					
方法					
◆高度実践看護師の指導のもとに、がん患者を1例以上受け持ち、患者や家族の様々な問題をとらえて包括的にアセスメントし、問題を焦点化する。苦痛の緩和、日常生活の再構築を促進するために、看護や関連する理論・概念を適用し、個別性を重視した看護を展開し、記録にまとめる。 ◆患者のケアを通して、看護スタッフや他の職種とコミュニケーションを図り、自己の役割や能力の限界を理解して、必要な専門家に繋ぐ。 ◆プリセプターの高度実践看護師には、カンファレンスにおける事例検討を含めて指導を受ける。 ◆実習期間は原則10日以上、カンファレンスは実習期間中2回以上開催する。 ◆教員は提出された記録をもとに指導を行うとともに、2回以上実習場所に出向き、カンファレンスでの指導及び学生や指導者との連絡・調整を図る。					
授業の形式			授業形態		
・実習			対面		
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・実習   ・プレゼンテーション   ・討議					
到達目標					
1) 患者や家族の様々な問題を包括的にアセスメントし、問題を焦点化できる。 2) 看護や関連する理論・概念を適用し、個別性を重視した看護が展開できる。 3) 患者ケア、看護スタッフや他の職種とコミュニケーションを通して高度実践看護師としての実践や調整などの役割を説明できる。 4) 受け持ち事例の分析を通して、がん分野の高度実践看護師としての自己の課題を明確にできる。					

<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<p>予習：実習や受け持ち対象に関連した文献、参考図書をレビューし、より深く知りたいことは、自分で調べておく。 また主体的に実習を企画し実施・評価を行う。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるようにしておく。</p> <p>復習：実習で学んだ内容を振り返り、自己の課題を明確にする。 (必要時、学内において担当教員とともに振り返りを行う)</p>	
<b>成績評価方法</b>	
目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
必要に応じて文献の紹介を行う。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	月田 佳寿美・tsuki@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程(CNS)		科目番号：	62CAN212
単位数：	2 単位	コマ数	45 コマ	開講時期：	2 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学実習Ⅱ				CNS の役割、CNS の活動、役割モデル	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
清 好志恵		教育担当副看護部長・がん看護専門看護師／静岡県立静岡がんセンター		y.tsuruta@scchr.jp	
六戸部 香里		がん看護専門看護師		muto@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
がん分野の高度実践看護師としての高度なアセスメント能力、介入技術、職種間の調整及び連携、コンサルテーション、教育的機能を果たす能力、研究を通じた援助方法の開発推進、がん医療における地域連携の実際について、モデルを通して学ぶ。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
2 週間以上 目標達成まで	高度実践看護師としての役割を、役割モデルを通して学ぶ。	・ 高度実践看護師が実際の場面でどのように実践的な役割を果たしているのか、実践の意図や役割について理解する。 ・ 高度実践看護師のコンサルテーションに同行し、コンサルテーションに必要な知識や技術を理解する。 ・ 高度実践看護師が行っている調整的な役割について理解する。 ・ 高度実践看護師が行っているケアの質向上を目指した教育活動を理解できる。 ・ 高度実践看護師が行っている臨床における研究活動の実際を理解できる。 ・ 倫理的問題の解決に向けた高度実践看護師の果たす役割を理解できる。 ・ 高度実践看護師の役割開発と課題について考え、言語化することができる。 ・ がん看護の質の向上にむけた組織内の活動を理解する。			清 月田 磯見 六戸部
実習場所					
・ 静岡県立がんセンター					
方法					
・ 高度実践看護師の指導のもとにおいて、高度実践看護師の活動の実際をシャドウイングし、高度実践看護師としての実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究の役割を理解し、記録にまとめ、自己の適性を高める。 ・ プリセプターである高度実践看護師と高度実践看護師の役割、機能、実習の成果について、実習記録を活用して定期的に討議する。 ・ 実習期間は原則 10 日以上、カンファレンスは実習期間中 2 回開催する。 ・ 教員は提出された記録をもとに指導を行うとともに、カンファレンスでの指導及び学生や指導者との連絡・調整を図る。					
授業の形式			授業形態		
・ 実習			対面		
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・ 実習    ・ プレゼンテーション    ・ 討議					

<b>到達目標</b>	
1) 実際の場面での高度実践看護師としてどのように実践的役割を果たしているのか説明できる。 2) コンサルテーションに必要な知識や技術について説明できる。 3) 高度実践看護師が行っている調整的役割、教育活動、研究活動について意図を踏まえて説明できる。 4) 高度実践看護師の役割開発と課題について考え、言語化できる。 5) がん看護の質の向上にむけた組織内の活動について説明できる。	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
予習：実習に関連した文献、参考図書をレビューし、より深く知りたいことは、自分で調べておく。また主体的に実習を企画し実施・評価を行う。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるようにしておく。 復習：実習で学んだ内容を振り返り、自己の課題を明確にし、レポートを提出する。	
<b>成績評価方法</b>	
目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
必要に応じて文献の紹介を行う。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	月田 佳寿美・tsuki@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程(CNS)		科目番号：	62CAN213
単 位 数：	4 単位	コマ数	90 コマ	開講時期：	2 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学実習Ⅲ				直接的ケア 包括的アセスメント CNS の役割 専門的な知識・技術・態度 看護実践能力	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
六戸部 香織		がん看護専門看護師／		mutoa@u-fukui.ac.jp	
佐久間 由美		がん看護専門看護師／聖隷三方原病院		ys1970@sis.seirei.or.jp	
学修目標					
がん看護に関連する高度な専門知識・技術を用いて、がん患者とその家族、医療者が直面する問題状況を包括的にアセスメントし、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。高度実践看護師の 6 つの役割「実践」「教育」「相談」「調整」「研究」「倫理調整」を実践し、評価できる能力を養う。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学習内容)			(教員)
4 週間以上 目標達成まで	がん分野の高度実践看護師としての役割を実践する。	♦ 患者を包括的にアセスメントし、問題の焦点化および解決に向けた援助計画を立案し、実施・評価する。 ♦ コンサルテーション技法に基づいてコンサルテーション活動を実施する。 ♦ 関係職種・組織の連携機能の現状について把握し、患者のケアが円滑・効果的に行われるように調整する。 ♦ 看護スタッフを対象とした教育活動ができる。 ♦ 研究の成果を活用し、エビデンスに基づいた実践を行う。 ♦ 常に倫理的視点を持って活動する。 ♦ 実習を通して内省し、高度実践看護師としての役割開発と課題について言語化する。			磯見 佐久間 月田 六戸部
実習場所					
・ 聖隷三方原病院					
方法					
・ 実習Ⅰ・Ⅱを発展させ、スーパービジョンを受けながら、高度実践看護師としての 6 つの役割を実践し、記録にまとめ、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。 ・ 組織の特徴を理解し、病棟や外来などの集団に必要なニーズを把握し、看護職への教育活動を実施・評価する。コンサルテーション活動を行う。病棟内、組織横断的な活動、チーム内、地域連携など組織内外での調整を実践し、高度実践看護師に必要な能力を養う。 ・ プリセプターである高度実践看護師の指導を受け、週 2 回以上面接にて実習の相談・調整およびフィードバックを受ける。教員は、提出された記録をもとに指導を行うとともに、必要な指導と調整を行う。 ・ 実習期間は原則 20 日以上、実習期間中 2 回以上、カンファレンスを開催する。自己の実習計画により実習期間が延長することもあるが、原則として 9 月下旬には終了する。					
授業の形式				授業形態	
・ 実習				対面	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・ 実習 ・ プレゼンテーション ・ 討議					

<b>到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>複雑な看護ニーズを有する患者や家族の問題を包括的にアセスメントし、問題を焦点化できる。</li> <li>看護や関連する理論・概念、先行研究の知見を活用し、個別性を重視した看護が展開できる。</li> <li>受け持ち患者に生じている倫理的課題について明確にでき、倫理調整の方向性について説明できる</li> <li>コンサルテーション活動を行うことができる。</li> <li>組織の特徴を理解し、病棟や外来などの集団に必要なニーズを把握し、看護職への教育活動を実施・評価できる。</li> <li>病棟内、組織横断的な活動、チーム内、地域連携など組織内外での調整を実践できる。</li> <li>患者ケア、看護スタッフや他の職種とコミュニケーションを通して高度実践看護師としての役割を説明できる。</li> <li>受け持ち事例の分析を通して、がん分野の高度実践看護師としての自己の課題を明確にできる。</li> </ul>	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<p>予習:実習や受け持ち対象に関連した文献、参考図書をレビューし、より深く知りたいことは、自分で調べておく。 また主体的に実習を企画し実施・評価を行う。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるようにしておく。</p> <p>復習:実習で学んだ内容を振り返り、自己の課題を明確にする。 (必要時、学内において担当教員とともに振り返りを行う)</p>	
<b>成績評価方法</b>	
目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
必要に応じて文献の紹介を行う。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62CAN214
単位数：	2単位	コマ数	30 コマ	開講時期：	2 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学実習Ⅳ				診断・治療、身体管理、臨床判断能力、 ケアとキュアの統合	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
五井 孝憲		教 授／外科学（1）		tgoi@u-fukui.ac.jp	
廣野 靖夫		がん診療推進センター長		hirono@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
六戸部 香里		助教／臨床看護学・がん看護専門看護師		muto@u-fukui.ac.jp	
牧野 路子		がん看護専門看護師／附属病院看護部		ymicheko@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
がんの診断・治療過程を理解し、身体管理と治療の遂行に必要な看護援助を行うために、臨床医の指導の下、アドバンストなアセスメント能力と臨床判断能力を修得し、ケアとキュアを統合し、卓越した臨床判断とケアを実践できる能力を養う。 がん患者への長期的支援の観点から、がん医療における地域連携とがん分野の高度実践看護師の役割と資源の活用について学ぶ。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学習内容)			(教員)
2 週 間 以 上  目 標 達 成 ま で	1. ケアとキュアを統合し、卓越した臨床判断と実践を行う。	◆ がんの診断・治療過程を理解し、身体管理と治療の遂行に必要な看護援助を行うために、アドバンストなアセスメント能力と臨床判断能力を修得し、ケアとキュアを統合し、卓越した臨床判断とケアを実践する。			磯見 五井 廣野 月田 六戸部 牧野  〃
	2. がん医療における地域連携	◆ がん患者の苦痛緩和および薬物療法にかかわる身体管理と治療遂行を支援する。 ◆ がん患者への長期的支援の観点から、がん医療における地域連携とがん分野の高度実践看護師の役割と資源の活用について考察する。 ◆ 在宅療養への移行に必要な教育や支援、社会資源の活用や効果的な連携について考える。			
実習場所：					
◆ 福井大学附属病院					
方法：					
◆ 緩和ケアチーム、緩和ケア外来、通院治療センター（外来化学療法室）、消化器外科外来、がん相談支援センターなどの実習を通して、フィジカルアセスメント、検査指示、必要な医療処置について判断した内容について、プリセプターである指導医からスーパーバイズを受けながら実習し、記録にまとめる。 ◆ 週に3～4日、病院にて実習し、週2回以上は指導医からフィードバックを受ける。 ◆ がん看護における地域連携に関しては、地域連携室看護師とともに実習する。また、高度実践看護師に準ずる看護師から週1回以上フィードバックを受ける。 ◆ 教員は、提出された記録をもとに指導を行うとともに、必要な指導と調整を行う。実習期間は原則10日以上、カンファレンスは実習期間中2回以上開催する。					
授業の形式			授業形態		
演習			対面・ 遠隔（リアルタイム）		

<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>	
・ 演習      ・ 現地調査      ・ ディスカッション	
<b>到達目標</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>がん患者の治療過程を理解し、ケアとキュアを統合し、卓越した臨床判断とケアを実践できる。</li> <li>がん患者の苦痛緩和および薬物療法にかかわる身体管理と治療遂行を支援できる。</li> <li>長期的な視点に立って、がん医療における地域連携とがん分野の高度実践看護師の役割と資源の活用について考察することができる。</li> <li>在宅療養への移行に必要な教育や支援、社会資源の活用や効果的な連携について述べるができる。</li> </ul>	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<p>予習：実習や受け持ち対象に関連した文献、参考図書をレビューし、より深く知りたいことは、自分で調べておく。また主体的に実習を企画し実施・評価を行う。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるようにしておく。</p> <p>復習：実習で学んだ内容を振り返り、自己の課題を明確にする。</p>	
<b>成績評価方法</b>	
目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
必要に応じて文献の紹介を行う。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp



<b>教育研究区分：</b>		専門看護師教育課程（CNS）		<b>科目番号：</b>		62CAN215	
<b>単 位 数：</b>		2 単位	<b>コマ数</b>	30 コマ	<b>開講時期：</b>		1・2 年次通年
<b>授業科目名：</b>					<b>キーワード：</b>		
がん看護学課題研究							
<b>担当教員名</b>			<b>職名／所属</b>		<b>E メールアドレス</b>		
○磯見 智恵			教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp		
月田 佳寿美			准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp		
六戸部 香里			がん看護専門看護師／		muto@u-fukui.ac.jp		
<b>学修目標</b>							
がん看護学の学修並びに実践を通して見出された研究課題に沿って研究を行い、論文を作成することにより、看護実践に活用できる研究能力を養う。							
<b>各回の授業の内容</b>							
(回)	(主題・学修内容)					(教員)	
1	研究課題に関連した文献検討をする					磯見・月田 六戸部	
2	研究課題に基づいて研究計画の概要を明確にする					〃	
3	研究計画に基づいて計画遂行に関する調整をする					〃	
4	研究計画に基づいて研究を展開することができる					〃	
5	研究結果について多面的に検討し、先行論文との比較検討をする					〃	
6	研究論文を作成する					〃	
7	作成した論文に基づいて、発表し、説明する					〃	
<b>授業の形式</b>				<b>授業形態</b>			
演習				対面・ 遠隔（リアルタイム）			
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>							
・演習    ・現地調査    ・ディスカッション							
<b>到達目標</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>研究課題に関連した文献検討ができる</li> <li>研究課題に基づいて研究計画の概要を明確にすることができる。</li> <li>研究計画に基づいて計画遂行に関する調整ができる。</li> <li>研究計画に基づいて研究を展開することができる。</li> <li>研究結果について多面的に検討し、先行論文との比較検討ができる。</li> <li>研究論文を作成することができる。</li> <li>作成した論文に基づいて、発表し、説明することができる。</li> </ul>							
<b>準備学習（予習・復習）</b>							
研究課題に関連する内容について自己学習する							
<b>成績評価方法</b>							
研究への取り組み、研究論文を総合して評価する。							
<b>成績評価基準</b>							
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。							

<b>教科書及び参考書</b>	
・ 研究課題に沿った研究方法に関する文献・書籍を紹介する	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62DIS104
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学特論 I				災害看護、災害サイクル、生活上の問題、 災害関連死、放射線災害	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
国内外において発生する災害の種類やその特徴、災害の種類別における人々の生命・健康への影響、地域社会への影響を理解する。災害サイクルに沿った人々の反応を、理論を元に理解する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	災害の基本的知識①	災害の定義、災害サイクルについて			佐藤
2	災害の基本的知識②	国内の災害の種類と現状及び支援			清水
3	災害の基本的知識③	国外の災害の種類と現状及び支援（国連防災の取り組み、国際救助の基準など）			清水
4	災害の基本的知識④	災害時の医療体制、健康問題			酒井
5	災害種類別・災害サイクル別による生活上の諸問題①	自然災害の種類・災害サイクルにおける身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題			酒井
6	災害種類別・災害サイクル別による生活上の諸問題②	人為災害の種類・災害サイクルにおける身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題			佐藤
7	災害サイクルにおける心理的変化のプロセスと心理的支援	被災者・支援者の災害時の心理変化と看護 PTSD・ASD、惨事ストレス、バーンアウト症候群			酒井
8	災害時に発生する健康課題	災害に関連する疾患および災害関連死と発生要因			清水
9	急性期における災害看護①	危機的状態にある被災者および援助者の特性：ストレスコーピングを用いた実践への適用			佐藤
10	急性期における災害看護②	危機的状態にある被災者および援助者の特性：危機理論を用いた実践への適用			佐藤
11	急性期における災害看護③	喪失を体験した被災者の特性：予期的悲嘆、家族の悲嘆の心理過程の理解と実践への適用			佐藤
12	慢性期における災害看護①	災害時の慢性疾患患者の病状と生活に及ぼす影響			磯見
13	慢性期における災害看護②	災害時の慢性疾患患者がセルフケアを維持していくための援助方法：セルフケア理論			磯見
14	慢性期における災害看護③	不確かさの理論の理解と実践への適用：ミシエルの不確か事理論			佐藤
15	災害事例と看護の課題	事例からみた各災害における地域社会への影響と生活上の問題			清水
授業の形式			授業形態		
講義			対面・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（ 対面 ・ 遠隔(リアルタイム) ）		

<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>	
・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ディスカッション	
<b>到達目標</b>	
① 災害の基本的知識となる、災害の定義、災害の種類、国内外の災害時における支援内容について理解できる。 ② 自然災害及び人為災害に伴う身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題について、災害サイクル別に理解し説明できる。 ③ 災害関連死の現状と課題について説明できる。 ④ 危機的状況にある被災者及び救助者の特性を、ストレスコーピング、危機理論、予期悲嘆の理論を用いて理解を深め、実践への応用を説明できる。 ⑤ 発災後の慢性疾患に対する症状と生活に及ぼす影響を、理論を用いて理解を深め実践への応用を説明できる。	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
○予習 各単元に関連した文献、参考図書をレビューし、わからない用語やより深く知りたいことは、自分で調べる。また、提示された課題・資料は自己学習をして授業に臨むこと。	
○復習 授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。	
<b>成績評価方法</b>	
レポート(40%)，プレゼンテーション（30%），討議（30%）を総合して評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし 適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
代表教員が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行います。 質問は代表教員にメールしてください。 この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「対象の理解に関する科目」に該当する。	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62DIS105
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学特論Ⅱ				被災者特性、活動現場の特性、地域特性 連携システム、倫理的判断	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp	
木村 哲也		准教授／救急医学		tkimu@u-fukui.ac.jp	
窪田 直美		災害看護専門看護師			
学修目標					
災害サイクル別の被災者特性や地域特性、活動現場の特性を踏まえ、他職種等との連携支援のシステム構築の重要性を理解した上で、判断が難しい倫理的問題に対して的確に判断を行い、高度実践による看護支援内容を理解する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	被災者特性①	災害サイクルに応じた被災者の特性と現場の特性			佐藤
2	被災者特性②	被災者特性の理解（個人および家族）			長谷川美
3	被災地域特性	被災地域の特性の理解（地域診断、地域踏査）			北出
4	専門職としての連携システム①	災害医療に関連する専門職チームの連携システム （DMAT、DPAT、DEHEAT、消防、警察、自衛隊等の公的機関との連携）			木村
5	専門職としての連携システム②	災害支援に関連する専門職チームの連携システム （NPO/NGO、弁護士会、防災士会等）			清水
6	地域ネットワーク	災害時の広域な地域ネットワーク			北出
7	災害看護に関連する理論と研究	災害時の倫理判断と意思決定支援			清水
8	被災病院における倫理的判断と看護援助①	急性期の被災病院における倫理的諸問題と看護援助			窪田
9	被災病院における倫理的判断と看護援助②	慢性期の被災病院における倫理的諸問題と看護援助			窪田
10	被災地域における倫理的判断と看護援助①	避難所・在宅避難者における倫理的諸問題と看護援助			酒井
11	被災地域における倫理的判断と看護援助②	応急仮設住宅と災害公営住宅における倫理的諸問題と看護援助			清水
12	被災地域における倫理的判断と看護援助③	被災者遺族に対するグリーフケア			佐藤
13	専門職としての連携システム③	緊急被ばく医療における連携の実際			木村
14	災害における研究的視点	国内外の災害看護学の研究動向と課題			佐藤
15	災害サイクルと災害看護専門看護師	災害サイクル別の看護活動における災害看護専門看護師の役割			酒井

<b>授業の形式</b>	<b>授業形態</b>
講義	対面・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（ 対面      ・      遠隔（リアルタイム） ）
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>	
・問題解決型学習    ・プレゼンテーション    ・グループワーク    ・授業外学習の推進    ・ディスカッション	
<b>到達目標</b>	
① 災害サイクルに沿った専門職連携システムと看護の実際について説明できる。 ② 災害医療に災害医療に関連する専門職チームの役割について理解できる。 ③ 災害支援に関連する専門職チームの役割について理解できる。 ④ 災害サイクル別における医療機関、避難所、在宅避難者の倫理的諸問題について理解できる。 ⑤ 応急仮設住宅と災害公営住宅における倫理的諸問題について理解できる。 ⑥ 緊急被ばく医療における専門職連携の実際について説明できる。	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
○予習 各単元に関連した文献、参考図書をレビューし、わからない用語やより深く知りたいことは、自分で調べる。また、提示された課題・資料は自己学習をして授業に臨むこと。 ○復習 授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。	
<b>成績評価方法</b>	
レポート(40%)、プレゼンテーション（30%）、討議（30%）を総合して評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし 適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
代表教員が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行います。 質問は代表教員にメールしてください。 この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「災害サイクルと看護援助に関する科目」に該当する。	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62DIS106
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学特論Ⅲ				災害対応政策、防災計画、社会的課題、被災者と法、災害関連死、放射線	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
長谷川 美香		教 授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
安田 仲宏		教 授／附属国際原子力工学研究所		nyasuda@u-fukui.ac.jp	
木村 哲也		准教授／救急医学		tkimu@u-fukui.ac.jp	
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
霜山 真		准教授／宮城大学		shimo.ma@myu.ac.jp	
小柏 博英		福井市社会福祉協議会		h-ogashiwa@fukuic.shakyo.jp	
岡本 正		弁護士／銀座パートナーズ法律事務所		okamoto@ginza-partners.jp	
学修目標					
災害時の被災者支援に関連した法律、援助者の活動をサポートする法律など、災害時発生する諸問題を解決するための法的根拠を理解し、それらの法律に関連した制度の概要や問題点を俯瞰しながら、災害対応政策の現状と課題を理解する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	地域における災害対応政策①	都道府県における災害対応政策の現状と課題			北出
2	地域における災害対応政策②	市町村における災害対応政策の現状と課題			北出
3	防災行政・防災計画	災害時における災害応急対策			安田
4	防災行政・防災計画	災害時における行政対応と原子力災害対応			安田
5	復興支援	復興支援「災害対応政策における課題」 (東日本大震災における被災自治体の震災復興計画)			霜山
6	復興支援ボランティア	国内における復興支援ボランティアの実際と課題 (社会福祉協議会の役割など)			小柏
7	災害時に発生する健康課題	災害関連死に関する災害対応政策の現状と課題			清水
8	災害が人体に及ぼす影響と社会的課題	災害が人体に及ぼす影響 —放射線による人体影響に関する対策			安田
9	災害が人体に及ぼす影響と社会的課題	緊急被ばくに対する災害対応政策			安田
10	災害事例と災害対策	事例からみた各災害における災害対応政策の実際と課題			木村
11	国外における被災者に対する支援制度	諸外国における被災者支援に係る制度			長谷川
12	災害に関連した法律や制度①	防災・減災に関する法律 災害対策基本法、個人情報保護法			岡本
13	災害に関連した法律や制度②	被災者の生活を支える法律 災害救助法、被災者生活再建支援法			岡本
14	災害に関連した法律や制度③	災害時の保健医療福祉に関する法律 医療法、			佐藤

15	災害に関連した法律や制度④	原子力災害に関する法律 原子力災害対策特別措置法	佐藤
授業の形式		授業形態	
講義		対面・遠隔（リアルタイム）	
演習		上記の中から併用（ 対面 ・ 遠隔(リアルタイム) ）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・問題解決型学習      ・プレゼンテーション      ・反転授業      ・グループワーク      ・授業外学習の推進 ・ディスカッション			
到達目標			
① 地域における災害対応政策として、自治体の役割や制定されている政策の現状と課題を理解する。 ② 防災計画における自治体の初動体制、広域に影響を及ぼす原子力災害対応についての現状と課題を説明できる。 ③ 災害時の行政対応と原子力防災について説明できる。 ④ 原子力災害がもたらす人体への影響と政策の課題について理解することができる。 ⑤ 復興支援ボランティアの現状と課題について説明できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 各単元に関連した文献、参考図書をレビューし、わからない用語やより深く知りたいことは、自分で調べる。また、提示された課題・資料は自己学習をして授業に臨むこと。  ○復習 授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
レポート(40%)、プレゼンテーション（30%）、 討議（30%）を総合して評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
指定なし  適宜紹介する。			
その他履修上の注意点等			
代表教員が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行います。  質問は代表教員にメールしてください。  この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「法律や制度に関する科目」に該当する。			
代表者  (氏名・E-Mail)		佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp	



教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62DIS207
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学特論Ⅳ				健康被害、フレイルチェスト、クラッシュ症候群、新興感染症、自治体保健師	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihiisa@u-fukui.ac.jp	
細萱 順一		急性・重症患者看護専門看護師／かわぐち心臓呼吸器病院			
学修目標					
昨今の社会構造の変化に伴う健康被害や疾病構造の影響を理解した上で、災害発生から時間的な推移によって生じる問題に対して必要となる看護援助について学ぶ。災害サイクル各期において予測される疾患の基本的理解をベースとして救命救急看護や避難生活を送る被災者への看護援助について理解をする。また中長期に被災者が抱える健康や生活上の諸問題の査定など、自治体保健師の介入内容やその役割・連携についても理解する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	災害時における健康と疾病	災害時の社会構造の変化に伴う健康被害と疾病構造に対する看護支援の理解			佐藤
2	急性期において被災者が抱える諸問題や対応策①	地震による災害の急性期～亜急性期における救命救急看護（フレイルチェスト、クラッシュ症候群）			細萱
3	急性期において被災者が抱える諸問題や対応策②	津波による災害の急性期～亜急性期における救命救急看護（津波肺、多発外傷）			細萱
4	急性期において被災者が抱える諸問題や対応策③	風水害および噴火、雪害の急性期～亜急性期における救命救急看護（熱傷、低体温）			細萱
5	慢性期において被災者が抱える諸問題や対応策①	災害時の循環器疾患に対する看護援助（高血圧、心不全、深部静脈血栓症等）			酒井
6	災害慢性期において被災者が抱える諸問題や対応策②	災害時の呼吸器疾患に対する看護援助（糖尿病、COPD、喘息、肺炎）			酒井
7	災害慢性期において被災者が抱える諸問題や対応策③	災害時の環境変化に対する看護援助（認知症、サルコペニア、生活不活発病）			酒井
8	放射線と災害①	放射線による健康問題（急性放射線障害、晩発性放射線障害、遺伝性放射線障害）			佐藤
9	放射線と災害②	放射線災害時の支援の実際と社会的課題（福島、チェルノブイリ原子力発電所事故）			佐藤
10	感染症と災害①	避難所における感染症と対策、パンデミック時の避難と対策			佐藤
11	感染症と災害②	新興感染症流行時における病院、避難所、仮設住宅における看護援助			佐藤
12	災害急性期の保健医療福祉の実際①	災害急性期における自治体保健師の被災者支援の実際			佐藤
13	災害慢性期の保健医療福祉の実際②	災害慢性期における自治体保健師の被災者支援の実際			佐藤
14	災害急性期における医療施設内での支援①	災害急性期における病院内での看護実践（傷病者の受け入れと重症患者への対応）			清水
15	災害慢性期における医療施設内での支援②	災害慢性期における病院内での看護実践（災害医療から通常医療への移行、継続治療を必要とする患者への対応）			清水

<b>授業の形式</b>	<b>授業形態</b>
講義（第1回、第5回～11回） 演習（第2回～4回、12～15回）	対面・遠隔（オンデマンド） 上記の中から併用（対面・遠隔（リアルタイム））
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>	
・演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・現地調査 ・ディスカッション	
<b>到達目標</b>	
① 災害サイクルに沿って起こりやすい健康問題とその治療方法や具体的な看護支援について理解をする。 ② 新興感染症流行に伴う活動場所別の感染対策及び支援内容について説明できる。 ③ 過去に事例より放射線災害の支援内容と社会的課題について理解する。 ④ 保健医療福祉の実際として、自治体保健師による災害急性期・慢性期における活動内容及び支援の実際を理解する。	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
○予習 演習開始時に演習計画を立案すること。立案した計画に沿って各回に必要な準備を行うこと。 ○復習 授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。 レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。	
<b>成績評価方法</b>	
レポート(40%)、プレゼンテーション（30%）、討議（30%）を総合して評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし 適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
指導教員との連携のもと、演習及びプレゼンテーションとディスカッションを行います。質問は代表教員にメールしてください。 この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「災害時の看護活動に関する科目」に該当します。	
<b>代表者 （氏名・E-Mail）</b>	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62DIS108
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学特論Ⅴ				個人、家族、地域、災害基幹病院/災害拠点病院、レジリエンス	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
長谷川 美香		教 授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
花房 八智代		災害看護専門看護師		hanafusa830@yahoo.co.jp	
霜山 真		准教授／宮城大学		shimo.ma@myu.ac.jp	
山崎 加代子		教授/敦賀市立看護大学		k-yamazaki@tsuruga-nu.ac.jp	
細萱 順一		急性・重症患者看護専門看護師／かわぐち心臓呼吸器病院			
学修目標					
地域で生活する個人・家族・地域に対しての防災・減災教育の取り組みなどの現状と課題を理解する。同時に医療機関などにおける防災・減災、被害対応、備えと特殊災害における具体的な対策方法などの看護援助方法を理解し、実践することができる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	防災・減災の意義	災害サイクル別における防災・減災とレジリエンス			佐藤
2	災害時の防災・減災・被害対応・備え①	自然/人為災害別における地域特性と備え			佐藤
3	災害時の防災・減災・被害対応・備え②	災害対策マニュアルと BCP			清水
4	学校防災	児童及び生徒への防災・減災教育			清水
5	地域防災①	個人・家族・地域における防災体制			花房
6	地域防災②	個人や家族、住民組織による地域防災と看護支援			花房
7	地域防災③	指定避難所/福祉避難所における災害の備え			酒井
8	病院防災①	災害基幹病院/災害拠点病院における災害の備え			酒井
9	病院防災②	病院における災害時の初動体制/災害対応訓練の実際			酒井
10	病院防災③	災害時における病院管理の諸問題、被害に対する看護援助方法の企画・実施・評価及び備えに対する教育			細萱
11	諸外国の防災支援	異文化社会における防災/減災への備え及び支援			長谷川美香
12	復興支援	復興支援時の諸問題と看護介入			霜山
13	特殊災害の被害対応と備え①	特殊災害における被害対応・備え			山崎
14	特殊災害の被害対応と備え②	特殊災害への対応：救護所レイアウト・養生実習・身体表面汚染検査・除染方法			山崎
15	特殊災害の被害対応と備え③	特殊災害における被害対応・備えに対する評価			山崎

<b>授業の形式</b> 講義（第 1～8 回、11～12 回） 演習（第 9～10 回、13～15 回）	<b>授業形態</b> 対面・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（ 対面      ・      遠隔（リアルタイム） ）
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b> ・演習    ・問題解決型学習    ・プレゼンテーション    ・グループワーク    ・授業外学習の推進    ・現地調査 ・ディスカッション	
<b>到達目標</b> ① 災害サイクル別における防災・減災とレジリエンスについて理解することができる。 ② 地域で生活する個人・家族・地域に対しての防災・減災教育の取り組みなどの現状と課題を理解する。 ③ 医療機関などにおける防災・減災、被害対応、備えについて理解することができる。 ④ 特殊災害における具体的な対策方法などの看護援助方法を理解し、実践することができる。 ⑤ 諸外国における防災/減災への備えや支援に関連した現状を理解することができる。	
<b>準備学習（予習・復習）</b> ○予習 各単元に関連した文献、参考図書をレビューし、わからない用語やより深く知りたいことは、自分で調べる。また、提示された課題・資料は自己学習をして授業に臨むこと。 ○復習 授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。	
<b>成績評価方法</b> レポート(40%)，プレゼンテーション（30%），討議（30%）を総合して評価する。	
<b>成績評価基準</b> 福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b> 指定なし 適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b> 代表教員が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行います。 質問は代表教員にメールしてください。 この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「防災・減災等備え活動に関する科目」に該当する。	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程(CNS)		科目番号：	62DIC214
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学特論VI				要配慮者、子ども、妊産褥婦、精神疾患、外国人、自治体、防疫	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
長谷川 智子		教 授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp	
嶋 雅代		准教授／育成期看護学		mashima@u-fukui.ac.jp	
川口 めぐみ		講 師／コミュニティ看護学		senmeg@u-fukui.ac.jp	
酒井 明子		福井大学名誉教授		sakaiaki@u-fukui.ac.jp	
富澤 弥生		教 授／東北福祉大学		yayoi-t@tfu.ac.jp	
学修目標					
要配慮者となる子ども、妊産褥婦、高齢者、慢性疾患患者、心身障がい者等の健康問題と、要配慮者をサポートする医療救護体制や保健予防活動などの自治体による看護支援内容を理解する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	要配慮者への看護支援①	要配慮者の定義と対象の特徴を踏まえた生活への援助/被災者と援助者の特性と支援の実際			酒井明
2	要配慮者への看護支援②	要配慮者への避難支援（個別避難計画など）			酒井明
3	高齢者と災害看護①	災害時の高齢者の特徴			磯見
4・5	高齢者と災害看護②	災害時における高齢者の看護の実際（エンパワーメント、コンフォート理論、ストレングスを踏まえて）			磯見
6	母子と災害看護①	災害時の妊産褥婦の特徴と支援			嶋
7	母子と災害看護②	災害時の新生児・乳幼児の特徴と支援			富澤
8	精神と災害看護	災害時の精神疾患・障害をもつ人の特徴と支援			川口
9	外国人と災害看護	災害時の外国人への看護の実際			長谷川智
10	自治体における防災・減災・被害対応・備えの実際①	災害時保健活動マニュアル策定と共通理解・ 実地訓練			清水
11	自治体における防災・減災・被害対応・備えの実際②	医療救護体制と保健予防活動、生活環境衛生の整備			酒井彰
12	自治体における防災・減災・被害対応・備えの実際③	救護所・避難所・福祉避難所の運営・防疫とDHEAT/DPAT			佐藤
13	自治体における防災・減災・被害対応・備えの実際④	保健医療福祉活動に関する情報の連携と人材育成			清水
14	課題解決に向けた調整機能①	現在の社会構造からみる減災・備えと未来志向型減災教育			酒井彰
15	課題解決に向けた調整機能②	困難事例における課題の明確化と課題解決に向けた調整の実施・評価			佐藤

<b>授業の形式</b> 講義（第1～9回、14～15回） 演習（第10～13回）	<b>授業形態</b> 対面・遠隔（リアルタイム）
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b> ・演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・現地調査 ・ディスカッション	
<b>到達目標</b> ①要配慮者の特性の理解と必要な看護援助について理解する。 ②災害時の外国人に対する配慮や看護援助について理解する。 ③災害時保健活動マニュアル策定や医療救護体制、保健予防活動など自治体による支援内容について理解する。	
<b>準備学習（予習・復習）</b> ○予習 演習開始時に演習計画を立案すること。立案した計画に沿って各回に必要な準備を行うこと。 ○復習 授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。 レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。	
<b>成績評価方法</b> レポート（40%）、プレゼンテーション（30%）、討議（30%）を総合して評価する。	
<b>成績評価基準</b> 福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b> 指定なし 適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b> 質問は代表教員にメールしてください。 この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「要配慮者に対する看護援助に関する科目」に該当する。	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62DIS210
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学特論Ⅶ				連携、調整、救護所、避難所、図上訓練	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
北村 大樹		主 幹／鯖江・丹生消防組合消防本部		d.kitamura@fd-sabaenyu.jp	
学修目標					
災害サイクル各期における専門職の連携と他職種との連携について、現状や問題点を分析的に検討する。教育・訓練などの企画、実施、評価を行い、調整・連携機能を理解する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	災害サイクルにおける組織間での支援調整①	災害サイクル各期における国・自治体・地域との連携と看護支援			佐藤
2	災害サイクルにおける組織間での支援調整②	災害サイクルにおける危機管理と他職種連携の重要性と問題点			清水
3	災害サイクルにおける組織間での支援調整③	海外における災害関係各機関の支援体制と調整			酒井
4	災害看護活動の場における他職種との連携活動①	災害急性期における被災地内外からの医療・保健に関わるチームとの連携・調整			酒井
5	災害看護活動の場における他職種との連携活動②	災害慢性期における被災者の日常生活への移行に向けた生活支援の調整、地域医療の再建や在宅被災者に目を向けた保健活動の支援と調整			佐藤
6	災害看護活動の場における他職種との連携活動③	災害復旧復興期における仮設住宅/復興住宅におけるコミュニティづくりのための連携・調整			清水
7	災害看護活動の場における他職種との連携活動④	災害静穏期における減災に向けての体制づくりの支援の調整			酒井
8	災害看護活動の場における他職種との連携活動⑤	救護所における運営支援の連携・調整（災害医療コーディネーター、医師会・看護協会・薬剤師会など）			佐藤
9	災害看護活動の場における他職種との連携活動⑥	避難所における運営支援の連携・調整（行政・施設管理者・自主防災組織・他職種など）			清水
10	災害看護活動の場における他職種との連携活動⑦	病院災害における事業継続に向けた他職種との連携・調整			佐藤
11	図上訓練の作成①	図上訓練の目的/概要と実例（イメージトレーニング方式、ゲーム方式、ロールプレイング方式）の理解			清水・北村
12	図上訓練の作成②	ロールプレイング方式による図上訓練の企画：テーマの検討、対象の選定 例）地震発生時における病棟スタッフの初動対応力向上を目指すためには、何を目的に、誰に対して、どのような訓練を実施するのか検討する。			酒井・北村
13	図上訓練の作成③	ロールプレイング方式による図上訓練の企画：シナリオの作成			佐藤・北村

		シナリオを検討する上で、学習者観・教材観・指導者観をまとめ、現状の問題点を把握・分析した上で内容を検討していく。	
14	図上訓練の作成④	図上訓練の実施 実際に対象者に対してロールプレイング方式による訓練を開催する。役割はコントローラーおよびファシリテーション役を担う。	清水・北村
15	図上訓練の作成⑤	図上訓練の評価 企画内容・訓練の当日の状況を振り返り、実施した教育内容を評価する。	酒井・北村
授業の形式		授業形態	
講義（第1～2回、7～11回）		対面・遠隔（リアルタイム）	
演習（第3～6回、12～15回）		上記の中から併用（対面・遠隔（リアルタイム））	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・演習・問題解決型学習・プレゼンテーション・反転授業・グループワーク ・授業外学習の推進・現地調査・ディスカッション			
到達目標			
① 災害時の連携について現状と課題を分析し、防災教室や災害対応訓練に活かすことができる。 ② 災害看護活動の場に応じた看護・専門職連携の知識や技術が修得できる。 ③ 災害サイクルにおける看護・専門職連携の知識や技術が修得できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 演習開始時に演習計画を立案すること。立案した計画に沿って各回に必要な準備を行うこと。 ○復習 授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。 レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
レポート（40%）、プレゼンテーション（30%）、討議（30%）を総合して評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
指定なし 適宜紹介する。			
その他履修上の注意点等			
質問は代表教員にメールしてください。 この授業科目は、高度実践看護師教育課程審査における「災害サイクル各期における調整に関する科目」に該当します。			
代表者 （氏名・E-Mail）		佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp	



教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62DIS211
単 位 数：	2 単位	コマ数	40 コマ	開講時期：	2 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学実習 I				実践、教育、調整	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
未定					
学修目標					
地域の包括医療の中核と災害拠点を担う病院において、災害に対する備えの時期（静穏期）における高度な実践能力と教育・連携・調整する能力を修得する。在宅を中心とし、地域にいる個人や家族に対する生活上の諸問題や心身の健康問題への看護を学び、災害発生後の看護の継続に向け、対象が抱える問題・課題を明確化し減災教育を実施する。病院では、災害拠点病院の役割と地域とのつながりを学び、保健・医療・福祉の連携を考察し、調整能力を養う。					
各回の授業の内容					
(週)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	① 対象の理解と高度な看護実践 ② 減災教育の企画	・ 訪問看護に同行し看護実践を行う中で、対象者や家族の発災時～中長期に予測される健康問題と減災に関するニーズを明確にする。 ・ 病院および訪問看護ステーションの防災体制の実践を学び、災害拠点病院が有する訪問看護ステーションとしての役割を保健・医療・福祉の側面から考察する。 ・ 対象者や家族に必要な減災教育を企画する。			佐藤 清水・酒井 未定
2	① 備えに関する相談 ② 減災教育の実施・評価	・ 1 の健康問題とニーズに対する備えとして、対象者や家族、訪問看護師の相談に応じる。 ・ 1 で企画した減災教育を実施し、評価する。			〃
地域医療の中核および災害拠点病院での実習（急性期・中長期・静穏期）					
実習施設：訪問看護ステーション 実習指導者：未定					
授業の形式			授業形態		
実習			対面		
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・プレゼンテーション                      ・グループワーク                      ・ディスカッション					
到達目標					
① 災害拠点病院が有する訪問看護ステーションで災害を想定した日常からの訪問看護体制を理解する。（実践） ② 災害拠点病院が有する訪問看護ステーションにおいて、災害急性期から中長期の在宅での生活上の諸問題や心身の健康問題に対する看護活動を理解し、災害時の看護援助を実践できる。（実践） ③ 災害発生後の看護の継続に向けた、各機関との連携・調整を理解する。（調整） ④ 対象や病院が抱える問題・課題を明確化し減災教育を実践する。（教育） ⑤ 災害拠点病院の役割と地域とのつながりを理解し、保健・医療・福祉の側面から考察する。					

<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<p>○予習</p> <p>実習開始前に実習計画を立案する。立案した計画に沿って実習に必要な準備や実習施設との調整を行ったうえで実習し、実習中は中間報告会、最終報告会を行う。</p> <p>○復習</p> <p>実習中は毎日実習記録を提出する。実習終了後は実習を振り返り、指導教員と評価面談を実施する。</p>	
<b>成績評価方法</b>	
<p>以下の点における総合評価とする。</p> <p>① 事前の実習計画の立案：10%</p> <p>② 実習記録と成果物（毎日の記録と相談・教育内容）：50%</p> <p>③ 自己評価：40%</p>	
<b>成績評価基準</b>	
<p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。</p>	
<b>教科書及び参考書</b>	
<p>指定なし</p> <p>適宜紹介する。</p>	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<p>実習は学生が主体的に企画・実施・評価を行います。自立して自己の実習目標達成に向けて企画・調整し実習評価は具体的な評価になるようにしてください。</p> <p>質問は代表教員にメールしてください。</p>	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62DIS211
単 位 数：	3 単位	コマ数	60 コマ	開講時期：	2 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学実習Ⅱ				実践、教育、倫理調整、研究	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
鈴木 美和		看護部長／災害医療センター		suzuki.miwa.hy@mail.hosp.go.jp	
朝田 和枝		災害看護専門看護師／福井赤十字病院		k-asada@fukui-med.jrc.or.jp	
学修目標					
災害発生直後からの看護活動に向けて、災害急性期に必要な高度な看護実践能力を養う。また、平常時からの備えや災害看護教育・減災教育の実践を学び、災害時の複雑で解決困難な看護問題に対して必要な教育を企画・実施することを通して研究能力を養う。					
各回の授業の内容					
(週)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	急性期の高度な看護実践および防災体制の整備と災害看護教育の実践 (福井赤十字病院)	① 災害急性期の看護実践に向けて平常時の高度な急性期看護を通して実践能力やアセスメント能力を養う (ICU、手術室、救命センターなどでの看護実践を通して学ぶ)。 ② 災害拠点病院・原子力災害拠点病院としての防災体制の整備の実践を学ぶ (防災センター、病院の管理部門、各病棟などでのヒアリングを通して学ぶ)。また、実習施設における災害看護教育の実践を学び、実習施設の教育ニーズを明らかにし、災害看護教育を企画する。 ③ 災害発生時に起こりうる病院の問題を理解し、研究を基盤とした災害看護専門看護師としての役割を探究する。			朝田・佐藤 清水・酒井
2	① 災害看護教育の実施・評価 ② 医療体制や防災体制における倫理的課題 (福井赤十字病院)	① 1ー②で企画した災害看護教育を実施し評価する。 ② 実習施設の医療体制や防災体制について倫理的な課題を明らかにし、解決に向けた調整や看護援助について検討する。			〃
3	備えの時期 (静穏期) における防災体制の整備と災害看護教育の実践 (災害医療センター)	広域災害医療の基幹施設としての防災体制の整備や災害看護教育・減災教育を通してどのように人材育成につなげているのか等の実践を学ぶ (防災訓練までの事前教育と、防災訓練当日および事後評価)。			鈴木 佐藤・清水 酒井
① <u>災害拠点病院 (原子力災害拠点病院) での実習 (急性期・静穏期) 90 時間 (2 単位)</u> 実習施設：福井赤十字病院 実習指導者：朝田和枝 (災害看護 CNS)					
② <u>災害基幹病院での実習 (急性期・静穏期) 45 時間 (1 単位)</u> 実習施設：独立行政法人国立病院機構 災害医療センター					

実習指導者：鈴木 美和	
※ 災害が発生した場合、関連学会や NPO と共に現地で支援活動をすることで、急性期の看護活動の実習とすることができる。	
<b>授業の形式</b>	<b>授業形態</b>
実習	対面
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>	
・プレゼンテーション      ・グループワーク      ・ディスカッション	
<b>到達目標</b>	
① 災害基幹・災害拠点病院で災害を想定した平常時からの医療・看護体制、防災体制を理解する。(実践) ② 災害基幹・災害拠点病院での急性期の高度な看護実践を行う。(実践) ③ 原子力災害拠点病院における備えの特徴を理解する。 ④ 災害拠点病院で災害看護教育を実施する。(教育) ⑤ 看護職を含む他職種間で生じる葛藤や倫理的課題を明らかにし調整する。(倫理調整) ⑥ 災害看護分野における研究ニーズを理解する。(研究)	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
○予習 実習開始前に実習計画を立案する。立案した計画に沿って実習に必要な準備や実習施設との調整を行ったうえで実習し、実習中は中間報告会、最終報告会を行う。 ○復習 実習中は毎日実習記録を提出する。実習終了後は実習を振り返り、指導教員と評価面談を実施する。	
<b>成績評価方法</b>	
以下の点における総合評価とする。 ① 事前の実習計画の立案：10% ② 実習記録と成果物（毎日の記録と相談・教育内容）：50% ③ 自己評価：40%	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし 適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
実習は学生が主体的に企画・実施・評価を行います。自立して自己の実習目標達成に向けて企画・調整し実習評価は具体的な評価になるようにしてください。 質問は代表教員にメールしてください。	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62DIS213
単 位 数：	2 単位	コマ数	40 コマ	開講時期：	2 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学実習Ⅲ				実践、相談、倫理調整、調整	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
佐藤 美佳		教 授／福島県立医科大学		samika@fmu.ac.jp	
学修目標					
災害中長期における看護活動について、地域特性の理解や被災者の中長期に及ぶ心身の健康問題への介入を通して、看護職と他職種に対する相談・看護実践の能力を養う。また、被災者の尊厳を守り、倫理的課題に取り組みながら、地域で暮らす被災者と家族の生活支援に向けて支援者間の調整を行う。					
各回の授業の内容					
1	① 中長期の被災地が抱える問題や課題 ② 健康相談等の企画	① 中長期の被災地の医療機関や復興支援のための保健活動で被災者や支援者の観察やヒアリングを通して、被災者の心身の健康課題や医療機関や支援組織が抱える問題や課題を明らかにする。 ② 明らかになった問題や課題に対し、中長期の被災者に必要な看護を実践するための健康相談等を企画する。 * 双葉町診療所での実習日以外は、オリエンテーション、東京電力福島第一原子力発電所見学、ふたば暮らしの保健室の参加とする。	佐藤大・清水 酒井・佐藤美		
2	① 健康相談等の実施・評価 ② 地域の問題や課題	① 健康相談等の実施を通して、関連職種や地域住民との課題の共有や調整を行う。 ② 1で明らかになった課題をさらに俯瞰的に捉え、保健・医療・福祉の連携を行い、そこに潜む倫理的課題への対応を行う。 * 双葉町診療所での実習日以外は、東日本大震災・原子力災害伝承館の見学、ふたば暮らしの保健室の参加、最終カンファレンスとする。	〃		
被災地での地域医療・保健活動 中長期					
実習施設：双葉町診療所 実習指導者：佐藤美佳					
授業の形式			授業形態		
実習			対面		
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・プレゼンテーション          ・グループワーク          ・ディスカッション					
到達目標					
① 被災者の中長期に及ぶ心身の健康問題に被災地の地域特性を踏まえて介入できる。(実践)					
② 看護職と他職種に対する相談に応じる。(相談)					
③ 実践事例を通して倫理的課題探求と評価ができる。(倫理調整)					
④ 地域で暮らす被災者と家族の生活を支援に向けてケア提供者間の調整を行う。(調整)					

<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<p>○予習</p> <p>実習開始前に実習計画を立案する。立案した計画に沿って実習に必要な準備や実習施設との調整を行ったうえで実習し、実習中は中間報告会、最終報告会を行う。</p> <p>○復習</p> <p>実習中は毎日実習記録を提出する。実習終了後は実習を振り返り、指導教員と評価面談を実施する。</p>	
<b>成績評価方法</b>	
<p>以下の点における総合評価とする。</p> <p>① 事前の実習計画の立案：10%</p> <p>② 実習記録と成果物（毎日の記録と相談・教育内容）：50%</p> <p>③ 自己評価：40%</p>	
<b>成績評価基準</b>	
<p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。</p>	
<b>教科書及び参考書</b>	
<p>指定なし</p> <p>適宜紹介する。</p>	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<p>実習は学生が主体的に企画・実施・評価を行います。自立して自己の実習目標達成に向けて企画・調整し実習評価は具体的な評価になるようにしてください。</p> <p>質問は代表教員にメールしてください。</p>	
<b>代表者</b> <b>（氏名・E-Mail）</b>	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	6DIS214
単 位 数：	3 単位	コマ数	60 コマ	開講時期：	2 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学実習Ⅳ				相談、調整、教育	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
木村 哲也		准教授／救急医学		tkimu@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
鈴木 勝博		署 長／永平寺町消防本部			
北村 大樹		次 長／鯖江・丹生消防組合消防本部		d.kitamura@fd-sabaenyu.jp	
学修目標					
備えの時期（静穏期）における地域に根ざした看護活動の実際を学び、地域住民を取り巻く他職種とのネットワークを活用した連携と調整能力を養う。また、地域の防災組織や行政との連携を学び、教育や相談を行うことで、地域防災計画に基づく防災体制における看護職の役割を考察する。					
各回の授業の内容					
(週)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	① 災害発生時における公助の課題（救命処置の実際と関係機関との調整） ② 地域防災組織との連携の現状と課題	地域の歴史・文化・対象者の特性を把握し、地域全体の視点から、地域の減災・防災の課題を探究する。 ① 救急車に同乗し、搭載されている医療用資器材を用いての救命処置の実際と関連機関との調整の現場を学び、災害発生時の公助の課題を考察する。 ② 消防団や防災士会等の地域の防災組織の活動に参加し、観察やヒアリングを行い、地域や組織の課題やニーズを把握する。			佐藤・清水 酒井 鈴木・北村
2	① 課題解決にむけた相談 ② 関連機関のニーズ把握 ③ 対象者への教育 ④ 対象者や関連機関との連携調整	地域のネットワークを活用し地域に寄り添う教育・相談を実践し、複雑で解決困難な問題に対して地域の資源を活用した解決方法を探究する。 ① 1 で把握した課題やニーズに対応するため、組織の相談に応じる。 ② 市町の防災課や保健福祉課の職員へのヒアリングを行い、①の相談に対する解決方法を探究する。 ③ ②のヒアリングをもとに行政職員に対する教育を実施する。 ④ 上記①～③のプロセス中で連携や調整能力を養う。			〃
3	① 課題解決にむけた相談 ② 関連機関のニーズ把握 ③ 対象者への教育 ④ 対象者や関連機関との連携調整	原子力施設が立地する地域において、減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法を探究する。 ① PAZ および UPZ 圏内の地域住民の原子力防災に対する課題を考察する。 ② 原子力災害発生時の県内避難先の受け入れ自治体における備えや課題について、行政職員へのヒアリングを行う。 ③ ②のヒアリングをもとに地域住民および自治体の課題解決にむけた相談を実施する。			佐藤・清水 酒井・木村

		④ 上記①～③のプロセス中で連携や調整能力を養う。	
<p>① 永平寺町消防本部での実習 90 時間(2 単位)</p> <p>実習施設：永平寺町消防本部</p> <p>実習指導者：鈴木勝博(救急救命士)</p> <p>② 鯖江・丹生消防組合消防本部 45 時間(1 単位)</p> <p>実習施設：鯖江・丹生消防組合消防本部・消防署</p> <p>実習指導者：北村大樹</p>			
授業の形式		授業形態	
実習		対面	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・プレゼンテーション                      ・グループワーク                      ・ディスカッション			
到達目標			
<p>① 地域における減災・防災の課題を探究できる。</p> <p>② 救急救命の現場から、災害発生時の公助における支援活動の課題や関係機関との調整の意義を理解する。(調整)</p> <p>③ 地域における減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して、関連職種の方々からの相談に対応し、地域ネットワークを活用した解決方法が探究できる。(相談)</p> <p>④ 原子力施設が立地する地域において減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法が探究できる。</p> <p>⑤ 自治体職員に対して課題解決にむけた災害看護教育を実施する。(教育)</p> <p>⑥ 専門看護師として地域における課題把握の重要性を理解し、実践および教育を通して自己の役割を開発することができる。</p>			
準備学習（予習・復習）			
<p>○予習</p> <p>実習開始前に実習計画を立案する。立案した計画に沿って実習に必要な準備や実習施設との調整を行ったうえで実習し、実習中は中間報告会、最終報告会を行う。</p> <p>○復習</p> <p>実習中は毎日実習記録を提出する。実習終了後は実習を振り返り、指導教員と評価面談を実施する。</p>			
成績評価方法			
<p>以下の点における総合評価とする。</p> <p>① 事前の実習計画の立案：10%</p> <p>② 実習記録と成果物（毎日の記録と相談・教育内容）：50%</p> <p>③ 自己評価：40%</p>			
成績評価基準			
<p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。</p>			
教科書及び参考書			
<p>指定なし</p> <p>適宜紹介する。</p>			



<b>その他履修上の注意点等</b>	
<p>実習は学生が主体的に企画・実施・評価を行います。自立して自己の実習目標達成に向けて企画・調整し実習評価は具体的な評価になるようにしてください。</p> <p>質問は代表教員にメールしてください。</p>	
<b>代表者</b> <b>(氏名・E-Mail)</b>	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62DIS215
単 位 数：	2 単位	コマ数	30 コマ	開講時期：	1・2 年次通年
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学課題研究				研究課題の明確化、研究計画立案、 研究の展開、先行研究との比較検討 論文作成、研究発表	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○佐藤 大介		教 授／臨床看護学		satodai@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		助教・災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
災害看護学の学修並びに実践を通して見出された研究課題に沿って研究を行い、論文を作成することにより、看護実践に活用できる研究能力を養う。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1)	研究課題の明確化と研究計画の立案	研究課題に基づき研究計画の概要を明確にする			佐藤・清水 酒井
2)	研究計画の調整	研究計画に基づき計画の実施について調整する			〃
3)	データ収集	研究計画に基づき研究を展開する			〃
4)	データの分析、考察	研究結果について多面的に検討し、先行研究と比較検討する			〃
5)	研究論文の作成	研究論文を作成する			〃
6)	発表	作成した論文に基づき発表する			〃
授業の形式				授業形態	
演習・個別指導				対面・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（ 対面 ・ 遠隔（リアルタイム） ）	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・プレゼンテーション      ・授業外学習の推進      ・ディスカッション					
到達目標					
① 研究課題に基づき研究計画の概要を明確にすることができる。 ② 研究計画に基づき計画の実施について調整することができる。 ③ 研究計画に基づき研究を展開することができる。 ④ 研究結果について多面的に検討し、先行研究と比較検討することができる。 ⑤ 研究論文を作成することができる。 ⑥ 作成した論文に基づき発表し、説明することができる。					
準備学習（予習・復習）					
○予習 指導教員・副指導教員と相談し、研究を進める。 ○復習 追加学修が必要な項目について学修する。					
成績評価方法					
研究過程における取り組み姿勢、プレゼンテーション状況、作成された修士論文及び論文発表状況を総合して評価する。					

<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし 適宜紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
質問は担当会の教員または代表教員にメールしてください。	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	佐藤 大介・satodai@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER104
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学特論Ⅰ				高齢者、生涯発達、サクセスフルエイジング、アドボカシー、意思決定	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
老年看護に関わる諸理論の学習と CNS の役割の理解を通して、専門的な老年看護実践を発展させるに必要な論理的思考と看護の見方、また、老年看護実践を探究するための基盤となる考え方を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)		(学修内容)		(教員)
1	老年看護の歴史と課題 高齢者の理解		老年看護学の歴史的変遷と課題 自己の高齢者観の探求		四谷淳子 月田佳寿美
2	高齢者の心理・社会的面における諸理論①		生涯発達理論・活動理論・離脱理論・適応理論①		月田佳寿美
3	高齢者の心理・社会的面における諸理論②		生涯発達理論・活動理論・離脱理論・適応理論②		月田佳寿美
4	高齢者の心理・社会的面における諸理論③		サクセスフルエイジング・アクティブエイジング①		四谷淳子
5	高齢者の心理・社会的面における諸理論④		サクセスフルエイジング・アクティブエイジング②		四谷淳子
6	老年看護における倫理的課題と支援①		アドボカシー・エイジズム・高齢者虐待①		四谷淳子 平松知子
7	老年看護における倫理的課題と支援②		アドボカシー・エイジズム・高齢者虐待② (事例検討)		四谷淳子
8	老年看護における倫理的課題と支援③		意思決定・尊厳死など①		四谷淳子
9	老年看護における倫理的課題と支援④		意思決定・尊厳死など（事例検討）②		四谷淳子
10	老年看護を実践する基盤となる理論①		セルフケア論・エンパワメント①		磯見智恵
11	老年看護を実践する基盤となる理論②		セルフケア論・エンパワメント②		磯見智恵
12	老年看護を実践する基盤となる理論③		コンフォート理論・ストレングス論①		四谷淳子 磯見智恵
13	老年看護を実践する基盤となる理論④		コンフォート理論・ストレングス論②		四谷淳子 磯見智恵
14	老年看護学実践・研究の課題		老年看護の実践・研究・教育の現状と課題		四谷淳子
15	老人看護専門看護師としての機能と役割		老人看護専門看護師の活動の実際 老人看護専門看護師の役割・機能		四谷淳子
授業の形式			授業形態		
講義			対面・ 遠隔（リアルタイム）		

<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>	
・問題解決型学習・プレゼンテーション ・グループワーク ・ミニレポート ・ディスカッション	
<b>到達目標</b>	
1. 老年看護に関する諸理論や概念について説明できる。 2. 老年看護を実践するために有用な看護理論を理解できる。 3. 老年看護を実践するために必要な倫理的課題とその対応について説明できる。 4. 老人看護専門看護師として教育、相談、調整、倫理調整などの機能や役割について説明できる。	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第1回 老年看護学の定義と老年看護学変遷 第2回～第3回 生涯発達理論・活動理論・離脱理論・適応理論 第4回～第5回 サクセスフルエイジング・アクティブエイジング 第6回 アドボカシー・エイジズム・高齢者虐待 第7回 エイジズムまたは高齢者虐待についての臨床での事例をレポートにまとめておく 第8回 高齢者の倫理について 第9回 高齢者とその家族への支援（意思決定）について臨床での事例をレポートにまとめておく 第10回～第11回 セルフケア論・エンパワメント 第12回～第13回 コンフォート理論・ストレングス論 第14回 老年看護学領域における最新の臨床研究論文を一編読み、整理する 第15回 老人看護専門看護師としての機能と役割についてレポートにまとめておく  ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。	
<b>成績評価方法</b>	
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
参考書 1) E. H. エリクソン, J. M. エリクソン: ライフサイクル・その完結, みすず書房, 2001. ISBN:9784622039679 2) キャサリン・コルカバ: コルカバ コンフォート理論, 医学書院, 2008. ISBN:9784260005654 3) ドロセア E オレム, 小野寺杜紀: オレム看護論 - 看護実践における基本概念 (第4版), 医学書院, 2005. ISBN: 9784260000604 4) E. O. コックス (著)ほか: 高齢者エンパワーメントの基礎—ソーシャルワーク実践の発展を目指して, 相川書房, 1997. ISBN:9784750102429 5) アイリーン・T. オグラディ (著), メアリー・フラン・トレーシー (著): 高度実践看護—統合的アプローチ, 第2版, へるす出版, 2021. ISBN:9784892699962 6) ベッキー ファースト (著), ローズマリー チャピン (著)ほか: 高齢者・ストレングスモデルケアマネジメン トーケアマネジャーのための研修マニュアル, 筒井書房, 2005. ISBN: 9784887204676	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。	
<b>代表者 (氏名・E-Mail)</b>	四谷 淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER105
単 位 数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学特論Ⅱ（健康生活評価）				老年看護、高齢者、健康生活評価	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
西 依見子		Taste&See 代表 非常勤講師／ 大阪府立大学 看護学分類		emiko5222000@yahoo.co.jp	
濱田 敏彦		准教授／北陸大学 医療保健学部		t-hamada@hokuriku-u.ac.jp	
水上 喜美子		助 教／金沢大学 医薬保健研究域 医学系		k.mizukami@m ed.kanazawa-u.ac.jp	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 老年期における健康について把握し、健康面や生活状況の評価方法の特徴を理解できる。</li><li>・ 高齢者の健康状態を身体的・精神的・社会的および包括的にアセスメントすることができる。</li><li>・ 専門看護師として高齢者の総合的評価に基づき、看護ニーズを整理し、Q O L 向上に向けた、高齢者と家族の看護実践への活用が説明できる。</li></ul>					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	高齢者の健康生活機能評価	高齢者の健康生活評価の特徴について、高齢者総合機能評価（CGA）			四谷淳子
2	高齢者の健康生活機能評価	国際生活機能分類（ICF）の考え方について			四谷淳子
3	身体機能の評価（1）	日常生活自立度（ADL）と手段的生活動作（IADL）			四谷淳子
4	身体機能の評価（2）	転倒転落リスク評価			四谷淳子
5	身体機能の評価（3）	摂食・嚥下機能の変化と評価			西依見子
6	身体機能の評価（4）	栄養評価と栄養管理			四谷淳子
7	身体機能の評価（5）	排泄機能の変化と評価			四谷淳子
8	身体機能の評価（6）	呼吸器・循環器機能の変化と評価			濱田敏彦
9	認知・心理的機能および社会的機能の評価（1）	認知機能障害の評価			水上喜美子
10	認知・心理的機能および社会的機能の評価（2）	精神心理機能の評価			水上喜美子
11	認知・心理的機能および社会的機能の評価（3）	ソーシャルサポート、ネットワーク家族機能の評価			水上喜美子
12	認知・心理的機能および社会的機能の評価（4）	介護負担、ストレス評価			水上喜美子
13	認知・心理的機能および社会的機能の評価（5）	高齢者の QOL、生活満足度の評価			四谷淳子
14	高齢者の健康生活評価の実際（1）	高齢者の包括的アプローチと看護展開の実際①			四谷淳子
15	高齢者の健康生活評価の実際（2）	高齢者の包括的アプローチと看護展開の実際②			四谷淳子

<b>授業の形式</b>		<b>授業形態</b>
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム）
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>		
・ 演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ グループワーク ・ ミニレポート ・ ディスカッション		
<b>到達目標</b>		
1. 高齢者の加齢変化や健康生活に関連する基本的な概念に基づき、高齢者のアセスメントにおける課題を説明できる。 2. 高齢者の健康生活を把握するさまざまな評価方法を活用して高齢者の複雑な状況をアセスメントし、説明できる。 3. 高齢者の健康生活を包括的にとらえる評価方法を活用し、アセスメント結果を説明できる。		
<b>準備学習（予習・復習）</b>		
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第1回～第2回 高齢者総合機能評価（CGA）、国際生活機能分類（ICF） 第3回 日常生活自立度（ADL、IADL） 第4回 転倒転落リスクアセスメント 第5回 嚥下機能評価 第6回 栄養アセスメントツール 第7回 排尿機能の評価 第8回 呼吸器・循環器の評価 第9回～第10回 認知・心理的機能および社会的機能の評価 第11回～第12回 ソーシャルサポート、ストレス評価 第13回 高齢者の満足度評価 第14回～第15回 看護実践での事例を第1回～第13回までの評価を用いてレポートにまとめる  ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。		
<b>成績評価方法</b>		
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。		
<b>成績評価基準</b>		
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。		
<b>教科書及び参考書</b>		
参考書 1) 小木曾加奈子編著：高齢者ケアの質を高める ICF を活かしたケアプロセス，学文社，2015。 ISBN: 9784762030673 2) 鈴木みずえ編著：転倒・転落予防のベストプラクティスーベッドサイドですぐにできる，南江堂，2013。 ISBN: 9784524263332 3) 谷口珠実，武田正之 著，編集：下部尿路機能障害の治療とケア：病態の理解と実践に役立つ，メディカ出版 2017。 ISBN：9784840461368		
<b>その他履修上の注意点等</b>		
質問・相談は随時受け付けます。		
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER106
単位数：	2単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学特論Ⅲ（病態・治療学）				老年看護、高齢者、病態・診断・治療	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
一和多 俊男		教 授／東京医科大学 八王子医療センター 呼吸器内科		ichiwata@tokyo-med.ac.jp	
近藤 康博		呼吸器・アレルギー疾患内科主任部長／公立陶 生病院		konyasu2003@yahoo.co.jp	
濱野 忠則		准教授／福井大学医学系部門医学領域 内科学 （2）		hamano@u-fukui.ac.jp	
有島 英孝		准教授／福井大学医学系部門医学領域附属病 院部 脳神経外科		ari@u-fukui.ac.jp	
小久保 安朗		准教授／福井大学医学系部門医学領域 手術部		kokubo@u-fukui.ac.jp	
後藤 伸之		教 授／福井大学医学系部門医学領域 薬剤部		ngoto@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
・高齢者に多く見られる疾患の病態や症状、診断・治療について説明ができる。 ・疾病や治療等が高齢者の生活に及ぼす影響をアセスメントし、予測的な対応につなげることができる。 ・高齢者特有の疾患の診断・治療に関する知識を活用し、ケアとキュアを統合した高度な看護実践を検討できる。					
各回の授業の内容					
（回）	（主題）		（学修内容）		（教員）
1	老化について		老化のメカニズム、老年期の疾患の特徴		四谷淳子
2	呼吸器系疾患の病態・診断・治療（1）		COPD		一和多俊男
3	呼吸器系疾患の病態・診断・治療（2）		間質性肺炎、肺線維症		近藤康博
4	呼吸器系疾患の病態・診断・治療（3）		咳、気管支喘息、気管支拡張症		未定
5	脳血管系および神経系疾患の病態・ 診断・治療（1）		脳梗塞・脳出血		有島英孝
6	脳血管系および神経系疾患の病態・ 診断・治療（2）		慢性硬膜下出血・特発性正常圧水頭症		有島英孝
7	認知・精神機能障害の病態・ 診断・治療（1）		せん妄への対応 老年期うつ病の評価と治療		濱野忠則
8	認知・精神機能障害の病態・ 診断・治療（2）		パーキンソン症候群		濱野忠則
9	循環器系の診断・治療		虚血性心疾患		未定
10	運動器系の診断・治療		骨折・関節拘縮疾患		小久保安朗
11	泌尿器系の診断・治療		排尿障害・尿路感染症・神経因性膀胱・前立腺 肥大症		未定
12	消化器系の診断・治療		逆流性食道炎、早期癌の ESD，進行癌の化学療 法，総胆管結石症，炎症性腸疾患		未定
13	高齢者の薬物療法（1）		薬物動態・薬物力学・薬効評価		後藤伸之
14	高齢者の薬物療法（2）		処方上の注意点・服薬指導		後藤伸之
15	診断・治療過程における		複雑な疾患を抱えながら生活する高齢者の		四谷淳子



	高齢者看護包括アセスメント	病態・診断・治療を踏まえ、リスクアセスメント知識を活用した看護展開（事例検討）	
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・問題解決型学習 ・クリッカー ・プレゼンテーション ・ミニッツペーパー ・グループワーク ・ミニレポート ・ディスカッション			
到達目標			
1. 高齢者に生じやすい主な疾患・障害について，病態生理と症候，診断・検査および治療法を説明できる。 2. 高齢者に生じやすい主な疾患・障害の病態生理学的知識を高度実践看護に活用する方法を説明できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習（毎週（回）に分けた記載） 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第1回 老化のメカニズム 第2回～第4回 COPD，間質性肺炎，肺線維症，気管支拡張症 第5回～第6回 脳梗塞，脳出血，慢性硬膜下出血，特発性正常圧水頭症 第7回～第9回 せん妄，老年期うつ病，パーキンソン症候群 第10回 骨折・関節拘縮疾患 第11回 排尿障害・尿路感染症・神経因性膀胱・前立腺肥大症 第12回～第13回 高齢者の薬物療法 第14回～第15回 高齢者の病態・診断・治療を踏まえ、リスクアセスメント知識を活用した事例をレポートにまとめる ○復習（全体をとおした記載） 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
参考図書 1）大内尉義 編：新老年学 第3 版，東京大学出版会，2010. ISBN: 9784130664066 2）日本老年医学会（著，編集），日本医療研究開発機構（著）：高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015，メジカルビュー社，2015. ISBN:9784758304900			
その他履修上の注意点等			
質問・相談は随時受け付けます。			
代表者 （氏名・E-Mail）	四谷 淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp		

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER107
単位数：	2単位	コマ数	15コマ	開講時期：	1年次後期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学特論Ⅳ（看護援助論）				老年看護、高齢者、看護援助	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.jp	
平松 知子		教授／金沢医科大学・老年看護学		hiramatu@kanazawa-med.ac.jp	
古谷 和紀		老人看護専門看護師／京都大学医学部附属病院		fururu_to0515@yahoo.co.jp	
花房 由美子		老人看護専門看護師／神戸市立医療センター中央市民病院		hanafusa@kcho.jp	
学修目標					
・高齢者の自立的・自律的生活を保持・推進するために、高齢者に生じやすい健康問題と、そこから派生する高齢者と家族の問題について予防的および発生時の看護援助の方法を追究できる。 ・高齢者の権利擁護の観点から、療養支援上生じやすい倫理的課題に対する看護職の役割と対応策について追究できる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	家族看護論に基づく看護援助方法（1）	家族理論にもとづき、高齢者とその家族への看護支援方法を理解する。			長谷川 美香
2	家族看護論に基づく看護援助方法（2）	〃			〃
3	家族看護論に基づく看護援助方法（3）	〃			〃
4	転倒を起こしやすい高齢者と家族の看護（1）	転倒のアセスメント、介入、評価について最近の研究から理解する。			平松 知子
5	転倒を起こしやすい高齢者と家族の看護（2）	〃			〃
6	せん妄を起こしやすい高齢者と家族の看護（1）	せん妄を生じる高齢者への看護に関する理論と実際、アセスメント方法について学ぶ。			花房 由美子
7	せん妄を起こしやすい高齢者と家族の看護（2）	せん妄を発生した高齢者および家族へのケアについて学ぶ			〃
8	終末期にある高齢者および家族への看護（1）	終末期の身体的特徴と緩和ケア、高齢者の意思決定と家族を支える看護について学ぶ。			〃
9	終末期にある高齢者および家族への看護（2）	〃			〃
10	排泄障害を起こしやすい高齢者と家族の看護（1）	排泄についてのアセスメント、介入、評価について最近の研究から理解する。			四谷 淳子
11	排泄障害を起こしやすい高齢者と家族の看護（2）	〃			〃
12	排泄障害を起こしやすい高齢者と家族の看護（3）	〃			〃

13	複雑な健康問題をもつ高齢者と 家族への看護（1）	複雑な健康問題をもつ高齢者と家族の入院から 在宅復帰までの経過における看護:最新の文献と 既習した知識・技術を活用した看護実践を検討す る(事例検討)。	四谷 淳子 古谷 和紀
14	複雑な健康問題をもつ高齢者と 家族への看護（2）	〃	〃
15	まとめ	高齢者と家族への援助における老人専門看護 師としてのあり方、自己の課題を討議する。	四谷 淳子
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ミニレポート ・ディスカッション			
到達目標			
・高齢者に起こりやすい健康問題とそこから派生する、高齢者と家族の問題を説明することができる。 ・高齢者と家族が抱える倫理的課題および支援方法を説明できる。 ・終末期における高齢者と家族への支援方法を具体的に説明できる。 ・複雑な健康問題をもつ高齢者と家族の入院から在宅復帰までの経過における質の高い看護を検討できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第1回～第3回 家族看護理論 第4回～第5回 転倒転落リスクアセスメント 第6回～第7回 せん妄に対するアセスメントとケア 第8回～第9回 高齢者の意思決定 第10回～第12回 排泄機能の評価 第13回～第14回 看護実践での事例をレポートにまとめる 第15回 老人看護専門看護師としての自己の課題をレポートにまとめる ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出 すること。			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格 として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
指定なし。			
その他履修上の注意点等			
質問・相談は随時受け付けます。			
代表者 （氏名・E-Mail）		四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62GER108			
単 位 数：		2 単位	コマ数	15 コマ		開講時期：		1 年次後期	
授業科目名：				キーワード：					
老年看護学特論Ⅴ				保健医療福祉制度、システムケア、チーム医療、多職種連携、専門看護師					
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス					
○ 長谷川 美香		教 授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp					
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp					
山村 修		教 授／地域医療推進講座		kapi@u-fukui.ac.jp					
天谷 早苗		主任介護支援専門員／福井県看護協会訪問看護支援室		s-amaya@mx4.fctv.ne.jp					
古川 直美		管理者・訪問看護師／新田塚訪問看護ステーション		huru0837@yahoo.co.jp					
角地 孝洋		保健師・主幹／小松市長寿介護課		t-kaku@city.komatsu.lg.jp					
村田 美穂		看護師長／福井大学医学部附属病院		mihomu@u-fukui.ac.jp					
学修目標									
国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策およびチーム医療での多職種連携・協働を理解し、高齢者と家族のサポートシステムを探究することができる。									
各回の授業の内容									
(回)	(主題)		(学修内容)			(教員)			
1	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状（１）		日本の高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状			長谷川			
2	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状（２）		地域における高齢者ケアシステムの歴史的変遷と現状①			北 出			
3	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状（３）		地域における高齢者ケアシステムの歴史的変遷と現状②			北 出			
4	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状（４）		看護からみた介護保険制度			北 出			
5	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状（５）		後期高齢者への保険事業			北 出			
6	高齢者のサポートシステム		地域包括ケアシステムにおけるCNSの役割			角 地			
7	高齢者と家族へのサポートシステム（１）		高齢者ケア① 生活史のアセスメント			北 出			
8	高齢者と家族へのサポートシステム（２）		高齢者ケア② 地域における認知症の人と家族を支えるしくみ			北 出			
9	高齢者と家族へのサポートシステム（３）		地域における健康危機管理① 災害時			北 出			
10	高齢者と家族のためのサポートシステム（４）		地域における健康危機管理② 感染症			北 出			
11	多様な場で生活する高齢者と家族のためのサポートシステム（１）		医療施設でのチーム医療と保健医療福祉専門職の役割と看護職との連携			山 村			
12	多様な場で生活する高齢者と家族のためのサポートシステム（２）		大学附属病院における地域連携の現状と課題			村 田			
13	多様な場で生活する高齢者と家族のためのサポートシステム（３）		施設でのケアシステムの構築とその実際①			天 谷 古 川 長谷川			
14	多様な場で生活する高齢者と家族のためのサポートシステム（４）		施設でのケアシステムの構築とその実際②			天 谷 古 川 長谷川			
15	今後の高齢者へのサポートシステムのあり方		まとめ（学生発表・討議）			長谷川 北 出			

<b>授業の形式</b>		<b>授業形態</b>
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム）
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>		
・プレゼンテーション ・ グループワーク ・ 授業外学習の推進 ・ ミニレポート ・ディスカッション		
<b>到達目標</b>		
1) 国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策、変遷、相違について説明できる。 2) 病院・施設・在宅・地域のケア場面で必要な知識および保健医療福祉との連携・協働のあり方を理解し、チーム医療における老人看護専門看護師の役割について説明できる。 3) 高齢者と家族のサポートシステムの組織化と活用方法について国際的な視点から探求できる。		
<b>準備学習（予習・復習）</b>		
○予習 授業では、高齢者保健医療福祉制度、高齢者と家族のサポートシステムについて扱うため、そのテーマに関連する内容を各自で事前に把握しておくこと。わからない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。		
○復習 授業後は、授業資料の読み返しやディスカッション内容等から授業テーマの理解に努めること。 レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。		
<b>成績評価方法</b>		
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。		
<b>成績評価基準</b>		
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。		
<b>教科書及び参考書</b>		
指定なし		
<b>その他履修上の注意点等</b>		
・事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨んでください。 ・質問は担当回の教員にメールしてください。 ・質問・相談は随時受け付けます。		
<b>代表者 （氏名・E-Mail）</b>	長谷川美香・mikah@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER109
単位数：	2単位	コマ数	30 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学演習Ⅰ（急性期看護）				高齢者、急性期治療、せん妄、症状緩和、身体拘束、リスクマネジメント、多職種連携、家族看護	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
長谷川 智子		教 授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp	
上原 佳子		教 授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
北野 華奈恵		講 師／基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp	
梅田 尚子		講 師／			
栞原 勇治		副看護部長／福井大学医学部附属病院		kuwabara@u-fukui.ac.jp	
古谷 和紀		老人看護専門看護師／京都大学医学部附属病院		fururu_to0515@yahoo.co.jp	
上田 真弓		慢性呼吸器疾患認定看護師 特定行為研修修了／加賀市医療センター		m.ueda@kagacityhp.jp	
小淵 岳恒		講 師／福井大学医学系部門医学領域 救急部・総合診療部		kobuta@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
急性期医療を受ける複雑な健康障害をもつ高齢者とその家族について理解を深め、複雑な看護問題を分析する視点と看護介入や、倫理上の課題や急性期治療に伴う看護上の問題を解決するための方法を学ぶ。また、高齢者を QOL の視点から捉え、治療におけるキュアとケアの統合を図る、老年看護実践について探求する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1-3	オリエンテーション 急性期にある高齢者の特徴	急性期にある高齢者看護の特徴などについて 文献を活用し検討			長谷川智子 上原佳子
4	急性期にある高齢者の生体反応①	入院治療を受ける高齢者の特徴と周手術期の 術前～術後の生体反応や回復過程および心理 的变化の理解			栞原勇治 北野華奈恵
5	急性期にある高齢者の生体反応②	急性期にある高齢者の侵襲性の高い高度医 療・検査を受ける医療環境下における影響 ～呼吸・循環・代謝水分管理を中心に～			栞原勇治 北野華奈恵
6	急性期にある高齢者の生体反応③	治療に伴う高齢者の安楽と緩和ケアに寄り添 う QOL の維持向上へのアプローチ ～鎮痛管理と鎮静管理の調整とその方法～			栞原勇治 北野華奈恵
7-8	急性期にある高齢者の生体反応④	危機的状況における高齢者の予期的予測と終 末期医療の困難と課題 ～急性期医療現場が抱える医療者と患者・家族 のジレンマと倫理的課題～			栞原勇治 北野華奈恵
9	急性期治療をうける高齢者に活用で きる看護理論①	危機理論 （事例展開）			梅田尚子

10	急性期治療をうける高齢者に活用できる看護理論②	自己効力理論（事例展開）	梅田尚子
11	急性期治療をうける高齢者に活用できる看護理論③	障害受容（事例展開）	上田真弓
12-14	急性期治療をうける高齢者の看護	認知機能の低下した高齢者への看護 廃用性症候群予防の看護 術後せん妄・うつ・認知症の要因と鑑別方法と 予防的介入・治療的介入	四谷淳子 古谷和紀
15-17	急性期治療をうける高齢者と家族への看護	急性期における倫理的課題と高齢者の尊厳を守る看護、家族の意思決定支援	古谷和紀
18-20	急性期治療をうける高齢者の退院支援計画	入院初期から退院・在宅移行への計画立案（家族機能アセスメントを含め）、他職種連携・協働と社会資源の活用とサポート体制の構築プロセス	古谷和紀
21-28	急性期治療をうける高齢者のフィジカルアセスメント	呼吸器系・循環器系・消化器系・脳神経系・筋・骨格系のアセスメントとその看護	長谷川智子 北野華奈恵 小淵岳恒
29-30	演習の統括	これまでの演習を通して、急性期治療をうける高齢者とその家族への看護実践の課題と解決方法を検討する。  認知症看護実践における CNS の役割の考察と自己の課題を明確にする。	四谷淳子 古谷和紀 栗原勇治
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面・遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・演習 ・実習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ミニレポート ・ディスカッション			
到達目標			
1.生命の危機状態にある高齢者を包括的にアセスメントするために身体的・心理的反応について理解し、急性期医療上の課題を明らかにし説明できる。 2.急性期にある高齢者の生命の維持・回復をはかるとともに、安全で安楽な環境と高齢者の強みを引き出す、ケアとキュアを統合した高齢者の急性期看護を探究できる。 3.急性期にある高齢者に発生しやすい、せん妄や廃用性症候群などの要因と評価、予防的看護と発生時の看護について説明できる。 4.急性期医療下で高齢者を看護するための、医療専門職者の連携や協働、意思決定支援や入院初期から退院・在宅移行への支援を理解し、CNS の実践上の課題と自己の課題を明確化し説明できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 各主題および学習内容を確認し、急性期治療を受ける高齢者の特徴や看護、活用できる理論について大まかに理解した上で授業を受けること。  ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出			

<p>すること。</p>	
<p><b>成績評価方法</b></p>	
<p>修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。</p>	
<p><b>成績評価基準</b></p>	
<p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。</p>	
<p><b>教科書及び参考書</b></p>	
<p>教科書:特に指定はない</p> <p>老年看護学特論 I ～V の配布資料を活用する。また必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。</p>	
<p>参考書</p> <p>1) E.O. コックス (著)ほか: 高齢者エンパワーメントの基礎—ソーシャルワーク実践の発展を目指して, 相川書房, 1997. ISBN:9784750102429</p> <p>2) アイリーン・T.オグラディ (著), メアリー・フラン・トレーシー (著): 高度実践看護—統合的アプローチ, 第 2 版, へるす出版, 2021. ISBN:9784892699962</p>	
<p><b>その他履修上の注意点等</b></p>	
<p>質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。</p>	
<p><b>代表者</b> (氏名・E-Mail)</p>	<p>四谷 淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp</p>



教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER110
単 位 数：	2 単位	コマ数	30 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学演習Ⅱ（認知症看護）				老年看護、高齢者、認知症、BPSD	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
濱野 忠則		准教授／福井大学医学系部門医学領域 内科学（2）		hamano@u-fukui.ac.jp	
川口 めぐみ		講 師／コミュニティ看護学		semmegu@u-fukui.ac.jp	
石塚 匡晴		精神専門看護師／福井大学附属病院		masaharu@u-fukui.ac.jp	
高森 巳早都		専任教員・認知症認定看護師／福井大 学看護キャリアアップ部門		nmisato@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
認知症の機序と治療方法、診断技術を理解し、重症度とB P S Dのアセスメント能力を身につけて、認知症高齢者と家族の生活障害と心理的苦悩の理解に基づいた、高度で、専門的な生活への看護実践ができる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	認知症高齢者の理解（1）	認知症高齢者の看護の基本、認知症者の体験世界の理解			四谷淳子
2	認知症高齢者の理解（2）	パーソンセンタードケアと看護、認知症高齢者とその家族の理解			四谷淳子
3	認知症の病態・診断・治療（1）	認知症の病態生理、検査と診断			濱野忠則
4	認知症の病態・診断・治療（2）	アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体病、前頭側頭型認知症の診断基準と症状・治療①			濱野忠則
5	認知症の病態・診断・治療（3）	アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体病、前頭側頭型認知症の診断基準と症状・治療②			濱野忠則
6	認知症の病態・診断・治療（4）	中核症状と周辺症状（BPSD）の治療			濱野忠則
7	認知症ケアの実際 （フィールドワーク 1）	認知症をもつ高齢者のケアの実際とスタッフ行動を通して考える。  地域で暮らす認知症高齢者ケアの実際を知る。  【施設：福井北中央地域包括支援センター】			四谷淳子
8	〃	〃			四谷淳子
9	〃	〃			四谷淳子
10	〃	〃			四谷淳子
11	認知症の看護（事例検討）（1）	フィールドワークで学んだ認知症ケアをもとに、認知症高齢者看護を考える。			四谷淳子
12	認知症の看護（事例検討）（2）	〃			四谷淳子
13	認知症の予防的介入と効果（1）	アクティビティケア、回想法など認知症の予防的介入とその効果について  文献から効果について検証し、討議する。			四谷淳子 高森巳早都

14	認知症の予防的介入と効果（2）	〃	四谷淳子 高森巳早都
15	認知症高齢者と家族への支援（1）	認知症をもつ方とのコミュニケーション	川口めぐみ
16	認知症高齢者と家族への支援（2）	中核症状と周辺症状（BPSD）への対応、生活行動への援助	川口めぐみ
17	認知症高齢者と家族への支援（3）	認知症高齢者と家族へのアセスメント・看護計画立案	川口めぐみ
18	認知症看護における連携と協働（1）	認知症高齢者と家族の課題について	四谷淳子
19	認知症看護における連携と協働（2）	地域におけるサポートシステム、CNS の役割	四谷淳子
20	認知症高齢者の倫理的課題（1）	認知症高齢者における倫理的課題の理解	石塚匡晴
21	認知症高齢者の倫理的課題（2）	認知症高齢者とその家族にかかわる倫理的課題と支援、および倫理調整について	四谷淳子
22	認知症ケアの実際 （フィールドワーク 2）	認知症をもつ高齢者のアセスメントおよび看護計画を立案する。フィールドワーク 1 との視点の変化を考察し、専門看護師の認知症高齢者への看護の役割を明確にする。  【施設：極ほっと 認知症グループホーム】	四谷淳子
23	〃	〃	四谷淳子
24	〃	〃	四谷淳子
25	〃	〃	四谷淳子
26	〃	〃	四谷淳子
27	〃	〃	四谷淳子
28	演習の統括（1）	フィールドワークで体験した、認知症高齢者とその家族への看護実践の課題と解決方法を検討する。	四谷淳子
29	演習の統括（2）	〃	四谷淳子
30	演習の統括（3）	認知症看護実践における CNS の役割の考察と自己の課題を明確にする。	四谷淳子
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習 ・ 実習		対面・遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・演習 ・実習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・現地調査 ・ミニレポート ・ディスカッション			
到達目標			
1. 認知症の病態・症状・診断・治療を最新の研究に基づき理解し説明できる。 2. 認知症高齢者を取り巻く環境を理解し、包括的にアセスメントできる。 3. 認知症高齢者および家族を取り巻く倫理的課題を分析・考察し、その支援方法を説明できる。 4. 認知症の周辺症状（B P S D）とその支援方法を説明できる。			

<p>5. 認知症高齢者および家族への支援における他職種との連携・協働の意義を理解し述べることができる。</p> <p>6. 認知症高齢者および家族の現状を踏まえ、キュアとケアを統合した専門的で高度なケア実践を考えることができる。</p>	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<p>○予習・復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回～第6回、第13～21回までは関連図書を読み、授業に臨むこと。</li> <li>・事前に認知症をもつ高齢者のケアを学習の上フィールドワーク1に臨み、終了後に課題レポートを提出すること。</li> <li>・第1回～第22回、フィールドワーク1で学習したことを復習し、フィールドワーク2に臨み、終了後に課題レポートを提出すること。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b>	
事例検討の内容（40％）、課題レポート（40％）、参加態度（20％）を総合して評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
教科書	
<p>1）日本看護協会編集：認知症ケアガイドブック，照林社，2018．ISBN：9784796523851</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学特論Ⅰ～Ⅴの配布資料を活用する。また必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。</li> </ul>	
参考書	
<p>1）寛 裕介（著），樋口直美（監修），認知症未来共創ハブほか（監修）：認知症世界の歩き方，ライツ社，2021．ISBN：978 4909044327</p> <p>2）日本神経学会監修：認知症疾患診療ガイドライン 2017，医学書院，2017．ISBN：9784260028585</p> <p>3）大庭輝（著），佐藤眞一（著）：認知症 plus コミュニケーション 怒らない・否定しない・共感する，日本看護協会出版会，2021．ISBN: 9784818023413</p> <p>4）安武綾（著）：認知症 plus 家族支援：地域で安心して暮らすために，日本看護協会出版会，2020．ISBN: 9784818022744</p> <p>5）鈴木正典（編集）：認知症 plus 回想法 別冊写真集で振り返るあの頃の暮らし，日本看護協会出版会，2019．ISBN: 9784818022096</p> <p>6）鈴木みずえ（編集）：認知症 plus 転倒予防 せん妄・排泄障害を含めた包括的ケア，日本看護協会出版会，2019．ISBN: 9784818021808</p> <p>7）内門丈丈（監修） 認知症の人を理解したいと思ったとき読む本 正しい知識とやさしい寄り添い方（心のお医者さんに聞いてみよう）単行本（ソフトカバー） - 2018. ISBN: 9784804762975</p>	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<p>質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。</p> <p>フィールドワークの内容や方法については、別途提示する。</p>	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER111
単位数：	2単位	コマ数	30 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学実習 I （CNS 役割）				老年看護、高齢者、CNS 役割	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
花房 由美子		老人看護専門看護師／神戸市立医療センター中央市民病院		hanafusa@kcho.jp	
古谷 和紀		老人看護専門看護師／京都大学医学部附属病院		fururu_to0515@yahoo.co.jp	
学修目標					
・老人看護専門看護師が果たしている 6 つの役割（実践、教育、相談、調整、倫理、研究）を理解し、専門看護師として取り組むべき自己の課題を明確にすることができる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1・	老人看護専門看護師役割実習  【実習病院】 ・神戸市立医療センター中央市民病院 ・京都大学医学部附属病院	・老人看護専門看護師が実際の場面でどのように実践的な役割を果たしているのか、実践の意図や役割について理解する。 ・老人看護専門看護師のコンサルテーションに同行し、コンサルテーションに必要な知識や技術を理解する。 ・老人看護専門看護師が行っている調整的な役割について理解する。 ・老人看護専門看護師が行っているケアの質向上を目指した教育活動を理解できる。 ・老人看護専門看護師が行っている臨床における研究活動の実際を理解できる。 ・倫理的問題の解決に向けた老人看護専門看護師の果たす役割を理解できる。 ・老人看護専門看護師の役割開発と課題について考え、言語化することができる。 ・老年看護の質の向上にむけた組織内の活動を理解する。 ・自己の専門看護師像を描き、取り組むべき課題を明らかにする。			四谷淳子 花房由美子 古谷和紀
(方法) 実習目標を踏まえ、実習指導者と相談及びスーパービジョンを受けながら、自立して実習計画を立案し、それにそって実習を行う。日々の実習の学びを記録し、振り返りを行う。カンファレンス等では、実習目標達成に向けた取り組んだ実習内容を実習指導者や教員より助言をもらいながら統合させる。最終的に実習目標達成に向けての学びをレポートにまとめる。  実習施設の就業時間を参考に、実習開始・終了時間を決定する。教員は、実習全体の企画ならびスーパービジョンを行う。また、実習上での即決を必要とする調整がある場合、その任にあたる。さらに、教員は、最終日の					

カンファレンスに参加し、学生の学びを深められるように適切なアドバイザーとしての役割を担う。					
(実習スケジュール)					
	月	火	水	木	金
1週目	オリエンテーション 老人CNSに同行し参加観察			受け持ち対象者の紹介 情報収集	<b>中間カンファレンス</b> CNSとしての役割と機能の 学びを整理し、自習からの看 護計画を立案する。 受け持ち対象者の理解と看 護計画の立案。 指導者・教員からの指導をう ける。
	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	
2週目	老人CNSに同行し看護実践 する 受け持ち対象者への看護実 践	スーパービジョンを受けなが ら看護実践に活かす			<b>最終カンファレンス</b> CNSの活動、看護実践から の学びを発表。  今後の活動に向けた展望と 課題についてディスカッショ ンする。
	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	
<b>授業の形式</b>		<b>授業形態</b>			
実習		対面			
<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>					
・実習    ・プレゼンテーション    ・授業外学習の推進    ・ミニレポート    ・ディスカッション ・その他（                                  ）					
<b>到達目標</b>					
1. 個人・家族または集団に対する専門看護師の卓越した看護実践について説明できる。 2. 看護職者を含むケア提供者に対する専門看護師のコンサルテーション機能について説明できる。 3. 専門看護師が必要なケアを円滑に提供するために行う、保健医療福祉に携わる人々との調整機能について説明 できる。 4. 看護職者のケアを向上させるために専門看護師が果たすべき教育的機能について説明できる。 5. 専門看護師が行う倫理的な問題・葛藤についての関係者間の倫理的調整機能について説明できる。 6. 専門看護師が実践の場で行う、専門知識・技術の向上や開発を図るための研究活動について説明できる					
<b>準備学習（予習・復習）</b>					
1) 実習課題を明確にして実習計画を立て、実習施設を教員との調整のもと決定すること。 2) 実習に際しては、毎日、実習を振り返ると共に、翌日の行動計画を立案して実習に臨むこと。 3) 高度実践看護を提供するために、根拠となる知識を事前に調べたうえで実習に臨むこと。					
<b>成績評価方法</b>					
目標達成度、実践状況（看護実践能力を重視する）、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。レポ ートは、課題に即した倫理性・内容性・表現性を重視する。					
<b>成績評価基準</b>					
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格 として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。					

<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし。老年看護学特論Ⅰ～Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ～Ⅱの配布資料を活用する。必要時参考文献を紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<p>質問・相談は随時受け付けます。</p> <p>学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。</p>	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER212
単 位 数：	4 単位	コマ数	90 コマ	開講時期：	2 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学実習Ⅱ（急性期看護）				老年看護、高齢者、急性期治療、教育、 コンサルテーション、多職種連携、継続 看護、家族看護	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
古谷 和紀		老人看護専門看護師／京都大学医学部附属病院		fururu_to0515@yahoo.co.jp	
花房 由美子		老人看護専門看護師／神戸市立医療センター中央市民病院		hanafusa@kcho.jp	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"><li>急性期の複雑な看護ニーズをもつ高齢者とその家族について、身体・精神・生活等を総合的に評価する能力を高め、ケアとキュアを統合した質の高い看護が実践できる。</li><li>急性期の臨床状況において高齢者とその家族に遭遇する倫理的課題を解決するために、適切な意思決定ができるように倫理的調整を行うことができる。</li><li>急性期にある高齢者とその家族が希望する生活の場で生活ができるよう、家族・施設内外の保健医療福祉関係者に対し、調整を実施できる。</li></ul>					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1-	急性期における高齢者看護実習  【実習病院】 <ul style="list-style-type: none"><li>神戸市立医療センター中央市民病院</li><li>京都大学医学部附属病院</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>高度先進かつ総合的診療機能をもち診療ならびに看護を提供している病院で実習する。</li><li>急性期疾患によって入院加療中の複雑な健康問題を抱え、高度な看護実践能力を必要とする高齢者を、入院から退院まで受け持ち、フィジカルエクザミネーション、看護理論を基に幅広い視野で収集した情報、アセスメントを基に質の高い看護を展開する。</li><li>高齢者の持っている力を発揮できるように、医療チームの一員として連携して援助する。</li><li>受け持ち高齢者の看護計画を立案し、病棟指導者の指導を受け、自己の看護実践を病棟指導者や指導教員と共に検討する。</li><li>急性期にある高齢者とその家族に生じやすい倫理的問題を解決するために適切な意思決定ができるように支援することができる。</li><li>急性期にある高齢者の療養場所の移行に際し、高齢者と家族が希望する生活の場を把握し、最良の選択を行うための社会資源の把握、施設内外との調整をする。</li></ul>			四谷淳子 古谷和紀 花房由美子

(方法)

実習目標を踏まえ、実習指導者と相談及びスーパービジョンを受けながら、自立して実習計画を立案し、それにそって実習を行う。日々の実習の学びを記録し、振り返りを行う。カンファレンス等では、実習目標到達に向けた取り組んだ実習内容を実習指導者や教員より助言をもらいながら統合させる。最終的に実習目標到達に向けての学びをレポートにまとめる。

実習施設の就業時間を参考に、実習開始・終了時間を決定する。教員は、実習全体の企画ならびスーパービジョンを行う。また、実習上での即決を必要とする調整がある場合、その任にあたる。さらに、教員は、最終日のカンファレンスに参加し、学生の学びを深められるように適切なアドバイザーとしての役割を担う。

(実習計画)

実習は4週間とし、急性期治療をうける高齢者を2例受け持ち、高度な看護実践をする。

(実習スケジュール)

	月	火	水	木	金
1週目	病院の概要および実習関連部署のオリエンテーション 受け持ち対象者紹介 ケアとキューアの側面から情報収集・アセスメントを行う	受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキューアにもとづき看護計画・立案・実践を行う			<b>第1回 中間面接</b> ・教員と面接を行い、看護問題、看護の方向性、自己の課題について検討する ・指導者からスーパービジョンを受ける
	施設の教育プログラムに参加する				
2週目	看護計画提出 スーパービジョンを受けながら、看護計画にもとづき看護を実践する				<b>中間カンファレンス</b> ・実習指導者、教員とカンファレンスを行い、看護問題、目標、看護計画の適切性、必要な調整、倫理調整について、アドバイスを受ける ・看護計画の修正
	施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。				
3週目	修正した看護計画提出 修正した看護計画にもとづき看護を実践する	受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキューアにもとづき看護計画・立案・実践を行う。			<b>第2回 中間面接</b> ・教員と面接を行い、自己の課題について検討する
	施設の教育プログラムに参加する				
4週目	スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす 退院支援、高齢者とその家族に生じた倫理的課題の調整、教育・相談活動・ケア調整について実践する。				<b>最終カンファレンス</b> 実践した高度な看護実践・評価ならびに退院支援など実践した看護活動・評価、今後の課題を明確にする。 コンサルテーションの一連のプロセスについて、指導者・教員よりスーパービジョンを受け、看護実践能力を高めるための課題と解決策を見出す。
	施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。				CNSとしての教育活動のあり方について意見交換を行う。

授業の形式

・ 実習

授業形態

対面・ 遠隔（リアルタイム）



<b>アクティブ・ラーニングの導入状況</b>	
・実習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ディスカッション	
<b>到達目標</b>	
<p>1) 身体疾患・治療により危機的状況にある高齢者と家族に対する看護ならびアプローチを実践、評価できる。</p> <p>2) 急性期治療場における看護の質向上に必要な課題を見い出すことができる。</p> <p>3) 急性期治療場における看護の質向上のためのアプローチ方法を実習施設のスタッフと共に検討し、実践できる。</p>	
<p>1). 慢性期（急性増悪期を含む）～回復期を見すえた老人看護実践に必要な心身のアセスメント方法と回復期への移行を促進する看護実践方法を身につける。</p> <p>2). 老人看護専門看護師の指導を受けることを通し、医療機関で治療を受ける高齢者への包括的アセスメントの方法と高齢者の生活を整えるために必要な看護支援（家族の協力、サービスの利用を含む）を提供できる。</p> <p>3). ハイリスク要因の見極めや日常生活を送る上で起こり得る問題を予測し、高齢者のセルフケア能力（心身の整え方）を引き出す看護実践を考えることができる。</p>	
<b>準備学習（予習・復習）</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習要項を確認し、実習の目的・目標を理解しておく。また、実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制をホームページ等活用して情報を入手し確認しておく。</li> <li>・実習の目的・目標達成のための、具体的な実習計画（課題、受け持つ対象者像、日程と具体的な活動など）作成し、教員・臨地実習指導者と調整する。</li> <li>・実習に際しては、毎日、実習を振り返ると共に、翌日の行動計画を立案して実習に臨むこと。</li> <li>・高度実践看護を提供するために、根拠となる知識を事前に調べたうえで実習に臨むこと。</li> <li>・ケースカンファレンスを通して、資料を作成すること。</li> <li>・チームに必要と判断された教育課題に関する教育実施計画および学習会資料は事前に作成し、指導者と相談・調整すること。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b>	
目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし。老年看護学特論Ⅰ～Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ～Ⅱの配布資料を活用する。必要時参考文献を紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<p>質問・相談は随時受け付けます。</p> <p>学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。</p>	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER213
単位数：	4単位	コマ数	90 コマ	開講時期：	2 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学実習Ⅲ（認知症看護）				老年看護、高齢者、認知症看護、教育、 コンサルテーション、多職種連携、継続 看護、家族看護	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
未定					
菓子尾 美保		認知症看護認定看護師／福井勝山 総合病院		Kashio-miho@fukui.jcho.go.jp	
学修目標					
病院や施設で生活する認知症高齢者に対し、最先端の認知症の診断・検査・治療を学びながら、認知症の状態と心身の状態を包括的にアセスメントし、倫理的判断に基づいて、その人らしさを発揮した、認知症の症状・経過に応じた高度な専門的看護実践能力を修得する。また、多職種・他機関と連携・協働ができる能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1・	認知症高齢者看護実習  【病院実習（2単位）】  【実習病院】  ・金沢医科大学病院  ・（検討中）  				

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 福井勝山総合病院附属 介護老人保健施設</li></ul>	<p>評価の看護過程を実践する。教員や臨床指導者のスーパービジョンを受け、安全性も考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 看護師だけでなく、介護職員、介護支援専門員等の他職種に対しても意見交換を行い、老人看護専門看護師としての役割を自覚し、チームケアの質を向上するための取り組みについて考える。</li><li>・ 受け持ち対象者だけでなく、他の対象者にも目をむけ、積極的に認知症看護の実践を行う。</li><li>・ 認知症高齢者の倫理的判断を必要とされる看護場面で、倫理基準等にもとづいて適切な倫理判断と関係者間の倫理的調整と意思決定の支援を行う。</li><li>・ 介護保険制度のなかでの施設の役割や機能を考慮し、場のニーズを踏まえたケアの質向上をもたらすスタッフ教育計画を企画・実践する。</li></ul>																																	
<p>(方法)</p> <p>実習目標を踏まえ、実習指導者と相談及びスーパービジョンを受けながら、自立して実習計画を立案し、それにそって実習を行う。日々の実習の学びを記録し、振り返りを行う。カンファレンス等では、実習目標到達に向けた取り組んだ実習内容を実習指導者や教員より助言をもらいながら統合させる。最終的に実習目標到達に向けての学びをレポートにまとめる。</p> <p>教員は、最終日のカンファレンスに参加し、学生の学びを深められるように適切なアドバイザーとしての役割を担う。</p>																																			
<p>(実習スケジュール)</p> <table><tr><th></th><th>【病院実習】</th><th></th><th></th><th></th><th></th></tr><tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th></tr><tr><td rowspan="2">1週目</td><td>病院及び実習関連部署のオリエンテーション  <b>認知症センター見学実習</b> 認知症高齢者への検査・診断・治療の見学を通して、各職種の先駆的な取り組みを学ぶ</td><td><b>認知症センター見学実習</b> 集団指導・相談、地域連携の場に参画し、生活の再構築に必要な環境調整と家族支援の実践を学ぶ  受け持ち対象者紹介 ケアとキューアの側面から情報収集・アセスメントを行う。</td><td>受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキューアにもとづき看護計画・立案・実践を行う。  <div>高齢者とその家族に適切な退院支援を実践するために、包括的なアセスメントを進める。</div></td><td></td><td rowspan="2"><b>中間カンファレンス</b> CNSとしての役割と機能の学びを整理し、自習からの看護計画を立案する。 受け持ち対象者の理解と看護計画の立案。 指導者・教員からの指導をうける。</td></tr><tr><td></td><td>カンファレンス 病院内の教育プログラムに参加する</td><td>カンファレンス</td><td>カンファレンス</td></tr><tr><td rowspan="2">2週目</td><td>老人CNSに同行し看護実践する受け持ち対象者への看護実践  退院支援、高齢者とその家族に生じた倫理的問題の調整、教育・相談活動・ケア調整について実践する。</td><td>スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす  カンファレンス</td><td></td><td></td><td rowspan="2"><b>最終カンファレンス</b> CNSの活動、看護実践からの学びを発表。 今後の活動に向けた展望と課題についてディスカッションする。</td></tr><tr><td>施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。</td><td>カンファレンス</td><td>カンファレンス</td><td>カンファレンス</td></tr></table>					【病院実習】						月	火	水	木	金	1週目	病院及び実習関連部署のオリエンテーション  <b>認知症センター見学実習</b> 認知症高齢者への検査・診断・治療の見学を通して、各職種の先駆的な取り組みを学ぶ	<b>認知症センター見学実習</b> 集団指導・相談、地域連携の場に参画し、生活の再構築に必要な環境調整と家族支援の実践を学ぶ  受け持ち対象者紹介 ケアとキューアの側面から情報収集・アセスメントを行う。	受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキューアにもとづき看護計画・立案・実践を行う。  <div>高齢者とその家族に適切な退院支援を実践するために、包括的なアセスメントを進める。</div>		<b>中間カンファレンス</b> CNSとしての役割と機能の学びを整理し、自習からの看護計画を立案する。 受け持ち対象者の理解と看護計画の立案。 指導者・教員からの指導をうける。		カンファレンス 病院内の教育プログラムに参加する	カンファレンス	カンファレンス	2週目	老人CNSに同行し看護実践する受け持ち対象者への看護実践  退院支援、高齢者とその家族に生じた倫理的問題の調整、教育・相談活動・ケア調整について実践する。	スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす  カンファレンス			<b>最終カンファレンス</b> CNSの活動、看護実践からの学びを発表。 今後の活動に向けた展望と課題についてディスカッションする。	施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
	【病院実習】																																		
	月	火	水	木	金																														
1週目	病院及び実習関連部署のオリエンテーション  <b>認知症センター見学実習</b> 認知症高齢者への検査・診断・治療の見学を通して、各職種の先駆的な取り組みを学ぶ	<b>認知症センター見学実習</b> 集団指導・相談、地域連携の場に参画し、生活の再構築に必要な環境調整と家族支援の実践を学ぶ  受け持ち対象者紹介 ケアとキューアの側面から情報収集・アセスメントを行う。	受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキューアにもとづき看護計画・立案・実践を行う。  <div>高齢者とその家族に適切な退院支援を実践するために、包括的なアセスメントを進める。</div>		<b>中間カンファレンス</b> CNSとしての役割と機能の学びを整理し、自習からの看護計画を立案する。 受け持ち対象者の理解と看護計画の立案。 指導者・教員からの指導をうける。																														
		カンファレンス 病院内の教育プログラムに参加する	カンファレンス	カンファレンス																															
2週目	老人CNSに同行し看護実践する受け持ち対象者への看護実践  退院支援、高齢者とその家族に生じた倫理的問題の調整、教育・相談活動・ケア調整について実践する。	スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす  カンファレンス			<b>最終カンファレンス</b> CNSの活動、看護実践からの学びを発表。 今後の活動に向けた展望と課題についてディスカッションする。																														
	施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス																															

【施設実習】					
	月	火	水	木	金
1週目	介護老人保健施設及び実習に関連する部署・施設のオリエンテーション	受け持ち対象者の生活の質、尊厳を尊重し、認知症の症状・経過に応じた看護計画・立案・実践を行う。		施設内でのアクティビティケアを実践	中間カンファレンス CNSとしての役割と機能の学びを整理し、自習からの看護計画を立案する。
	受け持ち対象者紹介 専門知識を用いて包括的にアセスメントする。				受け持ち対象者の理解と看護計画の立案。 指導者・教員からの指導をうける。
		カンファレンス 施設の教育プログラムに参加する	カンファレンス	カンファレンス	
2週目	看護師・介護スタッフに同行し看護実践する	スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす  施設内での担当者サービス担当者会議の参加			最終カンファレンス CNSの活動、看護実践からの学びを発表。 今後の活動に向けた展望と課題についてディスカッションする。
	受け持ち対象者への看護実践				
	施設の教育プログラムを企画し実施する。（看護師、介護スタッフへの教育）	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	

授業の形式	授業形態
・実習　・実技	対面　・　遠隔（リアルタイム）

アクティブ・ラーニングの導入状況
・実習　　・問題解決型学習　　・プレゼンテーション　・グループワーク　　・ディスカッション

到達目標
1. 受け持ち高齢者とその家族の状況と診断や病態、治療方針から包括的にアセスメントし、受け持ち高齢者とその家族の健康課題を説明できる。
2. 認知症高齢者と家族へのケア内容やケア提供システムについて現状を把握し、病棟または施設ケアチームと共により良い方向に向けたケア提供について検討できる。
3. 認知症高齢者が入院・入所や施設利用している医療機関または施設の特性、看護部と病棟が目指す看護理念を理解し、実習計画を立案できる。
4. 受け持ち高齢者とその家族の担当看護師と共に、治療処置と生活支援を統合した看護目標を設定し、共有する。
5. 研究的視点を持って、担当看護師と共に、老人看護専門看護師にコンサルテーションしながら、病棟・施設のケアチームの意見を取り入れ、認知症高齢者とその家族が尊厳をもち生活が送れるよう看護実践できる。
6. 担当看護師と受け持ち高齢者とその家族と共に、在宅・病院・施設への移行を視野に入れて、倫理的な意思決定を含む具体的な援助方法に関して合意形成できる。　担当看護師と協働して、実践した看護を振り返り、評価できる。
7. 受け持ち高齢者とその家族に関連した老人看護専門看護師の 5 つの役割（コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）において、老人看護専門看護師のサポートを受けながら、参加する。
8. スタッフ教育の役割については、老人看護専門看護師のサポートにより一部実施する。
9. サブスペシャリティとしての認知症高齢者看護としての直接ケアを実践すると共に、専門看護師の 6 つの役割遂行時、状況に応じて、タイムマネジメントしながら動くことができる。

準備学習（予習・復習）
・実習要項を確認し、実習の目的・目標を理解しておく。また、実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制をホームページ等活用して情報を入手し確認しておく。
・実習の目的・目標達成のための、具体的な実習計画（課題、受け持つ対象者像、日程と具体的な活動など）作成し、教員・臨地実習指導者と調整する。
・実習に際しては、毎日、実習を振り返ると共に、翌日の行動計画を立案して実習に臨むこと。
・高度実践看護を提供するために、根拠となる知識を事前に調べたうえで実習に臨むこと。
・ケースカンファレンスを通して、資料を作成すること。
・チームに必要と判断された教育課題に関する教育実施計画および学習会資料は事前に作成し、指導者と相談・調整すること。

成績評価方法
目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。

<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
指定なし。老年看護学特論Ⅰ～Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ～Ⅱの配布資料を活用する。必要時参考文献を紹介する。	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
<p>質問・相談は随時受け付けます。</p> <p>学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。</p>	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62GER214
単位数：	2単位	コマ数	15コマ	開講時期：	1・2年次通年
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学課題研究				老年看護、高齢者	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
青木 未来		助教／コミュニティ看護学		m-aoki@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
・老年看護学における研究課題を設定し、研究を実施し、論文を完成し公表することを通して専門看護師としての実践上の課題を解決するための研究能力を養う。					
・まだ解決されていない看護上の課題に対する、科学的手法を用いた解決方法を修得する。					
・看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な看護を開発するための基礎的研究能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	研究課題とテーマの設定	フィールドワークおよび実習において見つけた看護実践の疑問や課題を研究課題として絞り込み、研究意義を明確化する。  研究課題に関する系統的レビューから、研究テーマと目的を設定する。			四谷淳子 青木未来
2	研究計画書の作成 (倫理審査含む)	研究目的に適切な研究デザインを検討する。  研究目的・研究デザインを踏まえて研究計画を立案する。  計画した研究実施に際しての倫理的配慮を検討する。			〃
3	データ収集および分析	研究計画に基づき、データ収集し分析する。			〃
4	研究論文の作成	分析結果について先行研究との比較を基に考察を深め、論理的に論文を作成する。			〃
5	研究論文の発表	作成した論文の骨子から簡潔明瞭なプレゼンテーション資料を作成し、  研究成果を発表する。			〃
授業の形式				授業形態	
演習 ・ 実験				対面 ・ 遠隔 (リアルタイム)	
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・実験／演習 ・ プレゼンテーション ・ ディスカッション					
到達目標					
1. 先行研究を踏まえて、老年看護実践の質向上に寄与する研究課題について論述できる					
2. 「人を対象とする医学系研究における倫理指針」を踏まえた研究計画書が作成できる					
3. データ収集及びデータ分析ができる					
4. 結果から新たな知見を説明できる					
5. 先行研究を踏まえて結果を適切に考察できる					

<b>準備学習（予習・復習）</b>	
○予習 老年看護に関する文献を検索・レビューし、クリティークの基準に沿ってプレゼンテーション資料にまとめる。 研究計画立案、実施及び論文記述に関して毎回、課題をまとめる	
○復習 討議の内容を整理し資料にまとめる。	
<b>成績評価方法</b>	
研究プロセスを通して、その取り組む姿勢、最終修士論文内容と発表状況により教員が評価の上、総合的に評価する。	
<b>成績評価基準</b>	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
<b>教科書及び参考書</b>	
参考図書 1) Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb., et al : The Craft of Research, Univ of Chicago Pr; Reprint 版, 2016. ISBN: 9780226239736 2) D. F.ポーリット, C. T.ベック, 近藤潤子 (翻訳): 看護研究 第 2 版—原理と方法, 医学書院, 2010. ISBN:9784260005265 3) アメリカ心理学会 (APA), 前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦 (翻訳): APA 論文作成マニュアル第 2 版, 医学書院, 2011. ISBN: 9784260012201	
<b>その他履修上の注意点等</b>	
質問・相談は随時受け付けます。学生の主体的な取り組みに期待する。学生相互に学び合う機会とする。アカデミックディスカッションの意味を考えながら、取り組む。	
<b>代表者</b> (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp